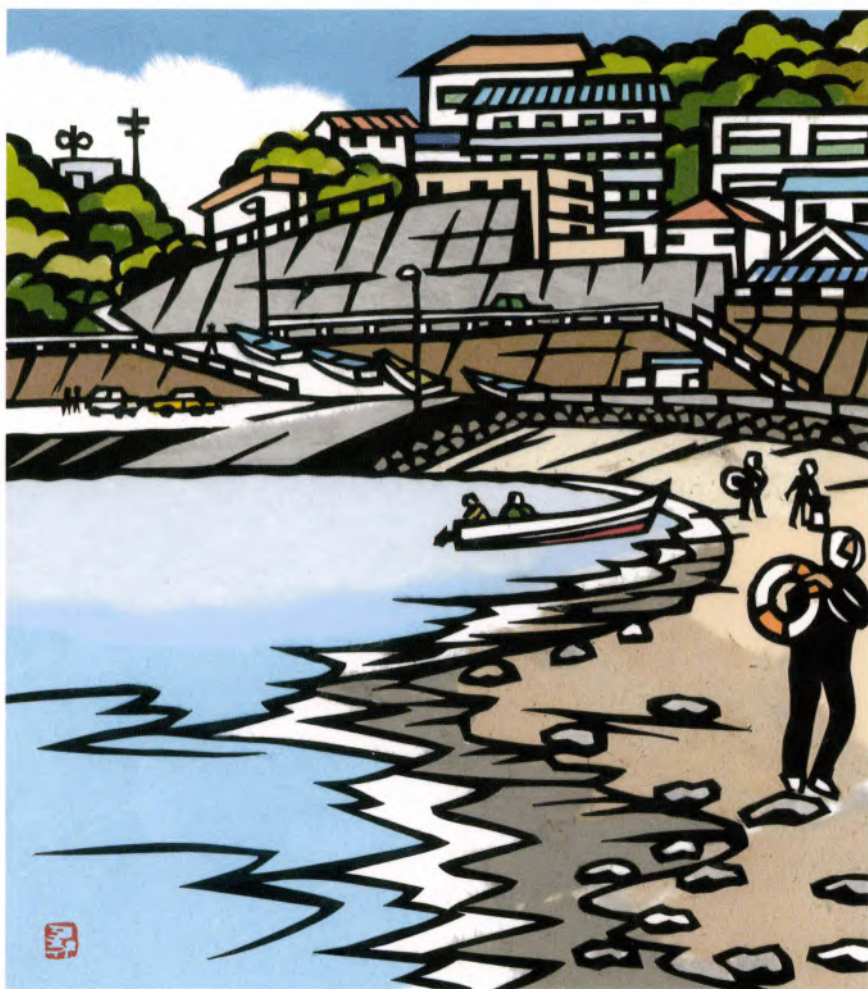


# 川柳塔

創刊大正十三年 通卷一一〇七号



日川協加盟

No.1107

八月号

# 川柳雑誌社・川柳塔社創立 95 周年記念 第25回 川柳塔まつり

と き 2019年9月28日(土)

開場：午前11時 出句締切：正午 開会：午後1時

と ころ ホテル アウィーナ大阪 4階 金剛の間

大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12 (近鉄上本町・地下鉄谷町九丁目下車) 電話 06-6772-1441

《 同 人 総 会 ・ 議 事 》午前10時より

2018年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2019年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《 各賞表彰式・記念句会 》

表 彰 式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし 「路郎という山」 川柳塔社 栗原道夫氏

兼 題 「支える」 川柳塔社 川上大輪選

「ハート」 川柳塔社 木本朱夏選

「いきなり」 川柳塔社 新家完司選

「街・町」 川柳宮城野社 雫石隆子選

「待つ」 番傘川柳本社 田中新一選

事前投句 「酒」(8月30日必着) 川柳塔社 主幹 小島蘭幸選

◎各題2句・勝手ながら欠席投句は拝辞させていただきます

出句締切 正 午 (午後5時頃終了予定) ※各題の「天」位に賞呈

◎会 費 2,000円 (当日頂きます) ご昼食は各自でお済ませください

◎ 呈 記念品

《 懇 親 宴 》

と き 2019年9月28日(土) 午後5時～7時

と ころ ホテル アウィーナ大阪 3階 葛城の間

☆会 費 7,000円 先着申込み 130名様

\* 事前投句および懇親宴のお申込はチラシに刷りこみのハガキ(ご希望の方は事務所)にて  
8月30日(金)までに本社事務所宛、お送りください。

\* 懇親宴のご送金(会費除く)は同封の振込用紙でお願い致します。

主 催 川 柳 塔 社

大阪市天王寺区大道1丁目14-17-201  
〒543-0052 ☎・FAX 06-6779-3490  
振 替 00980-4-298479

## 95周年記念大会を前に

小島 蘭 幸

麻生路郎先生の文学碑、比翼の句碑は、平成13年7月7日、尾道市志賀直哉旧居前の文学公園に建立、除幕されました。

句碑建立から18年、今年も路郎先生の命日である7月7日に尾道川柳会の皆様と一緒に麻生路郎句碑まつりを開催致しました。

私は比翼の句碑に竹原の地酒、ワンカップを御供えして、その中の一つを句碑に注ぎました。そして9月28日に開催する川柳雑誌・川柳塔社創立95周年記念第25回川柳塔まつりの盛会を祈念しました。

おれに似よ俺に似るなと子をおもひ  
飲んで欲しやめてもほしい酒をつぎ 路郎 葎乃

御礼の挨拶では、比翼の句碑を読み上げて、昭和42年7月9日、自安寺で開催された路郎忌句会で初めて葎乃先生にお会いした時のことを話させていただきました。

句碑まつりの後は、尾道国際ホテルで路郎先生を

偲んで皆様と一緒に食事をしました。私は瀬戸内の新鮮な魚の刺身、煮魚をいただきながら幼少時代を尾道で過ごされた路郎先生をしみじみと偲ぶことが出来ました。

句碑まつり夜は路郎と酒を酌む 蘭 幸

句碑まつり、会食を終えて、自宅での夕食はふわりと降りてこられた路郎先生と、楽しかった一日を振り返りながら美味しいお酒を酌み交わしたのでした。

現在、尾道の文学室では麻生路郎展が開催されています。

だしぬけに鐘が鳴るのも旅のこと 路郎

私も久し振りに路郎先生直筆の色紙、短冊と川柳浴衣を見に行こうと思っています。

さけとろりとろり大空のころかも 路郎

95周年記念大会で、私は事前投句「酒」の選を致します。8月30日必着、欠席投句は拝辞となっております。一生懸命選句致しますのでご応募よろしくお願い致します。

9月28日（土）の記念大会のご出席心からお待ちしております。

座右の句

消えるから雪は刹那を淨く舞い

(鬼遊)

私の句

戻りたい昭和忘れたい昭和

高杉 力

## 川柳塔 八月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「志麻相差港」

### ■巻頭言 95周年記念大会を前に

「令和」への参加

小島 蘭 幸 ……(1)  
仁部 四郎 ……(2)

川柳塔(同人吟)

小島 蘭 幸 選 ……(4)

川柳塔の川柳讃歌<sup>①</sup>

木津 川 計 ……(40)

橘高薫風句抄

木津 川 計 ……(41)

自選集

木津 川 計 ……(42)

温故知新

木津 川 計 ……(45)

水煙抄

西出 楓 楽 選 ……(46)

俳風柳多留一二篇研究 74

西出 楓 楽 選 ……(64)

英語 de Senryu<sup>②</sup>

吉村 侑 久 代 ……(66)

せんりゅう飛行船<sup>③</sup>

新家 完 司 ……(67)

愛染帖

新家 完 司 選 ……(68)

檸檬抄「普通」

川端 一 歩・山岡富美子共選 ……(72)

## 「令和」への参加

仁部 四郎

新元号が「令和」と発表された日、私は普段使っている旺文社の『高校基礎漢和辞典』の頁を繰った。「令」が気になったのである。

翌日の新聞を読んで新元号を理解し納得したが、辞典の奥付を見てまた考えこんだ。発行は、一九八四年初版発行となっていて、カッコ付きにしても「昭和」がない。おどろきであった。

創元社の『川柳歳時記』は、昭和五十八年で、西暦は付いていない。ナツメ社の『俳句歳時記』は二〇一〇年初版発行だが元号は付いていない。角川書店『日本俳句歳時記』は平成五年が初版で西暦は付いていない。NHKの『NHK短歌』は元号がカッコ付きである。

一九四五年(昭和二十年)八月以降日本国憲法の成立を経て、元号は政治的な機能を失ったことになっていったのだが、いわば伏流水のようにして一定の働きをしていたと私は認識している。「昭和」から「平成」になつての明仁天皇は、「象徴



|                            |                |       |
|----------------------------|----------------|-------|
| 一路集「荒れる」                   | 堀 正和選          | (76)  |
| 「湯」                        | 宮野みつ江選         | (77)  |
| 初歩教室「内緒」                   | 居谷真理子          | (78)  |
| 川柳塔鑑賞                      | 斉尾くにこ          | (80)  |
| 水煙抄鑑賞                      | 坂 裕之           | (82)  |
| 全日本川柳浜松大会結果                |                | (83)  |
| 『麻生路郎読本』余滴 <sup>(53)</sup> | 栗原道夫           | (84)  |
| インスピレーション・ナビ 印象吟           | 大西泰世           | (86)  |
| 路郎賞・川柳塔賞 選考規定              |                | (88)  |
| 七月本社句会                     |                | (90)  |
| 句会燦燦                       | 板垣孝志           | (94)  |
| 各地柳壇(佳句地十選/石橋芳山・山田葉子)      |                | (95)  |
| 八月各地句会案内                   |                | (108) |
| 川柳塔WEB句会「何か」               | なかはられいこ・川上大輪共選 | (110) |
| 柳界展望                       |                | (111) |
| ■編集後記(ひとこと/松本文子)           | 朱夏・勝弘          | (116) |

座右の句

でもそれは昔のことよ箸を置く

(浪子)

私の句

いつまでも未完地球の物語

中村伸子

れ 連綿と  
い 祈る平和へ  
わ 和する聲

天皇制の体現者」として大きな政治的事蹟を遺されたと日本の歴史に記録されるにちがいない。

大相撲で言えばとは失礼な表現になるかとも思うが、殊勲、技能、敢闘の三賞をさしあげたいと、昭和七年生まれの私は思うのである。

四月二十九日のNHKテレビで「皇后四代」を見た。昭憲皇太后、貞明皇后は映像で見ることが少ないだけに、お二人の事蹟を知って感銘を受けた。

二〇年ぐらいいも前のことだろうか、日本共産党が、日本国憲法の下での天皇制の存続を容認する方針であるとの見解のニュースに接してホッとした記憶がある。

明治以降の川柳界に大きな足跡をのこした井上剣花坊に、「大正天皇御大典観兵式」と前詞のある「咳一つきこえぬ中を天皇旗」の句があり、『井上剣花坊・鶴彬』(リプロボート・一九九〇)には坂本幸四郎の解説がある。

それに比べるつもりはないが「令和」で折り句ができた。



## 小島蘭幸選

弘前市 稲見則彦

令和の鐘永久の平和の響きたれ

サバ缶の味比べする老い二人

口ケ隊に今時の子は驚かぬ

虹が棲む瞳と言われたのは過去

着地点きつとアナタの胸である

おーいまだか地獄の方で声がする

榎原市 居谷真理子

少年と少女出会ったのは五月

翩翻と老女の胸に鯉のぼり

書肆というこの日本語に似合う本

狙うのはカラカラ笑う喉仏

君の目の中の私を見ているの

染まるなよ染まるな白い夾竹桃

尼崎市 山田耕治

二次会で四角を丸にしましょうか

口笛を吹き八十の誕生日

朝礼の小学校を見て通る

人生のおまけ楽しい日が続く

大好きな五月だ早起きをしよう

枕許に読みかけの本二三冊

米子市 吉田陽子

充電が完了緑色まとう

出迎えてくれる句碑あり月参り

いたずらな遣伝子を持ち気が抜けず

時代劇わたしのゴールデンタイム

Tシャツは丸首夏を押し通す

家族写真へ犬が一番嬉しそう

倉吉市 牧野芳光

花いちもんめ あの頃の夢もう見ない

ボランティアかも老人と立ち話

老醜がにじみ出ぬよう口すすぐ

風切羽根抜け七十の坂登る

連ドラの残り時間を見てしまう

ピテカントロプス残されたのは神のミス

土佐清水市 辻内次根

友達に会ったすっかり老けていた

耳の奥夜の流れる音がする

疲れるとわかる微かな上り坂

今週も幟はためく簗売場

月を見てまだ浮かばない辞世の句

広辞苑みどりの風の散歩道

桜井市 安土理恵

ほめられたい歯ですニコツと笑います

脳が壊れた時が逆走しはじめた

靴をそろえて脱いでくれたらいい夫

豆の花老いにも元氣くれました

初採りのきゅうりも腰を曲げている

はたるぶくろに灯がともったら誕生日

大阪市 谷口義

おばあさんはいつも素面で生きてます

ケセラセラお花は未生流でした

病名は分からないけど薬飲む

自分でも笑える歳になりました

運動不足は自覚しております

右も左も分かりませんが魚座です

松原市 森松まつお

普段は無口飲むほどにやかましい

今見ても枝雀はやはり面白い

こんな時妻のトリセツあればなあ

大阪弁闊歩できない街となり

家族会議議長を決めるジャンケンポン

不揃いの家具それぞれにある想い

豊中市 藤井則彦

絵手紙を貰うと弾む小半日

コーヒーより紅茶が好きな人と午後

一強の緩みに民もゆるみ出し

八十年駆けて分かった人の業

あやかってみたい夜明けの猫の恋

あの世の夢見ていてベッド転げ落ち

奈良県 渡辺富子

アバウトに帳尻合わせ生きのびる

石庭に座して感性研ぎ澄ます

物忘れ一氣にとつと攻めてくる

老いの愚痴黙って月は聞いてくれ

古い記憶たどれば夜が明けてくる

終章は計算通り無に還る

岡山市 永見心咲

発芽までえこひいきなく水をやる

露草の先よりこぼれ落ちる哀

沈黙を通すフラスコの底で

水玉のワンピースから夏に入る

さし出された腕なら一度ぶら下がる

甘言は忘れていないふかし芋

藤井寺市 高田 美代子

光と陰よ六月のシャボン玉  
令和元年されど昭和史の重み  
追憶のページにあの人が笑う  
いのちばんざい時々思う時がある  
父の日が近い明治の父偲ぶ  
日本を襲ける人を探さねば

東かがわ市 川崎 ひかり

亡夫の名がまだ載っている電話帳  
スマホ手にのつべらぼうになるヒト科  
元気の合図二回鳴らして切る電話  
リズムカルスマホ操る孫の指  
今は昔愛を繋いだ赤電話  
再放送おしんに涙あふれ出る

羽曳野市 吉村 久仁雄

引き算はしないどの子にもある長所  
哲学をかじり生き方コクが出る  
幸せの欠片で今は暖を取る  
知らん顔すると幸せ寄って来る  
時代には合わず靴ずればかりする  
有限の命忘れるために飲む

札幌市 三浦 強 一

シナリオは白紙令和の陽が昇る  
令和フイーバー商才が走り出す  
婚姻届持って待ってた令和婚

一強の蓋を開ければ腐敗臭  
寅さんと日本の祭り見て回る  
父の背の見様見真似で来た米寿

堺市 矢倉 五月

同病の文字恐ろしい死亡欄  
ポロポロ涙心のメイクはげてゆく  
爆笑の渦巻き起こす程の法螺  
好奇心膨らませます夕焼けに  
商家の子何をするのも手早くて  
解決を時間にゆだねた亡母思う

広島市 岸本 清

長寿化と言いかえましょう高齢化  
雨上り澄んだ空気の甘いこと  
ぎこちなくスマホ操る喜寿の指  
人間のモラル低下が止まらない  
常識は通用しない温暖化  
旨すぎる話見抜けぬ高齢者

高槻市 富田 保子

銀行に客が居ないと落ちつかぬ  
次男から気づかい届く母の日に  
老人の話にいつも咳が出る  
雑巾がタオルの頃を懐かしむ  
検診の結果三つに安堵する  
元氣そう元氣な人は軽く言う



松江市 石橋芳山

生き方の違いに夜の使い方  
猫パンチくらって咳が止まらない  
仕事だと言ひ聞かせてのバカ笑い  
新月の海へと怒鳴り声上げる  
選択の迷いにシャボン玉消えた

松江市 藤井寿代

大笑い心の闇が晴れるまで  
丸くならうなろうといつもとんがって  
お金のない者は皆死ねと言う  
いい事がないかと地球叩いて見る  
孫二十歳私も順調に化けました

松江市 松本知恵子

浅漬けの胡瓜サクサク初夏になる  
あじさいが咲く亡姑のやさしい顔に  
そして四年亡姑の服着て過ごして  
うっかりと話す墓場までの話  
金持ちのおもしろ話聞かされる

松江市 松本文子

仮の世も辛く時々胸さする  
祝儀包むのも断捨離の一つかな  
神話の国で時々神とケンカする  
眩暈かと思つたら地震だった  
家庭内暴力とまでいかなないが

久々の再会鉦弾け飛ぶ

出雲市 伊藤玲峰

逆転だ命拾つた徳俵  
縄のれん愚痴食うママが居て楽し  
帽子斜に苦手なお方遣り過す  
竹の撓り芯の強さが欲しくなる

出雲市 岸桂子

アリバイは全部暦に書いている  
摘んだ芽が大輪だったかも知れぬ  
思い切り笑えるように歯を磨く  
ヒントだけ与えて若い樹を伸ばす  
老斑の手に一行が重すぎる

雲南市 菅田かつ子

老木の意見を聞きに来た鳥  
あれこれへ手抜き上手になつて老い  
俄か雨急げいそげと言つたとて  
あれあれあれよさつと言葉が出てこない  
颯爽と歩く姿の眩しさよ

島根県 伊藤寿美

はは一人島に残した銅鑼の音  
空き屋になつた生家の壁はバンクシー  
行方不明の希望を探す土手の道  
ブラックにミルクが溶けてゆく妥協  
ガンバッタナ亡夫の声聞く十七忌

岡山市 大石 洋子

笠岡市 藤井 智史

数グラムの錠剤飲んで生きている  
生温い茶を飲みゆるく生きていく  
脱ぎすてた服の温もり抱きしめる  
かたつむり批評する目をひっこめて  
「えっ」進化したAIだけがいる地球

岡山市 工藤 千代子

便箋に叱られました手を洗う  
飛行機雲可も不可もなく幸せ  
通り雨去れば否定はいたしません  
今日のこと弱気になった今日のこと  
神さまがまた順番を間違える

岡山市 丹下 凱夫

心電図からはみ出している命  
丁寧に生きたつもりへの曲がり  
一日中顔を合せている無聊  
ステテコを穿くと父さんらしくなる  
一輪車の少年駆けちゃった

岡山市 前田 恵美子

吹く風はまだ平成の味がする  
喜んだ背中はずっと伸びている  
青空はどうにかなると笑っている  
普段着を買えば私に合う暮し  
夫と行く映画と寿司の休日

！？が続く恋終わる  
ワイルドな顔にて帰宅夜勤明け  
役一つ終えて本領発揮する  
背中からわたしの春がやって来る  
ハートマークの無い真っ白な予定

岡山市 高岡 茂子

大太鼓と児は格闘の体育祭  
やりきった孫の白い歯ひかってる  
幸せをまき戻しする写真集  
使わずにすむこと祈るブルーシート  
草取りは今日は休めと雨の音

岡山市 田中 恵

ブツブツが大黒柱から漏れる  
お人好し軽く請け合う癖がある  
雨の日はゆっくりお茶に花が咲く  
食べ過ぎも運動不足も当てはまる  
認知症の笑顔が写し出す家庭

岡山市 藤澤 照代

手料理で迎えてくれた郷の友  
媚びる気のない雑草が逞しい  
アンパンマンの着メロが鳴る老人会  
綿毛にも覚悟があった放浪記  
略歴に親孝行と書いておく

岡山県 山 縣 のぶ子

家中の空気が踊る子等が来る  
ドンと来い大法螺吹いて待っている  
置きみやげのカップで思い出飲んでいる  
アリバイが完璧過ぎて油断する  
土砂降りへ蛇の目の母を懐かしむ

竹原市 岩 本 笑 子

天井のシミが気になる梅雨晴れ間  
起きろ起きろと今朝のウグイスは  
病いとの付き合いこれから長い  
一日が終る雨が降っている  
少し良くなったと勝手に思う

三原市 鴨 田 昭 紀

アナログで新元号について行く  
真つ当な橋を若さが踏み外す  
昭和史を叱る敗戦の傷痕  
脈々と時が流れる音を聴く  
老体にメンテナンスは欠かせない

岩国市 上 村 夢 香

意を決し戒壇めぐりそろそろと  
平然と歩くふりして渦の道  
平等院耳に飛び込む外国語  
夢だけは膨らんでいく道半ば  
さだまさし涙涙のトークショー

宇部市 平 田 実 男

朝が来ることを信じて床に就く  
エンピツを削ったナイフ今凶器  
美人より悪女男の気をそそる  
弟が兄への言葉ありがとう(兄天国へ)  
悔いのないような遺影へ救われる

下松市 有 海 静 枝

削除キーだけで関係閉じました  
繋がれたチューブの命まま命  
ブチまでで止まらなかったおせっかい  
どん底でなければ知らずに済んだ瀬  
寄り添えていますかおせっかいですか

防府市 坂 本 加 代

生きるもの一期一会に香をまとう  
門の中でひとりのパラダイス  
改元に昭和平成まだ生きる  
老人もスマホ決済出来るよう  
干からびて吸収力がアップする

鳥取市 池 澤 大 鯨

タンクトップ少し崩して普段着に  
暦見てくらしのリズム取り戻す  
マスコミが大詰めというそうだろう  
倦怠期なげやり気分お互いに  
そこはかと人の気配居留守かも

鳥取市 奥田由美

無料化より増設たのむ保育園  
断捨離の袋をあける衣更え  
政治家が本音漏らすと外される  
誕生石にダイヤが欲しい十二月  
七十余年戦死の遺骨届かない

鳥取市 加藤茶人

魔法から覚めるとそこは二日酔い  
ぜい沢な悩みを美人持て余し  
公害と言う怨念を知る農地  
聴診器恋の鼓動を聞けますか  
生かされて居る実感の手術台

鳥取市 岸本宏章

八十路坂スイッチバックして登る  
人生也大詰め眠いときは寝る  
買物弱者免許返してみて分かり  
ありがたい時間指定で荷が届く  
胸に棲む強気弱気がバトルする

鳥取市 岸本孝子

母の日に不孝を詫びる墓参り  
線香の匂いだよう寺の路地  
生き方を背で教える父だった  
野の花が野で見てくれと咲いている  
いい知恵は一か八かの時に湧く

鳥取市 倉益一瑤

まわれ右して青春を拾いたい  
泣きそうな私に空が晴れて来る  
ちちははに逢いたくなつた豪雨の日  
満点のあなたが何故か気に入らぬ  
現実に刃向かう老いの紙礫

鳥取市 田賀八千代

居場所には黄色の布を付けておく  
さよならの兆しときめく色が消え  
延命治療するな答は決めてある  
アンケートの返答みんな丸しとく  
ありのまま写るとケチをつけてきた

鳥取市 田中天翔

ボーとして生きてキヨロキヨロ見れば喜寿  
天然のボケですいつもありのまま  
かじか鳴く美歎<sup>みかな</sup>ダム湖にいい眠り  
防虫剤取り替えサイン出たまんま  
ヒヨドリに裾分けしてる夏野菜

鳥取市 棚田大

子どもの日けど鯉幟どこ行つた  
山々の緑に見惚れ飲み忘れ  
解り合う心生まれて居場所でき  
あちこちに居場所あるのに感謝せぬ  
ありのままそれにこだわりやつればて

鳥取市 谷口 回春子

右見ても左を見ても釈迦の指  
故事成語明日はわが身の羅針盤  
ほっとするBGMは雨蛙  
弱音など吐かぬ夫のいじっぱり  
叱られた孫の居場所は爺の膝

鳥取市 永原 昌 鼓

細々と八十路を生きるありのまま  
古い進み居場所だんだん狭くなる  
シェフの腕変わると違う寿司の味  
古い独り少しの音にギョツとする  
長雨も困るが空梅雨も困る

鳥取市 中村 金 祥

AIに命預けるのも恐い  
終末の時計静かに時刻む  
ツアー客になれば脚など痛くない  
社会性養うために医者通い  
ぐずぐずへ儲け話が消えていき

鳥取市 夏目 一 粹

晩酌は息抜きしてるようなもの  
清濁の濁だけ呑んだ頑固者  
怠け者たぶんしんどいことだろう  
親切な積もりが無駄なこともある  
坂道を選んだような老いの道

鳥取市 平尾 菜 美

なぎ倒す欽ストレスと農に生き  
ストレスを含んだ愚痴がどつと出る  
老老の介護ドラマと泣き崩れ  
ぬくもりが通うあなたの傍が好き  
軽装で出向くぼつぼつ寺まいり

鳥取市 副井 ゆたか

詰め甘い記者会見は余波高い  
認知力孫の助けで再起動  
喜寿ドラマ妻を主役に指名する  
賞味期限切れたニュースを読んでいる  
ラーメンは味噌でうどんは釜揚げで

鳥取市 福西 茶 子

ペンセイシユクシユク孫に聴かせる子守歌  
プチ家出七十年の初体験  
アポ電もオレオレもなく草笔る  
母眠る墓にも赤いカーネーション  
仏花に雑草二本添えて春

鳥取市 前田 楓 花

余分な事は忘れることにしています  
歯医者から助けてくれと児が叫ぶ  
淋しさを紛らすスマホ依存症  
左右から同時に友が喋りだす  
ご縁ですうちを選んで咲いた花

鳥取市 山下 凱柳

昭和平成令和西暦ややこしい  
米中に一喜一憂する世界

愚言愚行呆れるばかり辞職せよ

後期高齢返却迷う免許証

何隠そうこれが私のありのまま

鳥取市 吉田 孔美子

大詰めで怒るか泣くか微笑むか

検査大詰め息も浅くてしずか

惜しまずに使い切ろうと靴やシャツ

膝頭畳十六目に沈め

膝に来る猫にやっぱりひいきする

鳥取市 吉田 弘子

やがて来る前も隣も空家です

孫の愛老婆労る太い腕

真夏日の五月できない衣替え

横断歩道止まる親切一礼を

着メロを一度も聞かぬ淋しい日

鳥取市 両川 無限

嫌な私を捨てた記念日です今日は

里帰り亡父の居場所に見がある

許す嘘許せぬ嘘があつて酒

公園にいた少年のソクラテス

氷山の崩れる音を聞くカルテ

倉吉市 猪川 由美子

万葉集を読ませ買わせる令和です

欲いろいろ取捨選択で上手く生き

自意識が強く自分をよう曲げず

見聞きしなかった事にして気を休め

扇風機ストーブコタツ常置きだ

倉吉市 岡崎 美知江

ジャンケンボンバーしか出せぬ空しい手

大胆に流れを変えた母の知恵

火にもなり水にもなつて子を守る

ゆつたりと反対を言う力持ち

ライバルは鏡の中の私です

倉吉市 田中 紀美恵

肉ついた大根足でよく走る

ちよくちよくと金の無心に孫が来る

飛べないしよたよた歩く米寿なる

口紅をまつ赤にひいたら孫大泣き

もごもごと愚痴ばかりはくじじとばば

倉吉市 山中 康子

総浚いしても名句が浮かばない

振り出しに戻ればいいよ先はある

出来るのは自分の守りと部屋掃除

ひきこもりじゃない私はでしゃばらぬ

あんなとこまでとんでいったかうわさ



米子市 池田 美穂

夫ビール私アイスでなんか損  
嫌いとは言えず戴く豆ごはん  
洗面所夫婦仲良く白髪染め  
若作り首から下は完璧よ  
添い遂げるために探している長所

米子市 伊塚 美枝子

我が県を素通りしたか兩女  
旨そうに雨を吸い込む野菜苗  
目覚め良し朝食美味い元気だぞ  
昭和臭ただよう路地の赤提灯  
メモつても不安だらけのカレンダー

米子市 後藤 宏之

あの人のもんだやっぱり歌が出た  
鏡みて笑ってごらんほら見えた  
やさしくしないからエアコンも故障  
風呂敷は便利袋に早変り  
知恵袋ナンバー2が邪魔になる

米子市 後藤 美恵子

夫の死後大きくなった肝っ玉  
真ん中にお臍があるか確かめる  
肝臓に数えられてるビール瓶  
ゴシップが途絶えタレント消えてゆく  
キューピッド図星外してばかりいる

米子市 竹村 紀の治

敗ける気がしない選挙の落し穴  
派遣とは見えぬ店長の貫禄  
折り合いのついた入れ歯がホツとする  
検診日診療科目ごとに友  
水呑んでエアコンつけて引き籠もる

米子市 中原 章子

五月という概念くずす真夏日に  
どうしても期待に応えようとする  
まあいっか思わなければ進めない  
普通の暮らし自分にうそをついてない  
祈ることそれが普通に生きること

米子市 成田 雨奇

父の夢壊してごめんとも言わず  
芭蕉より長生きをしたただの人  
夢に出たあいつは今日が命日か  
自慢だけ並べて終わる自己紹介  
都合よく戻った妻にハイタッチ

米子市 野川 宣子

我が子には平らかな道行かせたい  
居住まいを正し令和を迎える日  
身を正し令和の時代スタートだ  
亡父母に届けと辞令読み上げる  
散らかった机の上で産まれた句

鳥取県 門村 幸子

69歳命見つめて日々暮らす  
わたくしがわたし励ます日々増える  
白和えのふとなつかしい亡母の味  
病得て季節味わうことを知る  
花束は矢車草でこころ和ぐ

鳥取県 斉尾 くにこ

朝の陽の挨拶うける庭のバラ  
牛乳を飲むムーミンのマグカップ  
ひとバック苺を食べ終えて長閑  
空腹でなくて手持ち無沙汰のチョコ  
バラ散って撫子そつと顔を出す

鳥取県 竹信 照彦

ギツクリ腰歳相応と妻の言う  
足腰が痛いとおけてみたくなる  
背柱管狭窄という普通病  
そんなこと無理よと跳んでへたり込む  
幸いに腰から上で勝負する

鳥取県 細田 裕花

ありのまま振る舞う赤児みな大器  
どんぐりに帰って古希の友に会う  
口出さずそつと見守る役目です  
知らぬ振り通しイザコザ避けている  
人形が家族の四季を見つめてる

鳥取県 山下 節子

同窓会居場所わからぬ友がいる  
せつかくの好意無効にする言葉  
田植終え棚田に一つずつの月  
連休は親孝行の田植えする  
入学児長い祝辞にあくびする

松山市 栗田 忠士

限界の里に聞こえぬ田植え唄  
身構えてみるが暑さは変わらない  
直球のつもりごめんとカーブする  
走れぬが歩ける足を愛おしむ  
二千万の蓄えなんてありません

松山市 宮尾 みのり

思ひ出は財産今を耐えられる  
血脈に腹を括つた跡がある  
右へ倣え時々自我が邪魔をする  
しきたりも断捨離にして家族葬  
名前などつかぬ端役というその他

松山市 柳田 かおる

本物にふれて本気になっている  
牛の歩でいいではないかロボットよ  
怠け者になろうよ糸が切れちゃうよ  
透明度ゼロびっくり箱がありそうだ  
折り合いはこんなことかな五目飯

西予市 黒田茂代

初咲きのピンクのばらのいい笑顔  
ばら展を見た後好きな苗を買う  
手がかかるけど大好きな薔薇植える  
ばら満開しばらく雨よ遠慮して  
マグカップ買い替えましたばら柄に

西予市 西田美恵子

私はここよここよと光る恋蜚  
もうちょっと上手な嘘をつきなさい  
年だなあこんなカープが曲がれない  
別れても愛しい人でいて欲しい  
葉飲んだかと夫婦二人の合い言葉

北九州市 小松紀子

心身のネジのきしみは老いですか  
亡父亡母を想えば感謝深くする  
布団干すおひさまの香りうれしくて  
孵化させるコオロギの音色ききたくて  
犬猫の親は虐待しないのに

唐津市 坂本蜂朗

万葉に令和がぱっと灯を点す  
美人との相席少し若返る  
ひと芝居打たれてやっと所帯持ち  
着せた恩もう屑籠に捨ててある  
空耳を使つて老いが許される

唐津市 山口高明

戦闘機よりも被災者先じゃない  
切り返す言葉続かぬ付け焼刃  
この辺で妥協しないと火傷する  
恩人と言われて照れる表彰状  
金の無い所へ来ない金儲け

熊本市 杉野羅天

咬まず飲む愛犬ゴンの旨いもの  
芙蓉花目出度く咲いた紅白よ  
鶯を20羽寄せて小言受く  
PMを吸ってハングライダー飛ぶ  
令和成る老いに優しい国であれ

沖縄県 森山文切

スーパ一の試食わたしは何番か  
長電話シングアソング的ノリで  
土曜日が待てない空のプランター  
日本語が一字もない出席簿  
想像と違うあなたの息遣い

札幌市 小沢淳

人間天皇平成の旅装とく  
判ったか大風呂敷を丸めてる  
何とかなるさ相棒はもういない  
カッコーの号令種袋を解く  
出世コース外れた僕の作業服

塩竈市 木田 比呂朗

宿題で家中もめた夏休み

ひざ小僧また階段で自己主張

アケセルの記事に戸惑う免許証

サバ缶は手抜きのみ方だった筈

決断が鈍くて降ったり止んだり

男鹿市 伊藤 のぶよし

五年も長く生きているよと母に告ぐ

余生でもとろける味の三尺寝

愚痴かボヤキか分からぬままに眠るくせ

老いの恋会話がはずむ通院日

じゅん風もぎやく風も聞く過疎の森

弘前市 今 愁 女

陽水の少し鼻にかかった歌が好き

時どき行く掛かり付け医も眉白く

断捨離した我が名の土地と家屋とを

終の旅に後々のこと案じられ

少子化の児童虐待厳罰を

弘前市 高 橋 洋 子

百均は目からウロコの博物館

ボ〜とする時間心の非常口

ご無沙汰の言い訳さらい一筆箋

自動という文字には弱い八十路です

プチプチつぶし何て不思議な充実感

横浜市 菊 地 政 勝

改元へ新車のサギが顔を出す

風鈴も肩身が狭い過密都市

流行は一過性だと気にかけぬ

涸れるほど泣いていたのにまた涙

親類のみやげは同じ物が良い

さいたま市 星 野 育 子

年金のマクロ経済不安不満

芸人の評論目線が上から

梅雨寒で下げた風呂温度を上げる

孤独は楽しんで孤立には耐える

もう来ない今日毎日が最後の日

上尾市 中 村 伸 子

我が家にも取り敢えずある万葉集

アポ電に見栄を張ってはいけません

アンケート主婦してないが主婦に丸

携帯のメモに温泉名溜まる

駅ピアノ次々代わる演奏者

朝霞市 前 田 洋 子

釣り人のうしろに座る野良親子

暖色の服を選んで凹まない

正直に句があぶりだす人となり

咄嗟に出た言は本心ハツとなる

万全のほすを襲った通学路

千葉市 海老池 洋

向日葵も笑顔に見えぬ八月忌  
親子の会話奪うスマホの依存症  
怒ったらそれパワハラと口答え  
背伸びは背伸びそう何時までも続かない  
一切なりゆきそんな余生を送りたい

東京都 川 本 真理子

大声で老母は子守唄を歌う  
お返しに僕はゾウさんのうた歌う  
叱られていても手をつないだままで  
捨てられない手垢のついた子の図鑑  
アルバムの笑顔に会ってから墓参り

東京都 まえで とよこ

むしあつい日日おもいだす台所  
あついあついとあついみそ汁飽きもせず  
空爆のあとに遭った家族たち  
避難さきテントも便所もないらしい  
樹の下からじっとみつめている世界

八王子市 川 名 洋 子

大会で思いがけずに会える幸  
オベンチャラ言う時いつも口ごもる  
居心地がいいのか耳に虫が住む  
愛犬が隣の家に行きたがる  
大好きな服が今年に入らない

大山市 金子 美千代

わが町に国宝の城ある誇り  
インスタ映える犬山城下町  
アイディアがヒットハートの絵馬並ぶ  
牡丹染めのスカーフ買った旅日記  
人生百年耐震工事しとかねば

大山市 関 本 かつ子

我家でも仕方なく出すブラのゴミ  
送信の手前でやめた愚痴の数  
新築が増えて近所が若返り  
句を捻る途中で死ぬるのが願ひ  
自分史は全部昭和に詰ってる

愛知県 早 川 遯 行

近所の目洗濯物を干しに出る  
妻退院なんじゃもんじゃの花の下  
失敗を重ねて出来た卵焼  
玉ネギを刻む涙にしておこう  
不器用な手で朝食ができあがり

鈴鹿市 小 河 柳 女

人生を愛した深い面である  
どの色を塗ろうか朝がやってくる  
屋根が光る命の輝きであらう  
湖のような心で人をすまわせる  
幕のない世界平和を望んでいる

富山市 島 ひかる

県人の気質あふれる朝乃山  
夏場所の新元号に名を残す  
虎の絵の化粧回しに深い意味  
帰省した足で恩師の墓参り  
どの写真見ても県知事そばに居る

大阪市 磯 島 福貴子

茹で卵今日はつるんとむけました  
ヒト科のエゴ プラゴミ汚染海洋に  
同窓生年のとり方様様に  
エンディングノート自分史書き添えて  
幼馴染み昔話に花が咲き

大阪市 井 丸 昌 紀

子は宝宝どんどん殺められ  
五十年経ち漱石ちよっとだけ解る  
ええ人やけど笑いのセンス違うから  
そのネクタイブランドもと分かるけど  
手を繋ぐ相手間違えたお蔭で

大阪市 岩 崎 玲 子

楠の香りの下でリフレッシュ  
ケイタイを持たぬ気楽な余生です  
老いの会話小さな病探しとく  
五十年パッチワークの夫婦です  
ライバルがいないと私へたつて

大阪市 内 田 志津子

嘯みついた母に介護で詫げる日々  
嘯み嘯みの初スビーチに和む句座  
閃きで節目節目を越えてきた  
三杯目うっとり艶歌聴きながら  
うまい世辞うっかり聞いて油断する

大阪市 宇 都 満知子

今日は雨散歩買い物休みます  
進んでします暑い日の水仕事  
家族集合夏は鍋料理も出来ず  
集まる度家族写真が増える幸  
怪我をして指一本のありがたみ

大阪市 江島谷 勝 弘

心では彼とは互角だと思う  
毎月が楽しいな塔誌の切り絵  
足の踏み場がないのに上がれと言う  
孫が来て公園デビューさせられる  
七十五免許返納しようかな

大阪市 榎 本 日の出

全没も話題が出来る楽しいよ  
老人に魔女と天使が近づいた  
晩学だ学ぶ意欲が残ってる  
皆様にぴったり合やすカスミ草  
実力は無理札幌で坂登り

大阪市 榎本舞夢

令和元年新緑と共に夢を追う  
国賓の陛下もてなし爽やかさ  
雅子妃の外交振りも素晴しい  
真夏日が続き我が家の模様替え  
孫結婚用意万端古い二人

大阪市 大川桃花

懐かしい電話に声が裏返る  
都会に住んで心ボツンと一軒家  
信楽の素朴野花がよく似合う  
上皇后様の変わらぬ笑顔ホットする  
組板にタンゴのリズム刻む嫁

大阪市 大治重信

手を握り手の温もりで愛伝え  
裸婦像を思わずふれて良き日かな  
御堂筋ロダンと印す裸婦を撫で  
憎いけど倍は愛する女房です  
五〇年嘘と本当が入り交じり

大阪市 奥村五月

少子化に若い力がほしい国  
窓ぎわでじっと見ている社の空気  
母嫌う悪友僕は特に好き  
朝帰り妻が悪魔の顔になる  
十連休酒も休めと恐い妻

大阪市 小野雅美

瞳までうつとり聴いたひばり節  
錆止めを塗ろう脳にも心にも  
一日も乗らず更新する免許  
うきうきと悪女へ向かう紅を引く  
百均の皿を割るにもいる勇氣

大阪市 笠嶋恵美

十連休無事に終ってデパートへ  
フェルメール展帰りふらふらあしんど  
楽しいのに耳鳴りひどいんでやる  
無事帰りあれれ耳鳴り消えている  
しみじみと一月ごとの八十路かな

大阪市 金川宣子

宝くじ当たれば許す時価の寿司  
ムコ殿と一献交わす父の日に  
散歩中トイレタイムはコンビニへ  
夫婦喧嘩一歩下がって負けたふり  
似た顔にあつと振り向く交差点

大阪市 川端一歩

湯にひたり今日の敗戦譜をたどる  
斜め読みやっぱすぐに蹴躓く  
高額医療払いコロッケ二つ買う  
梅干に叱られている二日酔い  
以下同文他に言葉はないものか



大阪市 古今堂 蕉子

進歩しすぎた自分に驚いているスマホ

居心地の良いよう少し散らかして

前頭葉未来地図の書けぬまま

忘れ物置いたままです青春の

私に限ってなどという不遜

大阪市 近藤 正

父の日は娘家族と居酒屋へ

大阪市つぶす魂胆都構想

元号は代れど変わらない暮らし

立ち位置で令和の時代試される

草の根の平和行進堂と

大阪市 坂 裕之

穏やかな町で子供らおはようと

癒される彼の個展へ妻と行く

仕事することがまだ有る幸せだ

ああしんど寝る時言うし寝起きにも

新しい人に任せてのんびりと

大阪市 高杉 力

一喜一憂繰り返してるダイエツト

瘦せていた頃の写真を持ち歩き

酔った友家に届けてまわる下戸

葬式に来てまで名刺配りなや

夢遠く故郷想う物産展

大阪市 高杉 千歩

より添うてくれる息子がいて車椅子

明日あしたと待つほどでなし九十三

何日か分からなくても生きられる

コーヒーがきましたおやつですホーム有難し

人生最後まで勉強ホーム独り

大阪市 田中 廣子

香港デモうまく行くよう祈ります

タンカー炎上意図はどこにあるのやら

手をとって義母を見送る安堵感

錆びて来た頭はとも戻らない

友が逝く切ない別れつらすぎる

大阪市 田中 ゆみ子

行く当てもないので麒麟に会いにゆく

若いというだけで會長にされる

孤独です激辛カレー大盛りに

人間に嫌われたつていいカラス

四股を踏む夕日に明日を予約して

大阪市 津村 志華子

風みどり白内障は春がすみ

主婦一途ただ黙然と無位無冠

ひとりばかり好き勝手とも空しとも

母逝ったことも知らずや軒つばめ

長寿してまだ生きる気の肝つ玉

大阪市 寺井弘子

大阪市 平井美智子

幸せは妻の歩幅と子の歩幅  
今日明日と老いのリズムを整える  
友情は白と決めたら変らない  
思い出は一期一会の遍路旅  
年金の老後に辛い二〇〇〇万

大阪市 寺本実

本物の笑顔ふりまく趣味の会  
片隅の目立たぬ所でよく吠える  
真相を聞いてのけぞるふりをする  
節目には夫婦二人で旅に出る  
真夜中に諭吉並べて数えあげ

大阪市 中井萌

ヘソクリと悪知恵だけは手離さぬ  
古希過ぎて中途半端な恋心  
病癒え吹かせ続けよ亭主風  
家系図に芸人も居る博士居る  
相伴のつい一杯が夫越え

大阪市 原田すみ子

幸運に乗って実力過信する  
握った尻尾簡単に切られる  
未熟さを自覚しすぎて縮こまる  
人類愛大層じゃなく人が好き  
わたしにだけやさしいから勘違い

鏡の中の私はいつも反抗期  
違う違う違うと剥いているレタス  
ややこしい私に鮎を舐めさせる  
ひとつ捨てひとつ忘れて夏に入る  
一眠りしよう淋しさ尽きるまで

大阪市 平賀国和

夫婦ともに元氣なうちと海外へ(バルト三国旅行)  
歴史あり命のビザを杉原氏  
政府より従ったのは人の道  
日本も救ってくれた杉原氏  
自由を求め二百万人手をつなぐ

大阪市 藤田武人

逝くまでは未来見据えている瞳  
楽しみをひとつ見つけて生きている  
記念日にいつもと違う妻の紅  
癌に勝ち球に打ち勝つ虎戦士  
親が引くルールにポイントを作る

大阪市 山本加お里

大所帯苦勞も今は楽隠居  
病んでから無理はよそうと気がついた  
看取りした手の温もりがまだ消えぬ  
夢のよう昭和平成令和まで  
良く伸びるキューリの蔓に勇気わく

大阪市 若本安代

加齢とは認めたくない物忘れ  
見る人は見ていてくれた思いやり  
辛辣な友の助言がじわり効く  
わがままな人は我が儘気付かない  
瀬戸の島アートと景色見てめぐる

堺市 奥時雄

車輛事故まさかと思うようなこと  
咄嗟にはパニックになる齢だった  
警察に説明出来ぬ情なさ  
一秒でゴールド免許ふっ飛んだ  
杉良に倣えと家族口揃え

堺市 柿花和夫

冷蔵庫の片付けをして鍋料理  
愛犬が私を連れて一万歩  
賑やかな友だったのに樹木葬  
七夕の笹は流せずゴミ箱へ  
グレイヘアにしたいけれども髪が無い

堺市 加島由一

五月一日行けるとこまで独り旅  
花に水昼から五木ひろしです  
ニュース見て免許返納しようと決め  
優しすぎる男に運は向いてくる  
自然体紳士は笑顔絶やさない

堺市 源田八千代

自由都市堺の市名こそ遺産  
聖子のサイン「まいにちばらいろ」を指す  
時めいている昭和生れに活もらう  
運動会季節替えても日射病  
受け取りサイン配達員のペン借りる

堺市 齋藤さくら

思いきり笑って泣いて生きる糧  
困ったと泣きごと言える友が居り  
年金で暮らせぬ国だ頼り無い  
安心の出来る歩道を願ってる  
取り敢えずごめんなさいと言っておく

堺市 坂上淳司

師の一字添削で句が息をする  
孫誕生ずしりと重い命抱く  
手を繋ぐ子たちに老いの暴走車  
加齢とは恐ろしペダル踏み違え  
ゆとりある老後の筈が低金利

堺市 澤井敏治

恋人のように寄り添う大蛭  
人に似たのか蟻も群がる甘い汁  
ヒトはみな虫から見ればよう似てる  
集く虫きみも汚染に耐えている  
追憶の念ふつと終戦忌

堺市 遠山唯教

日日好日まだ踏みこんでほしくない  
生きるのは独りで暮らすのはふたり  
自給自足ひとつのお世話にならぬよう  
仲直りに酒がくるのが遅すぎる  
老兵に燻っている夢と欲

堺市 内藤憲彦

錆び止めに毎日お酒足している  
どんな時も母は応援してくれた  
君となら雨のち晴れを信じます  
また謝罪マニュアル通り見せられる  
あほやなあ僕がおらんとだめかいな

池田市 太田省三

スポーツ紙は国会よりも虎の記事  
ソーメンの緑一本夏が来た  
部屋干しもテレビの前は空けておく  
弁当のふたの米粒戦中派  
冷蔵庫空っぽにする八宝菜

池田市 栗田久子

ただ一行余計なことは書かぬメモ  
お互いの配慮みだりに触れぬ過去  
現実を知れば多くは望めない  
年金に頼れぬ老後そうでしょう  
年号が変わり何かに期待する

貝塚市 石田ひろ子

家族分御守りを買う老いの旅  
そんなもんでしようとか笑う昼の月  
今ならば治る病で逝った母  
眼薬をさして言葉丸くする  
今出来る事に残り火掻き立てる

河内長野市 大島ともこ

悪びれず本音の言える世代の差  
小銭ばかりたまる老化の第一歩  
借金と受けた恩義はすぐ忘れ  
悩み抜き今日は卵を二個食べる  
胸のつかえほどいて畳む一人旅

河内長野市 梶原弘光

お転婆が同窓会の金集め  
黄信号と主人をポチは両にらみ  
家系図が繋ぐファミリーヒストリー  
電動の友に負けじとペダル漕ぐ  
七十路に似合わぬてかてかの野心

河内長野市 木見谷孝代

スマホにも慣れて子や孫近くなる  
便利さもいいがスマホが時間食う  
海育ちの父が戸惑う山の墓地  
年金で足る暮らしへと知恵しぼる  
花の苗植えたとなんに蝶が舞う

河内長野市 黒岩靖博

飲兵衛がもつたいないと迎え酒

酒飲むと心の鍵が開いたまま

訳もなく皮下脂肪だけ溜まり過ぎ

このままだと心不全だな医師脅す

肉体と精神力がミスマッチ

河内長野市 辻村ヒロ

砂埃払えば私いい女

かたつむりどんな邪魔にも負けません

孫達の会話に距離が掴めない

洗っても落ちない染みが個性かな

趣味ひとつ相手に選び若返る

河内長野市 中島一彌

百寿の手風雪に堪え皺くちやに

笑い声弾けやさしく光る風

旨いねと美味しいわねで交わす笑み

名も知らぬ同じところに咲くいのち

孫からの肩叩き券神棚に

河内長野市 藤塚克三

慣れすぎて言わなくなつたあたりがとう

家族での光と影に見る絆

休肝日あけて倍飲む悪い癖

点滴ボトリ心身共に濡れてゆく

リハビリも曲がつた心そのまんま

河内長野市 村上直樹

つい触れた浴衣の妻の手の細さ

文豪の名と一字違いの幸不幸

糞虫のぶらぶら明日は明日の風

いずれは独り越えねばならぬ世の定め

ダイヤ婚繋いだ糸は思いやり

河内長野市 森田旅人

この世での修行を終えて兄は逝く

臨終後兄は亡母の顔となり

入棺をすれば亡父の顔となる

通夜席に笑いのたえぬエピソード

亡父亡母に会う頃だろううれしから

河内長野市 山岡富美子

周平の海で溺れている真昼

藤椅子のまどろみ三次元に居る

捨てられぬ靴はローマを知っている

薔薇の棘香り豊かにひとを刺す

背伸びする癖が一句に札入れに

河内長野市 山室光弘

梅雨の音足のだるさに気が滅入る

誤解から恋のカラクリふと覗く

泥仕合ばかりが目立つ永田町

出てこない隠れたままのポテンシャル

歯車がどこで欠けたかひきこもり

岸和田市 岩 佐 ダン吉

前向いていれば何かが見えてくる  
成長をしたね意気地も無くなった  
言い勝つて僕に淋しい空になる  
失礼だ雨に生憎などと言う  
正論と思うひとりが臆さない

岸和田市 宮 野 みつ江

好きな道何の文句もないはずよ  
ムシヤクシヤを仏にけんか売りひとり  
愚痴悩み仏に聞いてもらつて  
愛してる今頃仏どんな顔  
アマリリス咲くラリラリラ口遊ぶ

岸和田市 雪 本 珠子

あれも駄目これも駄目では芽が出ない  
幸せも愛もほどほど今がいい  
生きてさえいれば何にも欲しくない  
世渡りが下手でも無事に生きている  
なるようになるさ人生あと少し

四條畷市 吉 岡 修

父の居た席だポツカリ穴がある  
地蔵さま立ってるだけでありがたい  
チャンネルはお笑い組に握られた  
ほんとうの僕を知ったら腰抜かす  
コピー機に原稿入れたまま帰る

吹田市 野 下 之 男

おめでとう一般参賀で十四万人  
たまにはからだの為だ十連休  
西郷どんは島流しにも屈しなかった  
三面は見たくないのに先に読む  
玄関のベルが休んでほつとする

高槻市 指 宿 千枝子

満月にそつとささやく八十の恋  
勝ち負けを我慢するのも独りなり  
ほころびを繕いながら八十の日々  
歯に感謝して何でも食べている  
干し物を楽しく揺らす青葉風

高槻市 片 山 かずお

熱中症怖くてお茶を手放せぬ  
シャボン玉それぞれ虹を抱いて飛ぶ  
夫婦だなども静かな二人連れ  
ゆつくりは歳のせいです悪しからず  
迷惑でしょうがあなたを忘れない

高槻市 島 田 千鶴子

不可思議な絵画の前で小半時  
一枚の絵のよう花を摘む少女  
免許返納アッシー君がいなくなる  
草書体水の流れる音がする  
物忘れ迷子になっていく記憶

高槻市 初代 正彦

ふんぎりをやんわり迫る肥後の守  
婆の愚痴ひたすら聴いている苺  
せっかちもひと息入れてから一歩  
アルバムをふっと抜けてくる昭和  
締切日ちよつと気ままな腹時計

高槻市 富田 美義

飽食になると嫉が緩くなり  
詐欺電話切ったら別がまたかかり  
都市疲れ実家へ愚痴を持ち帰り  
国訛り聞けば財布も直ぐ弛み  
冷蔵庫主婦のゆるみが腐つてゐる

高槻市 原 洋志

懐かしのアニメ話題に歳がばれ  
道草の中で拾ったオノマトペ  
個人差があると小文字で添え書きが  
サービスのはずの修理に請求書  
オンオフのタイム自在に生き上手

高槻市 松岡 篤

そのうちに信号渡れぬ歳がくる  
墓掃除愚直の我に返る時  
スマホデビュー孫センセイに褒められて  
英語より日本の敬語難しい  
国民の令和の課題子沢山

高槻市 安田 忠子

快適な朝だ手足がよく動く  
新緑の真つ只中の飛驒を行く  
せせらぎ街道若葉が痛く目に沁みる  
新緑の奥飛驒慕情たつぷりと  
流行物一つ身に付けおしやれする

豊中市 池田 純子

手に膝にパッチワークのシップ葉  
主役にはなれぬ葉のひとり言  
大丈夫おばあちゃんは晴れ女  
子育てに昭和令和の色がある  
雨あがり入道雲にハグされる

豊中市 上出 修

戦いの火蓋切られた妻無言  
青い鳥探し続ける交差点  
無造作にアートが並ぶ御堂筋  
ええまさか美女に野獣がくつついた  
ファンなのに観てると何故か勝てません

豊中市 松尾 美智代

あふれる緑目の保養にはもってこい  
楽しみだった山椒の花実がならず  
うぐいすの声に起こされ朝歩き  
少しずつ見えなくなつてゆく恐さ  
ガラケーからスマホに変えてパニックに

豊中市 水野黒兎

食卓に朝の笑顔のプチトマト  
ところてんノドへつるりと贈る涼  
昨日より新しい今日日々老いる  
夏期講座窓にくじらのような雲  
目をむいて団十郎と知る歌舞伎

富田林市 片岡智恵子

「ああ楽しかった」臨終にきつと言うだろ  
卒寿には九十路に合うたネジを巻く  
日刺食べ潮の匂いの日よ  
ケセラセラ唄ったデイさんも逝った  
さよならの言葉を探す級友が逝く

富田林市 関よしみ

千枚田田植えの見事点と線  
復興米手植えで早苗蓊させ  
うなだれた紫陽花に落つ弥陀の雨  
若鮎が鱗光らせ遡上する  
自分史の片隅袋綴じ添える

富田林市 中村 恵

梅雨明けのプラン待つてるスニーカー  
アジサイが歌えば雨が伴奏を  
踏ん切りがつかずに門は半開き  
頼ろうと思う人から頼られる  
満開をすぎて味わい深くなる

富田林市 山野寿之

十連休平和が続く日本地図  
満天のスターダストに夢を抱く  
農蹴った息子が作る自家野菜  
凡凡の幸にもっとを望む欲  
回覧板安否確認の輪

寝屋川市 籠島恵子

ニッキアメ ガリガリ麦秋がよぎる  
友達の数は数えぬ今日の友  
お人好し同じ過ちおかしている  
三カ日前から濃い口しょう油切れている  
絵手紙の返事が書けぬまま十日

寝屋川市 伊達郁夫

腐葉土になって明日の命抱く  
玉手箱ずっと開かない儘が良い  
白線の中は私の小宇宙  
錯覚の真ん中辺で立ち泳ぎ  
回転木馬降りるチャンスが見つからぬ

寝屋川市 富山 ルイ子

停年まで働ける世でなくなった  
本業と別に副業先見据え  
免許証早返しばつと聞く  
ボランティアに誘われ行くとする米寿  
篝火に映えて見事な薪能



寝屋川市 平松 かすみ

ああしんど梅酒一口暑氣払い  
ハイテクに慣れて野性味欠けちゃった  
羽根つけて行つてみたいなふるさとへ  
一服もしない臓器へ感謝状  
寝たきりの姉を思うてもう五年

寝屋川市 森 茜

葉さすページに甘やかな吐息  
絵手紙へあと押ししてくれるかたつむり  
隅っこになんじやもんじやの枝伸びる  
自己肯定してやるせなさ遠去ける  
もう一度訪いたい尾瀬の水芭蕉

羽曳野市 安芸田 泰子

母の日の誰が主役か四世代  
古里の自負蜜住む川がある  
失敗が肥やしとなった花開く  
今日生きた証を記す日記帳  
難病を抱いておすおす生きている

羽曳野市 宇都宮 ちづる

南天の若葉が涼し初夏の風  
孫娘にLINEで見せる咲いた花  
百までの生きるお金は自己責任  
ゴキブリに出会う夜中の台所  
五つ星まずはランチで小手調べ

羽曳野市 徳山 みつこ

音のない雨独り居を和ませる  
緑の壁になつておくれよゴーヤ苗  
センスいい友と一緒にシヨッピング  
丸窓が見せる自然のおもてなし  
穏やかなドラマ神からいただきぬ

羽曳野市 中川 ひろ介

千手千眼衆生を救う観世音  
泰山木合掌しつつ巨花閉じる  
期待通り勝てぬ阪神憎めない  
沈丁花匂う雨夜の深夜便  
老人のマグマ甘く見てる政治

羽曳野市 藤原 大子

空はキャンバス雲とわたしで絵を描く  
しょうがないなあちよっぱり心丸くして  
損をする度胸がなくて出来ぬ賭け  
虚栄張る心に髭がのびていく  
燃えているハートブレーキかける脳

羽曳野市 三好 専平

雨降るとゼロにもどつてしまふ国  
おカネさえなければこの世住みやすい  
嘘がいい嘘でもいいと恋心  
傀儡を象徴と言うやまざくら  
脅威だと言つてたがいに騙し合う

東大阪市 北村 賢子

軒先に傘つり守るツバメの巢  
老いるほど清潔にする身だしなみ  
令和まで普通にボーと生きた幸  
終活を急かす老人会あすなろ  
まだ服を買って古いの捨てられず

東大阪市 佐々木 満作

梅こぼれ桜は散つて夏は来ぬ  
紫陽花のしおれる如く我が傘寿  
花菖蒲子の成長を見てしばむ  
流行を機敏に受ける子のお洒落  
満願へじつと我慢の行続く

枚方市 丹後屋 肇

田植機のエンジン音を聞く棚田  
モチベーションちびた鉛筆放さない  
梅雨冷えへ喜々とスカーフ首に巻く  
紫陽花を纏った妻の七回忌  
涙ぐむ時々噎せる阿弥陀經

枚方市 二宮 山久

令和元年余生に夢をかけてみる  
童謡を歌う仲間の目がキレイ  
譲られた席が嬉しい老いを知る  
生きて来た心にうそはないくらし  
ボランティアこちらがもらう有難さ

枚方市 山口 弘委智

マイナスの思考で運が逃げた悔い  
身の丈に合う喜びが糧となる  
おだてられ座り心地の悪い椅子  
もみじの手下まねきしている未来地図  
私をばらす鏡はのぞかない

藤井寺市 太田 扶美代

背に重い黄昏という名の荷物  
チヨコあげたひとを忘れるはずがない  
床柱五人兄妹覚えてる  
令和元年このまま生きていいですか  
初夏の風ちよつと浮かれてきた理性

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

気が付いていない振り気が付いた振り  
首を傾けながら拝聴しています  
ふとよぎる見知らぬ人の背なは父  
つかず離れずいもうとだろう螢とぶ  
わたくしのフットワークに無理がある

藤井寺市 鈴木 いさお

初対面のふりしてやって来た猛暑  
駆け抜けて来た仮の世の五十年  
気の利いた台詞も言えず友送る  
いま席を立つと悪口言われそう  
賞味期限とつくに切れてやがて喜寿

花山院気分爽快筋肉痛

藤井寺市 吉田 喜代子

八十四歳足の強さに感謝する  
すずめの巢カラスに向う親の愛  
年一度検査で世話になる医院  
八十路道拾っています英単語

箕面市 大浦 初音

人生は死ぬこと以外かすり傷  
凜として生きる残りの人生を  
アウトの数踏んで人間強くなる  
食べて寝る老いの楽しみこの二つ  
外面が良くて家では無口です

箕面市 酒井 紀華

少しづつ芽ぶく日信じ母は待つ  
のびのびと野良猫暮し猫に似る  
遍路道ころを洗う長い坂  
あの橋を渡れば会えた青い鳥  
草も木も恋も芽ばえる春の風

箕面市 出口 セツ子

誕生日いつも祝ってくれる子ら  
プレゼントもおめでとうさえ無い夫  
子の財布当てに遠慮の無い夫  
五体動くうちにふらりと気まま旅  
認知症かしら名前がすぐに出ぬ

城山の続く石段苔の花

箕面市 中山 春代

貝殻節を風に聞かせる展望台  
亡き祖母が透ける酸っぱいトロコテン  
軽トラの高い助手席墓まいり  
また来るね従姉妹の墓のスギナ抜く

箕面市 広島 巴子

五月晴れ富士と乾杯祝令和  
出湯飲み五臓六腑もリフレッシユ  
忘れぬようあちこちに貼る予定表  
二度も刺し満腹の蚊を退治する  
ほろ酔いの夫婦もてなし蛭舞う

八尾市 寺川 はじむ

若いなと言うて欲しさに歳を言い  
V取りへ確と頷く信貴のトラ  
悪のレッテルいつ外すのか北のボス  
初参賀笑みさわやかな両陛下  
とんでもないと思ひ乍らも嵌る薬

八尾市 宮崎 シマ子

ソーメン干海老故郷の夏お取り寄せ  
一人娘はお勤め母の日も来てくれず  
梅雨には梅雨の楽しみ友が来る  
根つめた目眩へ医者よ点滴よ  
さくらんぼ仏をだしにして求め

八尾市 村上 ミツ子

父の日へ自分の好きなものの供え

地獄行きと知らず持つている切符

ためこまず負のエネルギーうまく出す

買わない日つくれと識者アドバイス

他人のふところ当てはできないし

八尾市 山根 妙子

日本語の検定受けてじつと待つ

計算を無理に合わして年金日

おせっかい金融庁がする試算

手を繋ぐフォークダンスが恋はじめ

母犬がふわっと小犬囁む婁

大阪府 米澤 淑子

延命は無用と書いてから永い

真相は笑ってすます程のもの

便利だが使いこなせぬ物ばかり

シンプルイズベスト貫く冷や奴

たかじんを偲ぶ歌聴く雨の午後

神戸市 上田 和宏

眼を合わせちよつと笑顔がおもてなし

ハイタッチ園児二人と打ち解ける

子が育つ母も成長夕焼ける

亡き吾子の落書き今は宝物

この世なんてこんなものかと昼寝する

神戸市 奥澤 洋次郎

突然に音のするもの皆きらい

やる事に水さす妻との車間距離

しんどい事止したのに減らんしんどさ

二千万そんな金など無い老後

西瓜割る理由はいらない青い空

神戸市 敏森 廣光

妻の特技いつでも泣けて笑えます

手鏡に写りきらない僕の顔

朝ドラから昼カップ麺多くなり

もうあかん妻に力で負けそうや

年毎に危険な香り消えてゆく

神戸市 富永 恭子

蛍火のような言葉にしがみつく

三種類植えたきゅうりの差が見えぬ

山頂へ六根清浄声合わす

もらったらうちの娘ですと鉢の世話

乾杯はソフトドリンク下戸の宴

神戸市 能勢 利子

取り敢えず寝たらいい句が浮かぶかも

真夜中の通販好きな電話子機

紫陽花が咲いたら夫の墓参り

最後まで名前出て来ず立ち話

発車ベルに駆け出す癖が直らない

神戸市 細川花門

運命の出逢いに川柳があつた  
先入観捨てればすべて新しい  
サムライは寡黙闘志を胸に秘め  
吾が道を信じて一步さえ引かぬ  
風鈴の音をほんやりと見ています

神戸市 山崎武彦

園児の群れへ飛び込んでくる凶器  
おもてなし出来ぬが笑顔ならどうぞ  
全快を信じて磨く夫の靴  
疑いを知らぬ子の眼に狼狽える  
自分史を批評している影法師

神戸市 山口光久

二人して遣り遂げましょう針と糸  
空気のようにになりました夫婦仲  
坪庭が楽しませます八十路坂  
生き恥を覚悟で挑むあれやこれ  
挿し木して仲間いっぱい殖えました

神戸市 山口美穂

夏祭り令和も恙無いように  
家計簿へラッキョウ漬けたと付け加え  
一匹の蚊がリビングに今日もいる  
雨宿り犬も黙って待っている  
もうひとりのわたしが愚図へ腹を立て

明石市 梶谷和郎

閃きは済んだあとからやってくる  
開いた口へ放りたくなる紙つぶて  
陽の恵み布団も僕も蘇生する  
丈に合わすたびに繕う老いの服  
未使用のテレカ財布に寝たまんま

尼崎市 加川靖鬼

ハイチーズみんな美人の顔をする  
土踏まず一度も土は踏んでない  
もったいないお尻でルーベ踏むなんて  
都会で育ち山を知らないカラスの子  
訳ありと貼ったら売れた売れ残り

尼崎市 永田紀恵

風は気まぐれまるで人事永田町  
アメリカンファースト互恵忘れた彼のお方  
保護色になってあなたの胸の中  
添削後私の顔が消えている  
雑巾で終るタオルのボランテニア

尼崎市 藤井宏造

三食を気儘に食べる妻の留守  
手のひらで木の芽たたいて出す香り  
順風満帆そんな時代がなつかしい  
いつの間にか旗振り役にされていた  
季節の変わり目体が油断する

尼崎市 藤田雪菜

回り道拔けたらまるで知らぬ土地  
あじさいがかすかな夏の音にふれ  
散り終えた花へ優しい風が抜け  
梅雨空に明かるい紅のバラを買う  
今日もまた同じリズムに恵まれる

加西市 山端なつみ

猪が飽きた筈やつと人の口  
先祖の田つなぐ子孫は街に出た  
免許証パスが通れば返します  
解散へ風向きを読む永田町  
市議選の連呼畑にも出られない

川西市 山口不動

夏帽子自動停車に買い換える  
水田に満月が出た咆哮す  
牛蛙保育園児を走らせる  
父の忌にこれが最後と長子言う  
延々と高圧線よ黒部から

三田市 足立つな子

街路樹の五月の空に匂い立つ  
世のギャップ埋める心追いつかぬ  
郷の空にも泳いでいない鯉のぼり  
ひさしぶり封書のたより何かある  
子を思うつい諄くなる親ごころ

三田市 上田ひとみ

空箱を集めて入れるものがない  
目標はありませんただ正直に  
幸せのカタチ見えるとおまらない  
さわやかな声ですね風のように  
母の歳越えていという今日ひと日

三田市 尾崎一子

チュンチュンチュン鳥のさえずり朝の耳  
就活に励む孫へにぎり飯  
声はずんでいる内定のスマホ  
まだぎこちない令和元年六月  
しなやかに我が生涯を淡淡と

三田市 北野哲男

温故知新柳多留から借りる知恵  
孫達へ図書券にするお盆玉  
明日笑うために汗かくビール足す  
ブライドが元の肩書きからポロリ  
戒名は松竹梅の梅でよし

三田市 久保田千代

大役を終えて明日から自由の身  
時々仲間違う僕の平和主義  
真つすぐに歩けば笑う影法師  
頼られて私の一日癒される  
負けん気をバネに余生を駆けている

三田市 丸村 義徳

米粒をこぼすと父の目が怖い  
コンビニの裏で泣いてる期限切れ  
大根の葉っぱがゴミに出してある  
どん底で他人の情けを知りました  
古稀の坂越えて世間の情け知る

三田市 多田 雅尚

寅さんに悩みを聞けば小指立て  
介護にも役立ちそうなああの力士  
朝ドラも土日休みになると言う  
父の日はクロネコ便もスルーする  
十連休終えて罹らぬ五月病

三田市 谷口 修平

もう二度と来ない便りを待つポスト  
閃光を忘れることは無いドーム  
二時間も笑顔絶やせぬ披露宴  
一緒にはなれない人と見るアヤメ  
亡母の手に抱かれて眠る認知症

三田市 野口 真桜子

ゆとり教育洗脳された平和論  
すれちがう仏ぢや鬼ぢや交差点  
魔除け数珠二本目つける正念場  
ピサの斜塔背を伸ばしたい日もあろう  
やさしい嘘入れてすすめる赤ワイン

三田市 福田 好文

信号を守ると何故かほっとする  
人間が墮落しそうなクールビズ  
片意地を張って世間を狭くする  
検査入院すると近所がガンにする  
満ち足りた顔した猫の朝帰り

三田市 堀 正和

丁寧な髪を剃ってる手術の日  
おずおずと片目ずつする手術とや  
フルネーム三回も言う手術前  
世の中を明るく見せる目の手術  
禁酒令一週間という術後

三田市 松本 ゆかり

馴染みない国の蛸入れ胡瓜もみ  
二度とない今日を生き切る背を伸ばし  
押入れの隅で目をむく授賞額  
夫や子置いて母娘の露天風呂  
病欠でくつきりとつく水着跡

三田市 村田 博

カラフルな空気の満ちた花フェスタ  
予定変え美術館行く外は雨  
付度を拒み続けて無位無冠  
五線譜を外れやんやのアンコール  
真っ白の歯がグランドを駆ける夏

高砂市 松尾柳右子

カラフルな墓標楽しむ盆まいり  
家族連れ喜々と海辺の炎天下  
学生のバイト休暇へまっしぐら  
独居には味付海苔も湿りがち  
炎天下若さ輝くかき氷

宝塚市 丸山孔一

システムキッチンお前等ちよつと喋り過ぎ  
人間が居なけりゃロボット生まれな  
犬も古い老老介護の身となれり  
十万円あるのにアポ電が来ない  
豪州の友荒神さんで手を合わす

丹波篠山市 酒井健二

青春期思い出せないコマがある  
どん底の情けが浮かぶ仕舞風呂  
年取ってやつぱり分かる事もある  
そよ風と花がシッポリ会話する  
皺よつた夢を肴に酒をくむ

西宮市 秋元てる

日々好日余生は花に囲まれて  
もう百歳やつと百歳まだ迷う  
作法通り喰べたら好物今一つ  
ああ日本戦知らない議員だらけ  
正論は食うに困らぬ人だから

西宮市 緒方美津子

救護所で笑ったややは元気かな  
徘徊の母に刃向うことできぬ  
花と風恋のバトルをしてるよう  
うまいものはうまい卵かけごはん  
特別なムード原口の一発

西宮市 亀岡哲子

ほのぼのと見る十代のころろざし  
背柱は曲がるが気骨真つ直ぐに  
夫唱婦随西部劇から時代劇  
ころろの中で育っています小さい幸  
カタカナの社名役職となたさま

西宮市 西口いわゑ

レンゲたんぽぽ遊んだ日々よ風の子よ  
少々の酒でほろ酔うよき友よ  
ボール蹴る少年たちに風薫る  
あじさいの静かな愛のたたずまい  
老いは順番花花咲いて散るように

西宮市 福島弘子

立ち上がる丈夫な足よありがと  
梅雨晴れ間どの道行くか交差点  
閃いたあの日の海は風いで居た  
駆け抜けた平成悔いもよしとする  
令和でも駆ける余力は溜めてある



西宮市 福田正彦

抑止力持たず不戦を誓い合う  
恵まれて平和に浸る民で居る  
温泉に今日の疲れを吸い込ます  
定規では計れぬ笑顔今日も受く  
許せないこの一言を変えてみる

西脇市 七反田順子

ほんまになあ育てたように子は育つ  
貧乏神貧乏ゆすりだけ残す  
それなりに生きて両手をあげます  
大方の悩み口開けドレミファソ  
根本は家庭教育振り返る

南あわじ市 萩原狸月

戦争に連れて来られた現住所  
晴天の霹靂機銃掃射音  
カバー取り四十燭の眩しい夜  
その夜から防空壕に用がない  
戦争を語る世代の最後尾

奈良市 阿部紀子

昔祖父松盆栽を育ててた  
その頃は松盆栽に興味なし  
宇野千代家手の平にのる盆栽を買う  
松と梅ミニ盆栽を仏前に  
ミニ盆栽どんどん増えて楽しみに

奈良市 宇賀史郎

貧乏性妙薬はなくなただ眠る  
PCと向かい患者を診ない医者  
旧友の顔認証も名が出ない  
虚偽詭弁フィルター軋む立法院  
舫いでる小舟に不安抱く海

奈良市 高橋敬子

いつもの兜飾り我が家の五月来る  
予報士が言うようまわす洗濯機  
マンネリを味方ばかりで脱け出せず  
味方かどうかピンチの時に気付かされ  
塩効いた言葉今なら感謝状

奈良市 辻内げんえい

大安売り主夫もチラシを見えています  
家では喧嘩外では味方の妻がいる  
西暦派だけど今は元号使ってる  
事故ニュース免許返納後を押す  
テレビ解説納得できずネット見る

奈良市 山本昌代

おしゃべりが出来る元気が嬉しいの  
ホンマやでお肉食べると元気です  
母さんの元気はへらず口にあり  
お下がりをもらいキラッと今日の母  
温情のおかげ背骨を立て直す

奈良市 米田恭昌

令和改元いっそ懐かしあの昭和  
自分史にスパイスちよつと足しておく

ベアルック夫婦の絆深くする

じいちゃん必携ガラケイと電子辞書

再びが続くセンセイの失言

生駒市 飛永ふりこ

紫陽花へ美白のような雨雫

茄子胡瓜生き生き伸びる言葉掛け

淡竹からふと懐かしい母の味

ときめいて千春のライブ宇宙めく

真夜中の波音我に安らぎを

香芝市 大内朝子

正直を叩き込まれた亡父の背

元気を競う友いて老いられぬ

不器用な生き方だけ悔いてない

亡母さんに抱き締められたぬくい夢

貧しくも昭和の頃の人の情

香芝市 山下純子

教科書に見た遺跡息づく街ローマ(イタリアの旅)

イケメンの船頭唄うカンツォーネ

ベニスの夜浮かぶ寺院と白い月

トレビの泉願ひ忘れてコイン投げ

ナポリにてカウントダウン祝令和

奈良県 安福和夫

免許返納早く促す事故ニュース

あと五年支障はないと思つてる

操作ミスないと言い切る自信なし

ゴルフへは他車便乗でのみ参加

車庫入れの所要時間は孫の倍

奈良県 谷川憲

ブラゴミが故郷の海に押し寄せる

寒暖の差にうろたえる喜寿の坂

温暖化ワイキキビーチまで沈む

升席の椅子なんとなくそぐわない

一切はなりゆきと言ひ希林逝く

奈良県 中堀優

人生のマラソン残りあと少し

生き方を変えさせたガンへの感謝

合掌のあなたに無垢の心みる

居るもんだ泥んこになり遊ぶ児等

ジャスミンが地獄道から呼んでいる

奈良県 長谷川 崇明

十秒の壁アメリカで次次と

スイーツの芋も主食のあの昭和

芋づるで親が繋いで今のほく

袴を脱いでやさしい風に会う

庭に咲く花は知らない妻の汗

和歌山市 上田紀子

理想とは遠い所にある答  
決断がついて時計の早送り  
平凡と隣り合わせで来た七十  
身の回り自分で出来てこそ長寿  
四方海魚離れの進む国

和歌山市 喜田准一

経験が生きる仕事もスポーツも  
なつかしい顔顔が夢枕  
ウカウカと道も歩けぬ世が怖い  
満席と知ってトイレがまた近い  
今日もまたあれこれそれで暮らす妻

和歌山市 坂部紀久子

穏やかな朝へやる気の蜆汁  
締めても締めてもゆるむ老いの螺子  
自由過ぎる一日何も手につかず  
なる様になつてゆつくり湯につかる  
六月の蚊のふわふわとたよりない

和歌山市 武本碧

茶柱の一つが勇氣左右する  
削除キータイムトンネル欲しくなる  
ガス抜き温泉ファイト置き忘れ  
鮮やかな終止符を打つ椿の緋  
幾たびの海をくぐつてきた命

和歌山市 土屋起世子

太陽になめくじ這った跡映える  
今年もまた猛暑の兆し水を買う  
補聴器を忘れにこにこ頷いた  
おとこの疵が再び疼きだす  
不愉快な過去は封印フルムーン

和歌山市 福井菜摘

若者が歩幅合わせてくれている  
自我ひとつたむと風もやわらかい  
ほどほどの面子が老いの杖になり  
まだ生きたい心が弱音吐かせない  
晩学の森わくわくと歩いてる

和歌山市 古久保和子

絶景はどこにも負けぬ里帰り  
楽しい話だけが聞きたい耳そうじ  
歴代の由緒正しき地域猫  
ペンケースには鉛筆が入らない  
タチアオイ天まで咲いて梅雨明ける

和歌山市 堀富美子

身の丈でリッチと思う余生行く  
ペースメーカー今日も十曲歌わせる  
あがいてもシャッポ脱いでる人が居る  
熱中へこのひとときで生きられる  
久々の兄妹老いを遠くする

和歌山市 松原寿子

エメラルドグリーンに心洗われる（日本のエーゲ海白崎海洋公園）

風ぐ海に元氣もらって脳牙える  
穏やかな波に癒され生きる術  
片意地を張るのはよそう海の蒼  
醒めた眼で見詰めなおそう波静か

岩出市 藤原ほのか

この色に納得ができぬりつぶす  
通知受け日々の暮らしを改める  
この路は険しいけれど昇りきる  
暮らし向き楽ではないが幸せだ  
当り前思えた日々を懐かしむ

海南市 小谷小雪

国寶がスカイツリーを染めて行く  
本当は座敷がいいよ炬端焼き  
自己防衛だらうか膝をかかえ込む  
茄子の花遠慮なさらず朝の水  
今どこに母が使った車椅子

海南市 堂上泰女

ポテンシャル信じ自分へ入れる鞭  
孫誉めてモチベーションを押し上げる  
生きている限り手垢はつけません  
友情の絆鋼鉄製である  
プロローグ紫陽花だって無垢である

紀の川市 山東日出男

本棚で眠ったままの新刊書  
浮世絵の雨は音まで降ってくる  
老いてなお磨きをかけるエゴイスト  
A I の解雇通知に容赦ない  
登り坂買物袋からリンゴ

京都市 藤井文代

背伸びしたことでつまずき自己嫌悪  
今は黙るきつと出番はやってくる  
貧血気味だのに褒められ騒いだ血  
スリーサイズ今もどきどき計る前  
おじさんがひとり住いでおばさん化

京都市 榎本宏子

ひいじいちゃんの花に観光客のバス  
元気です医者に余計なこと言わぬ  
ヨガポーズ無理してからの筋違い  
初運転左折左折で遠回り  
あのことは目くばせをして黙らせる

京都市 三宅満子

四人部屋生きざま個々に透けて見え  
自分にも水をやりたいこの暑さ  
病み上がり日傘の重さ身にこたえ  
体調の悪さを猫が聞いてくれ  
眠れる虎どうやら本気牙をむく

（山田葉子さん、今井万紗子さん、大久保眞澄さんは45頁にあります）

## 川柳塔の

# 川柳讃歌

(175)

上方芸能評論家 木津川 計

### 川柳塔読むは「編集後記」から

丸山 礼一

礼一さんの読み方は僕も同様で、書店の店頭でも編集後記と巻頭言をまず読む。これでは中身はわかる。それほど両者は雑誌の要だ。ことに編集後記には編集者の文学的センスと力量が籠められている。だから僕は朱夏さんに感嘆しているのだ。わずかな字数でその雑誌を評価させるには後記自体が文学でなければならぬ。さて、礼一さん、僕はいま唇を噛んでいるのです。川柳塔の真真中に僕もいますが。いつか「川柳讃歌から」を目指します。

### 友達っていいね本屋で待ち合わせ

田中 ゆみ子

「友を選ばば書を読みて六分の俠気四分の熱」と与謝野鉄幹はうたった。書を読まなかったであろう麻生財務相は「未曾有」を「みぞうゆう」と読み、安倍首相も「云々」を「でんでん」と読んだ。横山ノックという不勉強

も大阪府知事就任初の議會で所信を表明、「自ら」を「じら」と読んで秘書課を絶句させた。俵万智は「文庫本読んでわたしを待っている背中みつめてすこしくやしい」と。彼は本好きだったのだ。ゆみ子さん、あなたもまた。

### 寝ときや毎日顔見にくる息子

山本 加お里

僕の「一人語り劇場」をプロデュースしてくれるNさんは毎日午前中、老人施設で過ごす母親の見舞いに行く。雨の日も風の日も欠かすことのない彼を僕は敬服する。というのも僕は妻の実母と同居したが、「四十年大阪に住んで大阪城へも行かなかった」とつぶやいて逝った。僕の母は長年独りで暮らし、「通天閣に昇りたかった」と洩らして他界した。いまも疼く僕と妻の悔いである。毎日見舞うのはNさんだけではない。加お里さんも幸せ。

### 次世代に戦争の絵は描かせない

小野 雅美

「ハナ ハト マメ マス」と小学一年の国語で教えた大正六年から表現が変わっている。「サイタ サイタ サクラがサイタ」「アカイ アカイ アサヒアサヒ」「ススめ スメ ヘイタイススめ」へと十五年戦争の進展につれ戦時色が反映する。軍国教育の教室では「鬼畜米英」「欲しがりません 勝つま

では」を連日教えた。もう五年僕も早く生れていたら予科練に入って散華した。雅美さん、次世代が平和に暮らせませうにと僕も。うぐいすも鳴いてまあまあいい住処

上田 ひとみ

「鶯の自由自在に鳴く里は酒屋へ三里豆腐屋へ二里」は狂歌の昔だ。酒屋も豆腐屋も姿を消したこの頃は「卯の花咲きほととぎす鳴くわが家はバスも通わずスーバーもなし」と朝日歌壇で(19・7・7)読まれる。かつて望まれた田舎暮らしだが近年は都会の真真中に住みたいに変わった。文化も公共施設もシルバーホームも整っている。「住めば都」は「住まば都」になった。ひとみさん、うぐいすの鳴く住処にバスもスーバーもありますか。

### 溜飲が下がる話に出合わない

古今堂 蕉子

二〇〇万円なければ老後を暮らせないと金融庁は言う。ポリーナスもなければ退職金もない非正規の勤め人は呆然である。「非正規の数は第二次安倍政権発足時の12年10・12月期を比べると309万人増の2152万人に上昇。正社員の上げ幅の1・8倍で、全体に占める非正規の割合は4割近い。(しかもその約73%が年収200万円未満) (日刊ゲンダイ)。蕉子さん、僕の溜飲も下がりにません。

# 橘高薫風句抄

〔橘高薫風川柳句集〕平成十三年発刊

その朝も髭を剃ることからはじめ

合歡の花母の乳房を焼いて来ぬ

朝々を羯諦羯諦と悔いつづけ

亡母の闇は鬱金の闇か夢に見たし

亡母の闇この世は雨が降っています

香の銘天菊とあり亡母の闇

白菊千日仏も飽きはしませぬか

墓の前もとの子一人母一人

赤電話髭の殿下じゃなかったか

鰭だけを動かしている河豚の顔

月天心男が出会ったのは男

人妻と濁りにしまぬにこり酒

亡母初盆

送り火を極楽の火と子は信じ

長女章子結婚 二句

白は光りに光る綿帽子

紅唇もまた光りに光る綿帽子

娘が嫁ぎ炬燵で正座する父か

畏友俊平兄へ

やがて君と白夷叔斉たるもよし

初光悪人ばらを刺し通し

梅よりも桃に魅かれる少し老い

軽い嘘種なし葡萄食べながら

軍鶏抱いて男の流転限りなし

剃髪をして紫の底知れず

余呉の湖灯ともし頃は灯がともり

白い山燦然とあり儀式の場

見返るに長すぎはせぬ鶴の首

豹を着て豹の匂いのする女

茶の間では書斎の頑固ほどでなし

揚雲雀迦陵頻伽となりおおせ

落雲雀亡母の居どこは地か天か

紫は仁義礼智信を統べ

白牡丹レーダーよりも雨氣を知り

男を磨く女を磨くやや違い

# 自選集

小島蘭幸

マニユアル車にしました古希を過ぎました  
写経書く莫山展を見た日から  
我が街の風CMに乗ってくる  
鰻重の代わりにうなぎパイを買う  
比翼の句碑を見ている夫婦なんですね

土橋螢

反省をしている虫が鳴いている  
お寺から仏になれる話聞く  
威張っても孫とおんなじ背の高さ  
十五夜に唐麥木が立っている  
長生きをして若者の邪魔をする

仁部四郎

個性派のスター時代の息を帯び  
更めて個性に気づく金婚日  
わがままを個性とほめることもあり  
民族の個性戦さと呼ぶのかな  
憲法の個性鑑む十五日

前 たもつ

三宅保州

土地の値が上がっただけの村おこし  
パソコンで乱筆多謝と書かれても  
江戸っ子の孫にやり込められました  
秘訣などなんにもないと言う秘訣  
非常物出品に句集入れています

福士慕情

津軽三味春夏秋冬掻き鳴らす  
花野飛ぶ番の蝶に嫉妬する  
雨あがり蟻には辛い回り道  
羽搏いてみても所詮は籠の鳥  
どうせなら論吉が良いという見舞い

宮西弥生

窓際で首の捌きを冷視する  
向き合ったランチタイムはまだ他人  
情けには情で返すまで粘る  
公園の温度ひとを差別せず  
緋の彩を紡いで女は逢いに行く

村上玄也

新元号昭和を更に遠くする  
世界中右に傾きかけている  
どの国もトランプ真似て自国主義  
勇ましい言葉が受ける世相なり  
その昔歩んだ道を歩みそう

森山盛桜

事も無く越えて行くのか亡父の歳  
カリカリと生きて日溜り見逃した  
名も知らぬ花で済ませている無学  
青春の甘酸っぱさが湧いて来ぬ  
期待せぬ方にゴーヤが這い上がる

触れる

木千代

たどたと家の中さへ覚束な  
私の意志に機能は従わぬ

立枯れの木々と此の身は同じ事  
それでも風は梢あたりに触れてくる  
どうにか動く手も鉛筆に触れたがる

山本希久子

令和と大書万葉の世に想い馳せ  
仏縁をたどると花の寺に着く  
時代は進む私の足で追いつけぬ  
まだ冬の絵の中で老老介護  
わたくしを濡らしただけの通り雨

板尾岳人

お父さん恩賜の煙草吸うてはる  
八月のホタル兵隊さんでした  
お母さん残暑厳しくなりました  
戦争がないのでゴルフしています  
恐山ドローンに乗って逝くつもり

川上大輪

心機一転気合を入れてまた遊ぶ  
天国も地獄も知合いが多い  
煩惱の数は誰にも負けてない  
思ってもみませんでしたなどと嘘  
起承転遊遊び足りないようです

木本朱夏

腕組みを解く人生八合目  
全集の一冊欠けたまま梅雨に  
ハーブティー似合うおんなになんたくて  
太りすぎた金魚と海の話など  
チチンブイぶいと吐きだす枇杷の種

斉藤 昴

皆澄んでいる瞳だない仲間  
飛んで来た種庭隅で花をつけ  
太陽がくれた甘味に嘘がない  
干し草の香りが好きで牛好きで  
緑の羽根になり鳥は成仏す



ニンニクを所望誰にも会わない日  
ヒマワリに憧れるけど惚れません  
売り家の庭の四ツ葉のクローバー  
川柳人たるものこそ毒を吐く  
古希だつていうが老人ではないぞ

高瀬霜石  
竹治 ちかし

簡単に死ぬぬ余生の趣味多忙  
ハヤブサの見せるさすがというドラマ  
油断した浅瀬で溺れそうになる  
神の城覗くゲノムにある不安  
何がどう変わって巡る幸不幸

津守柳伸

騒しい世界九条ゆるぎなく  
溜るのは新聞ばかり意思疎通  
お供はひとつ覚えのユーハイム  
さわやかな緑ボツンと一軒家  
鹿沼土揃え手を焼く季の移り

都倉求芽

高齢化その先頭にいるカレンダー  
大声を出すこともないひとり  
投句する日は早く日が暮れる  
時間たつぷりとことん髭を剃る  
もの言える天安門のない日本

こむら返りが今日も安眠妨げる  
ヴィオロンのヴがなくなる一大事  
積読が溜まる心に風が吹く  
平成より昭和に強いインパクト  
主婦の座に退位などなし米を研ぐ

西出楓葉

#### 第42回 神戸川柳大会

日時 10月26日(土) 午前10時開場 出句締切 11時30分

場所 兵庫県中央労働センター 2F 大ホール

神戸市中央区下山手通6-3-28

(JR元町駅・阪神元町駅西口から西北へ15分)

兼題 (各題2句・欠席投句拝辞・未発表句)

|       |       |   |
|-------|-------|---|
| 「年輪」  | 武田玲子  | 選 |
| 「カッ」  | 崎ただじ  | 選 |
| 「独」   | 西美和子  | 選 |
| 「滑らか」 | 平井美智子 | 選 |
| 「焼く」  | 渡村信   | 選 |
| 「紅茶」  | 村岡水   | 選 |
| 「雑詠」  | 岡田篤   | 選 |

会費 2000円 各題秀句に賞呈

事前応募の部

課題 (各題1句・未発表に限る)

|      |       |   |
|------|-------|---|
| 「舶来」 | 大森一甲  | 選 |
| 「回る」 | 中島憲三  | 選 |
| 「甘い」 | 末盛ひかる | 選 |

応募要領 所定用紙・原稿用紙・便箋1枚に句を列記

神戸川柳大会(10月26日実施)の出欠を明記のこと

投句料 1000円(郵便小為替)

締切 9月14日(土) 当日消印有効

投句先 〒662-0831 西宮市丸橋町4-47 めん受 彰 宛

TEL 0798-67-6310

主催 神戸川柳協会

# 川柳塔

(つづき)

長岡京市 山田 葉子

子等に会う時は背筋も伸ばして  
腹八分ようやくわかりかけ八十路  
ピント合わないままで一緒に暮せてる  
はみ出して違うカラーに染められる  
青いケシ揺れる景色にまた会えた

八幡市 今井 万紗子

忘れんようあなたの名前ラップする  
残り時間つい引き算をしてしまふ  
母真似て陽気に明日の米を研ぐ  
うきうきもドキドキもありまだ一人  
溜息はよそう幸せ逃げていく

奈良市 大久保 眞澄

世間体の範囲で気炎上げている  
不細工に転けてもう笑うしかない  
牢名主のネコが座布団独り占め  
冷蔵庫の奥の奥には何がある  
化粧室のうわさ個室を出られない

## 温故知新

小出智子川柳集『路の臺』から

子が巢立ち膝のあたりにある余寒  
大きめの枕に変えて子離れする  
合格をしたのか会釈してくれる  
練りわさび妻は愚かなままでよい  
あらかたの事は終りぬ袋帯  
帰郷する度に失うものがある  
悪夢から自重している二、三日  
夫にもお伽噺をしてあげよ  
漬物石を大切にして冬を越す  
縄飛びの出来た自信を忘れない  
向こうの橋とこっちの橋で行き違う  
子のこととなると全く意気地なし  
美しい錯覚のまま秋になる  
ともしびの一つは死んだ日のために  
浅からぬえにしで花に水をやる  
男と女川が流れてゆくように  
母が死んでそれからは母の夢をみず



西 出 楓 楽 選

鳥取県 西谷悦子

聞く耳へ追い風ついに吹いてくる  
窓開けてマンネリ風を修正す

たのしんで土とふれあう春の畑  
秋咲きにじつと支度をしてる花  
走ってもスランプの影ついてくる  
追い風の力を借りてから走る

松江市 山根邦代

マイペース決めこんでいる八十路坂  
生かされて欠点だらけいいじゃない  
完璧でなくても好奇心あれば  
あれこれと運動せよと言われても  
笹巻きの笹の香りのなつかしさ  
ホーランエンヤテレビの前が指定席

神戸市 大頭としお

アルバムの途切れに浮ぶ隠しごと

川柳に学ぶ癒しと和の心

川柳へ生き様確と遺します

ゴメンねがスツキリ言えた梅雨晴れ間

静電気起こしています悪しからず  
何もかもドッサリ作る母でした

益田市 篠原紋次郎

話す友無くて淋しいお月さま

極楽はこの世にあると言った人

数学のように解けない人生譜

もの言わぬお地藏さまに学びます

書く事がないと書いてく日記帳

山登る時は大きいお月さま

神戸市 松倉正美

アポ電を手薬<sup>てぐすね</sup>煉引いて待っている

若いもん軽い乗りでのバイトテロ

目が覚めて今日も生きてるがんばろう

憧れの君も今ではモンスター

体力が落ちても減らぬ減らず口

AIは性に合わぬと空威張り

広島市 田 桑 恵 子

体調を知らずコーヒー味がない  
コーヒーの香り身にしみ風邪治る  
パン屋で楽しみ増えた散歩道

山の色風の匂いで軽い足  
旧知のごとあいさつ交わす山の道

納得の眉引けた朝いい予感

西宮市 高 橋 千 賀 子

魚好き猫より旨く食べられる  
つばめの子無事に巣立ってほつとする  
黄昏ても女に磨きかけてます

令和だよ心機一転やり直そ  
のんびりと普通列車で花の旅

若返るサプリメントに少し乗る

三次市 伊 藤 寿 子

こんな日は友達の声欲しくなる  
ケセラセラ笑い飛ばせど空元気

竹の子ごはんやつと美味しく炊けた幸  
時の流れじわり不況の波かぶる

明治から令和へのれん耐えるかな  
わたしから商い取れば蟬の殻

美作市 岡 本 余 光

五臓六腑愚痴を言わずにただ寡黙  
喜びに脈もつられて急ぎ足

AIに情緒の記憶やめてくれ

やりたいこと並べてみると半ば無理  
コーヒーとタバコの時間惜しみなく  
戒めの言葉集めて脳硬化

弘前市 高 森 一 吞

平凡に今日もラーメンすすつてる  
昼下がりでデパ地下めぐり涼をとる  
金平糖角を残して消えた恋

マンネリでスパイス利かめ古女房  
ごはんだよ昭和の路地に母の声

父の背をじつと見送る影法師

丹波篠山市 河 南 利 尚

布施なのに料金表のあるお寺

見たこともないのに世界三大美女  
子供より大人で増える紙オムツ

鉄火場と言えばカジノも恐いとこ  
パスカルの頃にあったか認知症

非正規のファースト党があつたなら

和歌山市 倉 橋 悦 子

万歩計休んだ悔いをゼロと出す  
気が付けばハイヒールからローヒール

ふる里へ辿り着いたかつばめの子  
薔薇色の人生と説く苦も楽も

メル友と会話楽しむ余暇満たす  
ライバルは常にわたしの中に居る

黒石市 北山 まみどり

なんとなく過ぎ去っていく記念の日

ロソクもケーキも贈り物もなく

年月を一つ重ねただけのこと

少しだけ期待していたサブライズ

慣れすぎて伝わりにくいドキドキ感

白河市 鈴木 たけし

キッチンの朝は七つの電子音

廊下で二時間診察室五分

穂が揃い過疎地は蟬の声ばかり

明け方の夢はカラーになって覚め

大家族みんな茅葺きから発った

富士見市 中島 通則

終活より今生きるのに精一杯

我が身おき人の道説く評論家

羽根のように軽い議員の失言

原油高になれば免許を返します

なぜ争う丸い地球の仲間たち

横浜市 加藤 佳子

フレッシュな風が運んできた希望

猛暑日のおまけもついてきた令和

これからと思う心に火をつける

少子化の中で救えぬ子の悲劇

傍観者責める私も傍観者

横浜市 川島 良子

本番の夏へ鍛えるスクワット

AIの進化で人間の退化

一枚の資格が活きる古希の道

8050他人事とは思えない

凶星だな真っ赤に染める純情派

静岡市 渡辺 芳子

だまって咲きそして散る花自然の美

山奥で姿を見せず泣くカジカ

今生きて歩ける事に感謝して

幸せを一杯見つけて年重ね

同じ世に生まれた縁の中で生き

名古屋市 富田 末男

なぎ倒すために持ちたい底力

孝行は親の教えを守り抜く

考えの違いで出した正誤表

ユーモアを持てる力は笑顔から

信頼が和む話にしてくれる

京都府 北野 クニオ

青空の果てに希望と夢がある

幸不幸それは自分が決める事

親が子に踊らされてる現代は

幸せは小さい方が長続き

元号が替わり昭和が懐かしい

大阪市 石田孝純

池田市 上山堅坊

まだ少し優しい棘が残る古希  
ときどきはどきどきしたい古希の夏  
だとしてもかかあ天下で平和です  
無事生きて無事生かされている奇跡  
愚痴を呑み言い訳も呑む喉仏

大阪市 樋口眞

優しくて清貧だった父母偲ぶ  
平凡な日々はいつまで続くやら  
違和感が続き頭をよぎる癌  
空席へ突進スマホ好きな人  
また思う優先座席誰のもの

大阪市 松田聰

まず汗かく人が仕事で結果だす  
失言といえぬ暴言終わらない  
政策で大阪城の緑減る  
失言防止マニュアルを見て笑うのみ  
大相撲軽く見られた政治ショー

大阪市 森田遊子

古い仮面洗って手入れして使う  
手伝わぬ人に正論聞かされる  
手の中に二十歳の夢がまだ眠る  
好きなことしかないから機嫌いい  
ポケットに修正ペンは入れてない

だれかれと嘯みついていた友も惚け  
カルテから飲酒の権利奪われる  
大変な奥手白寿で咲くつもり  
不利なことなんか聞こえぬ老いの耳  
無茶できる田舎育ちのこの身体

池田市 倉本一弥

妻の小言敬いながらスルーする  
心配性時計はいつも進めてる  
五つ星旅館も聖書置く時代  
夜のフェリー灯り点々小島抜け  
盆踊り炭坑節がまだ聞ける

泉大津市 助川和美

母の日に贈った日傘いま遺品  
来る夏にパンフレットで終る旅  
待ち合わせファッション雑誌めぐりつつ  
サラリーマンかつ井頼み上着脱ぐ  
網戸ごし田植え終えたか蛙鳴く

貝塚市 吉道あかね

身の丈で生きて不足はありません  
聞き間違い言い間違いになるコント  
誰とでも仲良くなれる丸い鼻  
平凡な暮らしカラーが好きと言う  
食卓にガラスの小鉢夏にする

門真市 坂本 星雨

大阪府 奥野 健一郎

生きている祭り句会で弾けよう  
飼猫とにらめっこして雨の午後  
妻の愚痴少し乾いた梅雨晴れ間  
はばたきのチャンス静かに風を待つ  
しつかりと風を掴んだはずだった

豊中市 木藤 こみつ

ちよつとだけ抱っこしてみる新生児

神戸市 奥田 宗光

葬式は菊より薔薇で頼みます  
大和郡山金魚育てる町おこし  
ほどほどの家にはほどの私  
私が命ふきこむ千羽鶴

豊中市 齋藤 奈津子

限定品前で売り切れ苦い顔  
懐中電灯買って百円探す夫  
かき氷どこから山を崩そうか  
増税分庭でピーマン育てます  
うたた寝にテレビ消されて目がさめる

寝屋川市 岡本 勲

生きていく明日を信じて米を研ぐ  
病院のハシゴしすぎて足のため  
体よりサイフが止めるもう一杯  
トキメキが消えても消えぬ妻がいる  
一人居の人恋しさに書くはがき

白石をバシッと碁盤暑氣払う  
押して引く恋も相撲も手は似てる  
名誉職つまり干されただけのこと  
花火より背筋ぞくぞく稲光  
ご厚情肝に命ずとそれつきり

「アラヨッ」とこれで決まったわたし流

今どきは手軽にレシビスマホから

そのうちに忘れてしまう母の味

発信前ブレーキの位置再チェック

胸見せます口も開けますお医者さん

神戸市 近藤 勝正

年号が変わり変化を探す朝

鏡拭く心底笑う日の為に

苦しみは分けても楽は独り占め

さば缶の効き目が先か飽き先か

朝6時血圧計は目覚めてる

神戸市 山根 弘華

決意して一歩ふみだす空のあお  
お誘いに化粧直して身づくろい  
観る人の心のままに花は咲く  
ふる里で誓った決意まだつぼみ  
まだやれる信じていれば花は咲く

尼崎市 清水 久美子

紫陽花が見頃とお茶に招かれる  
木苺が昭和の味で実をつける

ファミレスで予習マクトで補習する

阪神が勝つとすいすい出来る家事

おセイさん逝ってシヨツクな川柳界

尼崎市 近 兼 敦子

どうしても好きになれないお人柄

時時は逃げ道あれば楽になり

あふれでる情報少しフタをして

勝つだけが全てじゃないとわかつて

ジジババの期待背負って徒競走

三田市 東 内 美智子

孫と冷や奴くしゃくしゃにして生ぬるい

犬散歩長いお喋りふて寝する

妻も子も会社のババの事知らぬ

大阪は生まれ育った良い所

びしょ濡れの傘の秘密も干している

三田市 馬 場 貴美江

トランプ氏ゴルフ相撲と超多忙

八十路半骨董婆と呼称され

補聴器が内緒話を拾いあげ

プレゼント添え書あればなお嬉し

お先にと稽古仲間が鬼籍入る

三田市 森 玲子

踏み出せば見える景色がきつとある  
戻れるなら夢追いかけたあの頃に

孫帰りシツプ貼り合う夫婦愛

服選びあれこれ迷い元の服

腹八分残りのシメはチヨコバフェで

宝塚市 太 田 としお

懐かしい男尊女卑という言葉葉

高価だから必ずいいと限らない

ヘプバーン観てイタリアへ旅をする

喜んでばかりいられぬ長寿国

料理より顔の手入れに忙しい

宝塚市 岸 田 万 彩

アリバイを作った友に手を合わす

不器用の隠しようない手巻き寿司

利子計算小数点の位置迷う

哲学を勉強し過ぎひきこもり

初入れ菌豆腐を食べて様子みる

丹波篠山市 久保木

自動ブレーキほんとに効くかためしたい

心配は免許返したあとの農

年金で農の赤字を埋めてます

年金をたよりに農を続けられ

梅雨に入り十連休の野良仕事

剛



丹波篠山市 横溝安子

亡き友に恩をかえせぬままになり  
若い親スマホ片手で子をあやす  
彼の夢つづき見たくてまた眠る  
ルビウたれはじめて読める子の名前  
忘れたい忘れられない過去もある

三木市 山口ヨシエ

紆余曲折むだでなかった人間味  
ありがとう素直に言える心地よさ  
播州平野早苗田渡る風の音  
浄土寺の弥陀三尊に西陽映え  
鶴退治伝説残る寺の鐘

奈良市 尾畑なを江

コーヒーは苦手で芳香は大好き  
家計簿が我が家の歴史もの語る  
旅帰り新茶の味に酔いしびれ  
うぐいすも五月六月良く唄う  
暑い時サロン前掛けなおアツイ

和歌山市 北原昭枝

過去帳を辿り先祖の墓参り  
空白の時が流れて夢の中  
自分史のいつかのれんを下ろす時  
若い日の涙の雨が虹になる  
雨垂れが静かにひびく仕舞い風呂

和歌山市 佐藤まき

十連休自宅療養出費ゼロ  
景勝地テレビ機敷で見えてまわる  
長良川に鵜飼の季節めぐり来る  
篝火に浮かぶ鵜匠の伝統美  
綱さばき喜々と飛び込む健気な鵜

和歌山市 西川千鶴

梅雨晴れ間前頭葉も干しておく  
運命線枝を一本書き添える  
大小の傷を繕い今が有る  
月世界土地の単位は坪ですか  
ごきぶりと対峙している午前二時

和歌山県 森下よりこ

うつとうしい日々が続いて花うつぎ  
稀勢の里辞めてあんなに喋るんだ  
炎鵬にかわいさに思わず拍手  
次の花咲く楽しみのある畑  
私の余生光らす花作り

鳥取市 山野すみれ

緑あつて風船は手を離れ空  
咲いて散る咲いて散るから美しい  
自家発電するよに三度飯を食う  
重箱の隅で始まる物語  
キラキラのダイヤ怪しい薬指

倉吉市 若松 由紀子

年金の範囲旅行も飲み会も  
元気かと言だけの子の子のメール  
ウィンドーに映る私は母の顔  
無茶するな逝きたる夫の声を聞く  
何回も聞いて飲み込むもの忘れ

米子市 川本 美津子

物忘れじわりじわりと追つて来る  
断捨離で褪せた手紙に亡母の影  
自然体令和を生きる一〇〇の義母  
水田に落とした影と散歩する  
充電をしても効き目の無い体

米子市 戸田 真理子

茶柱が二本良い事ある予感  
茶柱が弱い私の背を押す  
七人の敵にネクタイ動じない  
不満なしかど何かがまだ足らぬ  
雨上りの雑草妙に誇らしげ

鳥取県 橋本 整

久しぶり飲もうと友が提げてくる  
したたかに生きてる昭和の古狸  
ひっそりと留守を守って老いの日々  
五月晴れ紙ヒコーキに託す夢  
梅雨晴れだ脳の洗濯元氣よく

松江市 中筋 弘充

レジ嬢が微笑みかける店に行く  
ポイント10倍要らぬ物まで買わされる  
あごの刺身ツーバック買う年金日  
悔しさが一番強い最後尾  
夫婦喧嘩勝率五割死守したい

安来市 原 徳利

紫陽花が雨の口づけ待っている  
煎餅も会話も湿気る梅雨の入り  
ほろほろと酔ってひとりのショータイム  
ズビズバとはしゃいだ昭和遠くなる  
東京の背骨に残る江戸の粋

岡山県 大杉 敏夫

すんなりと事が運ばぬ頑固者  
頑固者振り鉢巻親譲り  
頑固者婆様だけは逆らわぬ  
頑固だが真正直で歪まない  
閻魔様頑固者です願います

尾道市 小畑 宣之

成功の鍵泥臭い誠実さ  
防空壕仲間と今日はゴルフです  
健康法遠い程良し駐車場  
愛犬に名犬駄犬の区別なし  
認知症予防し治す薬待つ

竹原市 若年幸子

雨続き御洒落楽しむシヨッピング  
優柔不斷うつちやりが出来ません  
紫陽花を女心と言わないで  
時代かなあ納骨堂のコマーシャル  
ご無沙汰の安否伺うお中元

竹原市 土井輝恵

もう自分のために生きろと言うけれど  
検査済みベッドの顔が晴れている  
喫水線越えねばならぬ自立の日  
聞くまいぞ嫁に行ったか子はまだか  
葬式の経でこつくり不屈きな

山口市 中前幸子

微罪抱く胸に夏祭りの花火  
退屈を埋める雨垂れのリズム  
酸欠の虹急がねば消えそうで  
喪失のたましいブランコに揺れる  
蒼穹の画布いっぱいに夏模様

阿南市 小畑定弘

老人も軽いラブなら出来そうで  
自分史の多少の嘘は許されよ  
老人はマナーモードの恋をする  
ふるさとの虹が帰れとそのかす  
極楽へゆくカーナビを付けている

大洲市 花岡順子

棚ぼたを待つてるだけで年を取り  
目立たない塩に存在感がある  
切れ味を肌で試している研ぎ師  
それだけの縁だと思うすれ違い  
マイペース人の噂は気にならぬ

福岡県 本田さくら

とりこんだ布団が初夏の風を吸う  
雨予告蛙一斉ハーモニ―  
嘆かわしSNSで自殺とは  
北海道一番暑いなんて変  
「なつぞら」に幼いわたし思い出す

佐賀県 真島久美子

夜が明ける頃には記憶裏返す  
かき消せぬものがスマホを重くする  
人混みを笑う寂しいだけの目で  
我儘を封印すればただの夏  
自惚れてしまう貴方が笑うから

沖縄県 あらさくら

何くそと背負った荷物重かった  
歳重ね趣味のおかけとぶらり旅  
ふる里の土に手を置き母偲ぶ  
キャラクターポロは着てても中身だよ  
あと一歩かかげた夢は届かない

唐津市 岩崎 實

この椅子にすわるとすぐに眠くなり  
患者力薬の加減医師につげ  
国賓を英国にてはデモもあり  
通達も馬耳東風と瞑想し

沖縄県 禰 モモト

食材は並ぶ奥から買う事に  
母さんは主語がないよと子に言われ  
苦勞して掴む幸せにげないで  
子育てのメジロ家族は交番所

沖縄県 宮 すみれ

ダイエツト脂肪斷捨離スツキリと  
くちなしの落ちた花花水に浮く  
いやみなくやんわりほめる売り子さん  
デイスプレイ庭の枯れ木も様になる

黒石市 千葉 風樹

献花献菓が積まれ信号機も無言  
赤ちゃんポスト今日もこぼれてくる銀河  
令和元年ソマリアの子へ蜚来い  
味噌汁で洗う心の打撲傷

五所川原市 むらの ひとり

リタイヤで濃くなってくる家族の血  
寄生木のあくまで青く居候  
好きなのは隅と陽当り 猫な人  
満ち足りた猫の月日は丸い顔

宮城県 月波 与生

靴紐を結び直して言う別れ  
靴下の穴に留守番させている  
無敵だと思ふ眠るまでの二分  
揺れながらつかずはなれず陰と影

東京都 高岡 弥生

たまにはね人のベースに合わせたら  
化粧品変えても顔は変わらない  
抽選に当たればラッキョーオリンピック  
子の行動親を見るよでおもしろい

横浜市 巖田 かず枝

パソコンでマージャン楽し惚け防止  
飲み会に湿布をはって杖をつき  
長生きは親からもらうDNA  
神様の返事はないが祈る日々

横浜市 長島 亜希子

狭い家で良かった置き場ここかそこ  
両首脳選挙意識のパフォーマー  
マスク増え表情見えぬ不安感  
茶化粧水ドクダミパワーもらってる

神奈川県 小田 幸子

月光を見上げるそばに大座る  
晩酌後ワルツの相手白い犬  
捨てられたウサギ無言で草を食む  
春雷に越冬メダカ泳ぎ出る

名古屋山本三樹夫

久しぶり貴女の酌で酔いつぶれ  
アクセルが魔物と化した悲惨事故  
晩酌をやめたら夕餉味気無く  
実直さ時計の針が気にかかる

江南市脇田雅美

両親の健在中はコメ貰う  
入退院文句を言って手こずらす  
天国では足腰痛みもうないよ  
九十年生き抜いた兄頑張った

豊橋市小松くみ子

霽開気と香り味わう喫茶店  
順番と言われて重いお役です  
借りて来た猫をやめたら逆剥けが  
四〇でも我が子は子供甘い親

豊橋市西郷紀美代

子の負傷祈るしかない腑甲斐無さ  
イクラ好き回転寿司に誘う孫  
日焼けして指輪似合わぬ働く手  
見られてる視線が伸ばす丸い背

大阪市柴本ばつは

裸一貫ようやり抜いたおじいちゃん  
もうしつかり身内のつもり核家族  
母は阿父は昨です底力  
相続税いらぬ分け前ホツとする

大阪市中村民子

落語会月に一度のかぶりつき  
道化師の笑顔の奥はもの悲し  
いつも並時価のにぎりは記念日に  
風邪引きが教えてくれた歳の数

大阪市中村峰子

わからない普通普通というけれど  
納得がいかないことは放っておく  
思い立ちすぐに忘れて何だっけ  
このごろは生きた時間がいいとおしい

大阪市降幡弘美

邪心まで写りこみそうCTに  
お隣の担任が良く見えるのね  
私よりIQ高そ家電たち  
イライラし磨いたお風呂ビッカピカ

大阪市前川善之

炊く御飯火加減一つで旨い味  
自衛隊災害救助だけで良い  
かき氷暑さで溶けて汗になる  
ギャンブルも熱中症も困りもの

大阪市森廣子

神の魔法で毛虫から黒揚羽  
ここ一番の道理曲げずに押し通す  
今のところ私醜いアヒルの子  
幸せは手間暇かけて育てます

大阪市 横山里子

父の日も糖質0の発泡酒

嫁の手はネイルアートの美術館

浄土へと続く回廊花の寺

まだ登るザイル仲間は老い知らず

泉大津市 磯野不二夫

説教より洗練された世辞が好き

勘ぐらぬもうそれだけでいい女

悪口は言わないなんて味気ない

微熱アリとろけるような昼下がり

河内長野市 穂口正子

若者は街にいましたようけいる

田舎暮らしおしゃれな服の出番ない

思いあふれお国なまりでプロポーズ

息子の声忘れて詐欺にかかりそう

河内長野市 渡邊修

テレシヨップ誘いすぐ乗る爺と婆

足りぬのを余裕に似せる北の国

五サイズを抱えて入る試着室

孫来るとスマホレベルがジャンプする

堺市 楠井輝子

日傘差し片陰追ってウォーキング

気いつけや転けたら終わり寝たきりに

爺と婆気温変化にあたふたと

妻の留守濃い焼酎を飲むウヒビ

堺市 羽田野洋介

センスなどなくても後は我武者羅に

いつの間にか孫が手強いライバルに

なんでかなホームが遠いタイガース

ヘルシーと聞いてついつい食べ過ぎる

堺市 古川光雄

年いけば病が気持追い詰める

孫が来たおやつのお買出しコンビ二へ

入院をする程の病せず今八十路

年増えて身長縮んで老いてゆく

高槻市 三谷白黒

お隣の解体音がやるせない

一万歩齡に合わせて半分

今の世も士のつく人は威張ってる

何か言った言ってませんの繰り返し

豊中市 荒木郁子

世の中を甘く考え落とし穴

欲を出し新手の詐欺に引っ掛かる

暗いニュース夫婦の会話湿りがち

背も曲がり母と似てきた口振りも

豊中市 貝塚正子

頑張れと祈る心に力こめ

目くばせて今夜のデート若い恋

同窓会縮んだねって笑いあう

禁煙を八回もして癖になる

寝屋川市 川 本 信 子

人は人わかつていても鏡見る  
讃められて謙遜よりもありがとう  
太陽を見たら私上機嫌

監視役いいえスマホは身内です

寝屋川市 坂 本 ミヨノ

夕焼けで山がこげてる夕日落ち  
飲み干したアワのうまさにもまだ飲んだ  
産み月の孫のお腹にあせも出来  
西瓜持ち甘いカタタク皆を呼ぶ

羽曳野市 磯 本 洋 一

プロ野球助っ人同士勝負する  
春の風小川につくる花筏  
食材は海外なれど日本食  
十連休祖母と母だけ休みなく

枚方市 谷 英 也

もう少しお待ちください闇魔様  
ピロリ菌お腹の中で飼ってます  
水鏡心の中もゆらゆらと  
湯上りの鏡が映すメタボバラ

箕面市 寺 井 柳 童

しっかりと体力つけて開幕へ  
本嫌い今も積ん読続いてる  
傾斜地も良いが通勤行き帰り  
古時計今日も元気に時刻み

八尾市 田 邊 浩 三

便利だがドコモ通いのスマートフォン  
間に合わせぬ自転車担ぎ歩道橋  
高齢者ばかり責めてる車事故  
節酒日の表面張力我が味方

八尾市 前 田 紀 雄

積ん読の本と静かに梅雨籠もり  
早起きは三文の徳ウオーキング  
年金の元を取ったら天国へ  
情報ので海で溺れるスマホ族

大阪府 高 木 道 子

政治家も舌にブレーキ掛けましょう  
雨蛙が両手をついて空見上げ  
雑草が此処と思えばまた彼方  
十葉がしんしんと咲く留守の庭

大阪府 中 内 孚 彦

大阪博手柄話が盛り上がる  
秘密保護同窓名簿も作れない  
北斗星曲がった先が君の家  
空気を割いてイチローは球を待つ

神戸市 青 木 公 輔

甘党の男の力借りている  
速達で来た告白の意味を問う  
祝い膳横のお猪口に目も触れず  
この顔で良ければ貸すと言われても

神戸市 輿水 弘

暑さのせいで蟬の声まで喰れている  
寝不足を昼寝とるところこれ日課  
傘寿越えアンテナ伸ばしマイウエイ  
積乱雲暴言はいて居なくなる

神戸市 斎藤 隆浩

枕元いつもあるのは紙とペン  
五七五夜中に浮かび朝消える  
句会場ぬけているのに目が覚めず  
無二の友今日もラインで生きてるか

神戸市 田本 古鈴

母の日に母を泣かせた過去がある  
義理というひとつのくくり他人です  
薬にも毒にもならぬ者ですが  
大空の雲がだんだん夏になる

神戸市 米田 利恵子

荒れた手も丸ごとおばあちゃんが好き  
元気です薬増えても間違えぬ  
正直な鏡が饒舌で困る  
柏手を打った帰りに事故に遭う

尼崎市 山田 厚江

京町家チャイナマネーが保存する  
かずら橋へつぱり腰で渡り切る  
ふる里の鈴鹿の山がお出迎え  
大食いに早食いは我が家の家風

伊丹市 延寿庵 野鶴

清らかになるまで墨を磨っている  
一滴の雫大海まで泳ぐ  
合掌のカタチところが丸くなる  
紫陽花が令和の風に溶けてゆく

伊丹市 平井 富夫

妻の愚痴言葉の棘が引っかかり  
お粥のみ十日入院瘦せもせず  
度が過ぎて健康ついに赤信号  
AIが電車走らせ事故もする

三田市 生田 えい子

ヘソクリと井勘定上手い母  
ごきげんさん歌が聞こえる父の風呂  
友の計にスマホの名前削除する  
図書館に今日もいました老いの友

三田市 稲角 優子

頑張った君にあげたいあの夕日  
山萌える心の窓も開けてみる  
雨みどり少し詩人になる予感  
幸せの継ぎ目優しい色で縫う

三田市 大西 重男

積算機の声についつい返事する  
血圧値納得できずまた測る  
早乙女に代り農機が田植する  
食事会入れ歯気になり味わえず



三田市 幸田厚子  
連休明けお出かけですかいや医者へ

ウツこそ根性魂見せ付けた  
うつ向きで僥倖ですと若き棋士  
断捨離も昭和生まれは捨てられぬ

三田市 住吉美和子

亡き母の法事に集う老兄妹  
紫陽花は矢張り雨天がよく似合う  
老女の血美味しくないよ藪蚊ども  
姫蚩田舎のネオンサインだね

三田市 辻開子

予約診一週間前だ摂生だ  
青空だ忙し急ぐ家事仕事  
毛筆もパソコンもダメつい電話  
ひと声をかけて尋ねて車椅子

三田市 中山寅男

手術前この半世紀走馬灯  
何かある險の君が首傾ぐ  
五のつく日追加ポイント狙う列  
国賓だ宙を飛ばない座布団は

丹波篠山市 澤良子

断捨離の今捨てないと後のゴミ  
ほろ酔いの立場忘れて意見する  
こぼれ種愛がなくても咲きました  
お酒って不思議泣いたり笑ったり

丹波篠山市 長谷川善輔

お疲れさま軽く言われて疲れ増し  
何食べよ迷惑顔の猫に聞く  
友逝きて仲間集いて酒となる  
堀越しに他家の向日葵待ちわびる

丹波篠山市 藤井美智子

新時代令和に託すわが行方  
足りないが年金いただくありがたさ  
ストレスが疲労さそって肩に乗る  
またピーポどなたが乗ってる救急車

奈良市 加藤江里子

母の日はクロネコ三度やって来る  
真っ白な布巾を絞りやり直す  
平等を唱え二極化進んでる  
猫もまたかかりつけ医を持っています

和歌山市 定松宏枝

開運の財布今でもべったんこ  
開店と聞いて長蛇も何の其の  
涙腺が弱くなつたか朧月  
包丁を研いで涙もみじん切り

和歌山市 鍋嶋澄子

連休を遠出ドライブ八重桜  
薫風を封じ届ける手紙書く  
西瓜食べ心さわやか初夏の風  
雨の中傘もささずに寂しい背

和歌山市 福島 一雄

ハトカラスばかりが目立ち雀消え

坪庭のつつじ満開群れる蝶

久し振り蚊音聴きつつ眠り入る

引きこもり便利なスマホあだになる

和歌山市 まつもと もとこ

逆立ったたてがみ撫でてみたくなる

丸坊主刈って恋せよハリネズミ

荒れた海砂糖ひとさじ入れましよう

ブレてない信じ合ってる鍵と穴

岩出市 村中 悦男

美田の月を蛙ふるわす愛の歌

いい電話急に体が軽くなり

雌花咲く多くの雄花従えて

メモ買い終えてまた半額に気が移る

和歌山県 三枝 眞智子

傷口に触れず背中をそっと押す

いさぎよく退いて病と仲直り

せめてくる白毛染めるのもう止めた

印相を変えて運命かえる欲

鳥取市 上山 一平

遡上するアユの世界も少子化か

不漁でもゆとり嬉しいアユ三昧

溢れ出るお湯ざわざわと旅ごころ

増税に十月までと槌の音

鳥取市 坂本 とも湖

夫婦仲会話もなくて悲しいね

認知症忍び寄り来る時知れぬ

通学路行き帰り靴音変り

楽しんで川柳詠んで生きてみよう

倉吉市 大羽 雄大

アンケート全部の良に二重丸

守り札旅のグッズに仲間入り

離陸する体勢ですな四コマ目

路地裏に遊ぶ青春今更地

倉吉市 田中 けいこ

人間とは信じられないネグレクト

子育てを虎は立派に果している

あの頃に戻って親と暮らしたい

自転車ごと飛ばされそうな強い風

倉吉市 堀 かずこ

化粧して鏡を見れば歳はとし

追われてた夢中に逃げた夢だった

後悔をしても過ぎた日戻らない

泣くまいぞやれば出来ると誓いたて

倉吉市 宮田 風露

恵みの雨青葉が光り放ち出す

過疎の村監視カメラは爺と婆

美しいものにまだあこがれを持つ

旅に出て鬱はあちこち捨てて来る

境港市 中井虎尾

人間も機械もくるう世の終り  
みえみえのお世辞に口が噴火する  
久方の桑の実それは昔味  
咲く花は美しさ知り咲くやろか

米子市 生田和之

妻入院わたし夜更しする安気  
ハルカスもスカイツリーも行かず老い  
格安のツアーも辛い旅の杖  
また今朝も嗚呼と目覚める午前五時

米子市 黒田紀美江

十連休休作も休み大あわて  
農作業十連休は暦だけ  
元氣かね畑の友に声をかけ  
座布団は居場所にとんと置いてある

鳥取県 飯野菖子

陽の当たる裏の畑で今日も暮れ  
いい朝だ今日生きることだけ思う  
目的をもって動けば身も軽い  
子の目線親をモデルに見つめてる

鳥取県 下田茂登子

八十五歳健診なんてもう受けぬ  
隣り同士結婚葬儀知らぬまま  
昭和一桁姑につくした話題です  
寝て起きて三食食べていい暮らし

鳥取県 橋谷静江

辛い時なかなか人に言えませんが  
突然の親友訃報力抜け  
衰えた事を自分に言い聞かせ  
今朝もまた野生動物畑荒す

松江市 相見柳歩

満足だカレーとうどん揃ったら  
あなただけ特別うまく転がされ  
世のために盲導犬を見習って  
大宇宙全てほとけの贈り物

出雲市 黒目ひでお

世直しの活動の輪を広げたい  
夢を追いつめて花咲く時を待つ  
運転は近場だけです気をつけて  
年重ねラジオ体操スクワット

出雲市 永見安子

ありがとう今日も一人で言ってみる  
鳥の声だけが住めば都なり  
有難い夢中になれる趣味を持ち  
農に生き指輪できない節できて

笠岡市 小野美那子

親のことと思ひ飯つぶ残せない  
話ぶりとうにさよなら決めている  
風に乗りいのちつないでゆく綿毛  
軽い嘘尾ひれが生えて風に乗る

瀬戸市 宮宅 比佐恵

茶のみ友心の穴をうめあつて  
笑つてた亡母に似てきて笑えない  
独りとは急所に湿布届かない  
どう言つてみても逃げ場のない加齢

広島市 松尾 信彦

寝込まない工夫の傘寿まず笑顔  
育児書を読んでも母のアドバイス  
AIに仕事移管で窓際へ  
無理をいう百点取れと言うトンビ

尾道市 日谷 寛

癌の奴ことわりもなくコンニチワ  
おい癌め銘酒を少し飲みましたろ  
怖れないと癌が裸足で逃げてゆく  
欲三つ捨てずに癌と前を向く

府中市 岸田 武

あんなのが政治をやっているんかい  
OB会大先輩になりました  
似通った同居の話聞いている  
ゆずられて少し淋しい席である

山口市 青木 隆子

母の言葉ひとつひとつを噛みしめる  
踏ん切りをつけた優しい友の言  
心の中に青く平和な空が欲し  
初節句兜を被り子はキョトン

松山市 郷田 みや  
足止めて眺めていたいツバメの巢  
カンバイは三百五十半分こ

ジョーク即みんな笑ってくれました  
近頃はラインで届く頼み事

今治市 永井 松柏

追いかけていたのは父の影法師  
シャッター街に残る餅屋は十代目  
誰彼となく長電話する独居  
コンビニと百均あれば生きられる

今治市 渡邊 伊津志

大根が煮えて夫婦の彩になる  
口癖のよいしよ鸚哥が真似をする  
慈母観音私の母のことらしい  
貧乏を責めてはならぬ冬の雲

高知市 三谷 松太郎

いつからか町内一の早起きに  
三つ指の親指がみえツノがみえ  
しゃべらずにそつと近づく春の波  
旧姓をそのまま守るハチキンさん

(前月分) 神戸市 玄 番 美恵子

かいた恥今人生の糧となり  
十連休元気元気は子等と孫  
優先席譲ってほしい今日の膝  
越える坂あつて元気が湧いてくる  
新しい時代をめくる春の風

# 俳風柳多留一二篇研究 74

小栗清吾・細井龍夫

伊吹和男・山田昭夫

石川道子

清 博美

631 いつ所帯買ッて来たよと初の午

小栗 万句合は「一ッしよたい」(安四梅2)。

初午の日に、誰かが(例えば父親)「一所帯買ッてきたよ」と言いながら、外出から帰ッてきたような光景が想像されるが、何を買ッてきたかよく分からない。

参考になる先人の解は、

初午ハ世帯の鍵の下ケはしめ

初21

につき「輪講(至文堂)」で、大村沙華氏が「子供達の初午祭のままごと遊びを詠んでいるのであるが」とされ、富士野鞍馬氏も「初午には、いつもより大掛りのままごとをしたように」として主題句を引用しておられる。また武笠山椒氏は同句につき「柳多留通釈」で「初午祭には、子どもが集まって、最寄りの家々

から、色々の食物や金銭を買い集め、それで大仕掛けな飯事をして遊ぶ」と説明しておられる。

これらの解説に従って飯事道具を買ッてきたものとすれば、「一所帯」という言葉の説明もつき辻褄は合う。ただ、当時、庶民が買う飯事道具がどのようなものであったか調べが付かず(今日の子供が買ッて貰うような豪華なものを買ッて貰うような気もある)、また他にめばしい類句が無いのも気になる。

「一所帯」に拘って、ひとまず先人の意見に従っておくが、もし飯事道具ではないとすれば、寺子屋の机、筆記用具、用紙などなど一式ぐらいしか思い付かない。

山田 初午と子供とすれば寺子屋。とすれば礎もふれている寺子屋用一式であろう。

石川 ままごとか。

清 ままごとの句があるのだから、少女用にままごとの玩具がうられていたかも知れず、例えば、今戸焼などで。絵がありません。

632 らく中にきゝやうの花が三日咲

小栗 ご存じ明智光秀三日天下の句。桔梗が光秀の紋(土岐桔梗)であることさえわかれば、贅説は不要だろう。

三日咲桔梗を誉る京の町

七四14

桔梗をは三日ほとにて染て遣り 一九ス2

清 賛。

633 ほぐさへ有ルとよんでみるじやすい也

小栗 反古は、書画などを書き損じて不用となった紙(「日国」)。

亭主が書き損じて丸めて捨ててある手紙を、女房がそつと拾って読んでみる、というような場面を考えればいいのだと思う。いたい誰に手紙を書いたのか、女の許へではないのかなどの邪推が、そういう行動になるのだというのである。

伊吹 賛。現代ならメールの盗み読み。

清 賛。

634 言葉たゞかいことおわり花でぶち

小栗 万句合は「言葉だ、かい」(安四梅2)。

花見の後で(あるいは花見を口実に)吉原へ行った朝帰り、言い合いの夫婦喧嘩の後、亭主が持ち帰った桜の枝で打ち据えるというような光景であるうが、謡曲「八島」の「其時平家の方よりも、言葉戦ひ事終り、兵船一艘漕ぎよせて」の文句取りがわかればいい句。

言葉た、かい事おわり火吹竹 一一41

言葉た、かいことおわり去り荷出る

三〇28

清 賛。

635 袖の下タやらぬとばゝあ長座する

小栗 ここで「婆」は吉原の遣り手婆のこと。強欲一筋だから、客から袖の下(心付け)を貰うまでは座敷から去らないのである。

婆様アの長咄し沓分くれろ也 傍一34

沓分なげ出スとば、あはいつてねる

安七間75

清 賛。

636 江戸へかと格子をあらいなから聞

小栗 吉原の人間が江戸市中へ行くことを「江戸へ出る」という。吉原の午前中の光景でもあろうか、妓楼の従業員が格子を洗っているながら「江戸へ出るのかい」と仲間へ声を掛けていた光景。措辞にはないが、若い者が珍しく羽織を着て出かけようとしているのを見かけて、というような場面を想定すればいいのだと思う。

若いもの羽折ひつかけ江戸へ出ル 三35

細井 賛。多分下り取りに行くのだろう。清 賛。

637 田の中でもへくと三声する

小栗 「田の中」と「巴」の取り合わせは、深田の中で討ち死にした木曾義仲の句であるう。木曾義仲は、粟津の松原で「薄氷張りたりけるに、深田ありとも知らずしてうち入れ給へば」(『平家物語』(巻第九兼平)、馬が足をとられて動けなくなり石田次郎為久に射られ討ち取られる。この時、愛妾巴の名を三声呼んだというのが、川柳作者の見てきたような嘘なのであろう。

なお、『平家物語』では、巴は恩田八郎の

首をねじ切った後東国へ落ちて行って、義仲の最期には同道していないが、謡曲「巴」では、義仲が自害するまでの間、奮戦して敵を追ひ払うストーリーになっているので、主題句の典拠はこの謡曲とした方が自然かも知れぬ。言葉の組み合わせだけの句なので、どうでもいいことだが。

巴にも粟津か原の御さんねん 六七一

清 賛。『平家物語』よりは、謡曲「巴」の方が身近だったと思う。

638 花を見てそしてとおやちむつかしき

小栗 「花見に行つて、それからどこへ行つた」と、親父に難詰されている息子という設定で間違ひなからう。言うまでもなく北国の生臭い花を愛でてきたのである。

花見と吉原の取り合わせは仲の町の桜の句が多いが、主題句は「そして」とあるから、普通の花見の後で(あるいはかこつて)吉原へという句であろうか。

花から売色に打こして不首尾 傍二31

花を見てそしてと女房居丈高 一六〇35

清 賛。かこつけ・一般、どちらとも決め手なし。

## 英語 de Senryu⑨②

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

駆落ちに 旅の花火の 淋しうて

*for the elopers  
the fireworks tonight seem  
sorrowful*

老いらくの恋の濃度のてれくさく

*old man's love affair  
so much love,so much deepness  
so much embarrassment*

---

*eloper* 駆落ちの男女 *firework* 花火 *tonight* 今宵 *seem* 思える *sorrowful* 淋しく  
*love affair* 恋愛沙汰 *so much* とっても *deepness* 深さ *embarrassment* 羞恥

---

～リバーウィローのため息～世界の川柳・俳句③② 英国俳句協会国際大会参加  
と大会句集 *Where silence becomes song* 『静けさが歌になるところ』(英国俳句協会)

5月末にロンドン近郊のセントアーバンズ (St. Albans) で英国俳句協会主催の国際大会がありました。大聖堂を中心に街が作られローマの遺跡があります。大会は地元の英国、ヨーロッパ、北欧、北米、日本から参加した約 100 人のハイク・センリユウ詩人で盛り上がりました。テーマは「文化を交差するハイク、そして多様性の中の調和」で、国際化するハイクやセンリユウへの取り組みが論じられました。責任者である *Iliyana Stoyanova* と *David Bingham* より、R.H. プライスの世界俳句に関する講演依頼があり、「R.H. プライスと現代世界俳句への影響—プライスとジェイムズ・ハケットの師弟関係を通して」と題して話しました。英国生まれのプライスは、ほぼ人生の大半を日本で過ごしたため、俳句や川柳の海外波及に貢献したにも関わらず未だ英国ではあまり知られていません。大会句集から *Iliyana* と *David* の作品を紹介します。和訳は拙訳。

*vast velvet skies/ the forest almost melts/ into the horizon (Iliyana)*

(ビロードのような大空 地平線と混じりあう森)

*light cloud—/ flowers still turning/ to face the sun (David)*

(雲ふわり花静かに陽に向かう)



## 蚊 と 蠅

私たちの身近にはいろいろな虫がいます。害にはならないので「共存してもいい」と思えるような虫もいれば、刺したり噛んだりするので見つけ次第に殺したくなる虫もいます。そのような様々な虫の中で、「人間にとつての害虫」とも言える代表的なものは、夏場になると出没する蚊と蠅でしょう。

今年もまだ蚊に愛されているらしい

後藤美恵子

老人の血も吸わねば生きてゆけない蚊

阿部 淑子

一匹の蚊がグラマンになって来る

阿部 治幸

足に蚊が両手にパン粉つけている

仲村 陽子

蚊も必死耳朶の端咬んでくる

荒巻 夢

一匹の藪蚊と風呂で格闘す

尾畑なを江

献血はしないが蚊には与えている

奥 時雄

蚊の化石でいちばん古いのは一億七千万年前のもので、人間よりも古くから生存していたとのこと。「だから後輩の我々をいじめている！」訳でもないと思うのですが、蚊に刺された後はしばらく「痒い痒い！」と不愉快この上なものです。

「フィラリア症」等の菌を媒介するので油断なりません。

そのように、人や動物を刺すのは産卵前のメスだけであり、吸った血は卵を育てるタンパク質になるとのことです。

蚊は叩く蟻は踏まないこの矛盾

藤本 直

満腹になった藪蚊は叩きよい

田中 重忠

思い切り叩いて蚊にも意地見せる

牧淵富喜子

近頃は「ごめん」と言つて蚊を殺す

高瀬 霜石

秋の蚊が枯れた体を攻めに来る

小柏こずえ

蚊を潰しはからずも手に他人の血

永田ふき子

悔いはいないだろ血だらけの蚊のむくろ

坂本 蟬朗

何の役にも立っていないと思える蚊でも、やはり生態系の一端を担っていて、いろいろな生き物の餌になっています。それを考えると、蟻には優しくするのに蚊は見つけ次第追いかけて殺しているのは少し気の毒な気がします。

また、意地を見せて「思い知ったかー」と叩き殺すより、「ごめん」と言つてそつと叩いたほうが、たとえ血だらけになつても蚊は恨みを持たず成仏できる？ かもしれません。

蠅や蚊にすれば嬉しい温暖化

松橋 帆波

バス旅行バスの中にも蠅がいる

土屋 天九

ハエ一匹なんで今さら追い回す

飛永ふりこ

じいさんが新聞丸めハエを追う

見山 温子

ハエも蚊もスプレー持つとすぐ逃げる

脇田 雅美

一匹の蠅を二人で追いかける

前田 楓花

土下座した男に蠅が飛びまわる

古谷 恭一

地球温暖化が進むと旱魃による食糧危機と水不足、高潮や洪水、熱波による疾病や死亡等々、大災害が予測されます。が、蠅や蚊にとつては快適な環境になるかもしれません。

蠅はただ五月蠅いだけではなく、赤痢、コレラ、チフス、ポリオなど健康を脅かす病原菌を撒き散らしています。汚物に触ってきたと思えば殺処分しなければなりません。しかし、ハエタキで身構えると殺気を感じるのか、素早く逃げ回り

若い頃のように簡単には仕留められなくなってきました。



# 愛染帖

新家 完司 選

(投句277名)

軽いラブまだ出来そうな骨密度

阿南市 小畑 定弘

(評) 熱烈なラブは肋骨や腰骨あたりに負担がかかるが、軽いのならまだまだ大丈夫！だが、どのあたりまでが「軽い」のだろう。

五所川原市 むらのひとり  
そっとしてそっとパンツを洗うとき

(評) パンツだけをそっと手洗いしているということは、何か特別な事情があるのだろう。見て見ぬ振りをするのも「思い遣り」である。

豊中市 藤井 則彦

眼のように開け閉めしたい耳と鼻

(評) 不快な噂や雑音には耳の蓋が閉まる。悪臭や煙には鼻の蓋が閉まる。なぜそのように進化してこなかったのだろう、不思議？

尼崎市 清水久美子

鯖定食いつ頼んでも尻尾出る

(評) 脂ののった腹側が好きなのに……。ひよつとしたら、「このお客さんは脂の少ない方が」とお店が気を遣ってくれているのかも……。

笠岡市 藤井 智史  
ホットな叱責クルに受け流す

(評) 過度に落ち込めば叱責した上司も傷つく。「ミスには叱責がつきもの」とクルに受け止めれば「頼もしい奴」となる、かも？

川西市 山口 不動

犬笑う猫笑わないペット店

(評) 「ボクを家族にして」と笑顔で寄ってくるワンちゃん。だが、猫ちゃんは知らんふり。猫派にはその「媚びない」ところが魅力。

大阪市 古今堂蕉子

一粒じゃ全然役に立たぬゴマ

(評) 一粒だけではスリゴマも胡麻和えも作れないし御飯に振りかけてもヘンテコ。物のデイトールと「あたりまえ」の面白さ。

富田林市 中村 恵

きつちりと揃えた靴が履きにくい

(評) 脱いだ後に靴を揃えるのは客としてのマナー。だが、そのままではちよつと履きにくい。行動のデイトールから生まれた一句。

岡山市 丹下 凱夫

気入りのステテコ穿いて引きこもり

(評) 引きこもりの定番はジャージだが、夏場はステテコがベスト。朝からビールを飲んでテレビを観てゴロンと寝て。裏山椎茸！

青森市 守田 啓子

雲に乗るかドクターヘリに乗るか

(評) かぐや姫のように、天国からのお迎え

の雲に乗るか、それともドクターヘリか。いずれにしてもジタバタせずには微笑んで……。

長野県 丸山 健三

事故多発きつと亥年のせいだろう

三田市 多田 雅尚

虐待と逆走続く令和でも

高槻市 初代 正彦

ブレーキとアクセルこれを間違うか

大阪市 森 廣子

つま先の破れた靴で石を蹴る

弘前市 高森 一吞

納豆が育ててくれた力瘤

香芝市 大内 朝子

究極のサブリは恋をすることだ

堺市 奥 時雄

飲む打つ買う溺れる少し前がいい

京都市 榎本 宏子

千手観音余ったお手でボランティア

宝塚市 太田としお

韓国が次第次第に遠くなる

鳥取市 山野すみれ

縁あつて一つのサヤに並ぶ豆

札幌市 三浦 強一

チン三つして豪勢な飯とする

羽曳野市 宇都宮ちづる

岸恵子おばあさんとは遠く生き

長岡京市 山田 葉子

顔も姿勢もまだまだ女優岸恵子

沖縄県 あらさくら

イケメンと踊るワルツは夢の中

熊本県 杉野 羅天

ボレロ聴く青い血潮の若いまま

沖縄県 宮 すみれ

風回る私もぐるりジョーゼット

黒石市 千葉 風樹

懐郷の恋へ影だけ走り出す

和歌山市 土屋起世子

自分にも花咲くように花の苗

松江市 中筋 弘充

マドンナが出るなら出るぞ喜寿の会

十秒でも短いほうがいい祝辞

西脇市 七反田順子

年金でうなぎ一匹よう買わん

イヤリング付けると犬が吠えてくる

高槻市 原 一洋志

一人では乗る気がしない観覧車

初恋も不倫も乗せて観覧車

大阪市 谷口 義

燃えにくい質で長生きしています

思い切り遊んだという気がしない

京都府 都倉 求芽

することがなくて血圧測ってる

次つぎと病気を探すコマーシャル

鳥取県 山下 節子

私のありのままです診断書

長々と聞いた説法だが忘れ

和歌山市 前田 洋子

ネズミつて尻尾なければ飼いたいな

美作市 岡本 余光

ゴキブリに気楽な暮らし咎められ

米子市 吉田 陽子

スイッチバツクしながら進む老いの日々

三田市 堀 正和

僕よりも長持ちしそうLED

下松市 有海 静枝

ささくれた指先舐めてくれる猫

三田市 尾崎 一子

生きて華死ぬはひとりの花筏

ゴミ屋敷住んで一億貯めて逝く

弘前市 高瀬 霜石

シャッター街どこもかしこも古戦場

おめでとう実家が売れたそうです

佐賀県 真島久美子

語彙力の不足最上級の愛

泣く場所をください今日はいい天気

堺市 村上 玄也

糞踏んだ感触暗闇の散歩

干からびた老体からも汗は出る

岡山市 大石 洋子

畏まる席に座ると笑う癖

お返事はア行ですます息子たち

米子市 後藤美恵子

金欠の頭痛医者にも治せない

雑草とのファイトマネーのビール飲む

和歌山市 坂部紀久子

ピーナツの少し湿って一人ぼち

松江市 石橋 芳山

フランスパンの固さで頑固なんだから

橿原市 居谷真理子

マスゲーム人は間違うものですよ

堺市 内藤 憲彦

油断する時を待ってる震度7

黒石市 北山まみどり

我慢なら辛いが止めるなら気楽

池田市 倉本 一弥

京の街入ルに上ルのもう迷路

大阪市 小野 雅美

指先で運命の人スクロール

羽曳野市 吉村久仁雄

幸せかと問われ一拍二拍おく

三田市 上田ひとみ

反省はするが言い訳それ以上

鳥取県 細田 裕花

雨音がビタミンとなる休養日

尼崎市 山田 耕治

一センチ高いとすぐに蹴蹴く

松山市 柳田かおる

輪郭がゆるんでおばさんになった

鳥取市 池澤 大鯨

高速も水道管も歳をとり

大阪市 若本 安代

連休後にしよう高いし混んでるし

和歌山県 森下よりこ

先ず一句考えてからとび起さる

奈良県 安福 和夫

人と物みな川柳につなぎます

三田市 東内美智子

入選は一句だけでも胸おどる

大阪府 米澤 俣子

氷は漢字ひらがな似合うわらびもち

神戸市 富永 恭子

鉛筆とワンコインだけ持つている

鳥取県 門村 幸子

すぐにメモあぶくのような思い付き

岡山県 藤澤 照代

言の葉は地雷にも花にもなつて

唐津市 仁部 四郎

廃線のトンネル隠す泡立草

海田市 堂上 泰女

しよばい花でゴメンナサイと枇杷たわわ

松山市 栗田 忠士

花より団子野菜畑に変えました

三田市 辻 開子

菜園を親娘で競う腕が鳴る

池田市 奥園 敏昭

朝昼晩見られてトマト頬を染め

豊中市 木藤こみつ

マダムとは私のことか巴里の街

鳥取市 山下 凱柳

二千万貯めよ今更言われても

三原市 鴨田 昭紀

猛烈に強いカーブと紫外線

豊橋市 小松くみ子

男たちへ日傘持たせる早い夏

枚方市 丹後屋 肇

百均傘ステッキにする梅雨曇り

坂本 加代

ドローンがタクシーになる新時代

池田 美穂

今はまだ地球は丸くないのかも

菊地 政勝

定年になつても続く五時起床

太田 省三

五時起床サマータイムの線路脇

齋藤奈津子

雨音を聞いて二度寝が心地いい

藤塚 克三

ボーナスの記事に年金大きくしゃみ

黒田 茂代

これからは行かないでしよう猫カフェ

村上 直樹

弱そうに見えてしぶとい柳腰

田中 恵

照れ隠しチョットと頭が痒くなる

山東日出男

ウナギ屋の向かいで食べるにぎり飯

尾畑なを江

好き嫌い無くて食べ過ぎ気を使う

鳥取市 岸本 宏章

カラオケの前座はいつも僕の役

和歌山県 松原 寿子

空財布いつも魔法をかけている

中堀 優

喉仏今はガマンと言っている

柴本はつは

出掛けます夫のおやつ子のおやつ

長谷川崇明

まだ今も旅には地図と時刻表

川島 良子

十人十色アナタ選んだのはわたし

渡邊 修

行き場なく心が痛むレジ袋

山根 妙子

問診に歳のせいだと先回り

上山 一平

北向きの庭にカンナを植えてゆく

川名 洋子

風鈴が騒音となる都市に住む

岸田 万彩

キリストもアラーム悲鳴あけるテロ

茂子

亡夫の声おもい出させる詩吟きく

江島谷勝弘

自販機にお金入れたが作動せず

奥田 由美

洗濯機で歩数刻んだ万歩計

三田市 北野 哲男  
鳥居なら御神酒 山門般若湯  
鳥取県 橋本 整  
元号が変わりましたと祝いの酒  
丹波篠山市 酒井 健二  
ボスターの美女に囲まれ立ち呑み屋  
桜井市 安土 理恵  
居酒屋でワイン談義はやめてんか  
米子市 伊塚美枝子  
ワインよりやはり私は生ビール  
弘前市 福士 慕情  
駅裏に昭和が遺る縄のれん  
富田林市 山野 寿之  
駅裏にボトルキープがあるロマン  
和歌山市 まつもとこ  
唇が強気で含むウイスキー  
豊中市 水野 黒兎  
屋上で宇宙を飲む気大ジヨツキ  
今治市 永井 松柏  
美女と美酒あれば試練に耐えられる  
鳥取県 竹信 照彦  
晩酌をせぬと良いこと何もない  
弘前市 稲見 則彦  
晩酌の今日のお相手藤圭子  
江南市 脇田 雅美  
二次会は幹事の部屋で盛り上がる  
尼崎市 永田 紀恵  
ラリレロ言えてる内はまだ飲める

大阪市 岩崎 玲子  
悪いとこ酒で消毒しています  
大阪市 井丸 昌紀  
顔繁きにと出た飲み会で酔いつぶれ  
大阪市 平井美智子  
悪酔いの臭いが取れぬ鼻の穴  
高槻市 松岡 篤  
新任地検索キーは地酒名  
沖繩県 禱 モモト  
冷性に鳩酒良いとさがしてる  
神戸市 山口 光久  
身の丈の歩幅を自覚して無事故  
貝塚市 吉道あかね  
取り敢えず動いて先はそれから  
河内長野市 梶原 弘光  
エクセルと組んずほぐれつ初歩コース  
堺市 矢倉 五月  
剃り跡に冴える男のタンデイズム  
大阪市 宇都満知子  
御日様の休日雨が仕事する  
大阪市 藤田 武人  
父さんはいつも母の無いケーキ  
三田市 足立つな子  
贅沢な自分勝手なスケジュール  
鳥取市 岸本 孝子  
礼服を脱いだらおなか空いていた  
三田市 久保田千代  
アスファルトこんなに強く芽が生きる

三田市 野口真桜子  
ピンクの尾ひれ付けて修羅場を乗りこえる  
鳥取市 谷口回春子  
子分連れ村中駆けた昭和の子  
大阪市 榎本日の出  
私の一番好きなおどり食い  
大阪市 津守 柳伸  
童心に還る切ないわらび餅  
池田市 上山 堅坊  
リターンマッチない人生は今佳境  
倉吉市 岡崎美知江  
言い訳の首がだんだん下を向く  
奈良市 辻内けんえい  
さすがママぐずる五歳児黙らせる  
和歌山市 武本 碧  
遺産分けやたらリアルな風が吹く  
境港市 藤原 久直  
借金も貸したお金も無い余生  
寝屋川市 森 茜  
うたた寝の耳に小鳥のラブソング  
神戸市 細川 花門  
生命線三ミリ程を描き足して  
鳥取市 副井ゆたか  
自慢する天狗の鼻をへし曲げる  
四條畷市 吉岡 修  
頑固だった父のコピーのようになる  
米子市 中原 章子  
ふと思う来年ここに居られるか

# 共選欄

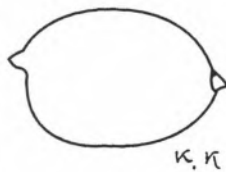
檸檬

檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句 348名)



## 「普通」 川端 一步 選

普通の子でしたと言うが金メダル  
あの記録普通の努力では出ない  
普通のことさりげなくするボランティア 箕面市 三田市 堀 正和  
花が咲き鳥啼き風が吹く平和 河内長野市 黒田 茂代  
見慣れたら気にもならないクールビズ 高槻市 大浦 初音  
どこにでも居る人間を演じてる 鳥取県 中島 一彌  
秀才でないが普通の元氣な子 富田林市 初代 正彦  
ごく普通親に感謝の我がフェイス 奈良県 竹信 照彦  
洋服はM幸せもそれくらい 大阪府 山野 寿之  
ありのまま普通の人と居て平和 長谷川 崇明  
戦ない普通の日日をただ念ず 桜井市 高杉 力  
被災地は普通の暮らしまだ遠い 鳥取県 安土 理恵  
年金で普通に暮らし出る赤字 三田市 門村 幸子  
百歳が普通になってくる令和 河内長野市 谷口 修平  
豊中市 木見谷孝代  
松尾美智代

## 「普通」 山岡 富美子 選

何よりも普通がいいね朝ごはん  
並ならば上等肉も僕の子も  
普通なら言うことはない無理しない  
包装紙脱いで普通になってゆく  
北京留学十元で飲む普通珈琲  
大阪はここでつつこむのが普通  
鈍行で探る日本の原風景  
それぞれにランクの違いある普通  
パワフルなダルマで普通とはいかず  
黙ったら普通なんですおじいちゃん  
普通のことやつと妻に頼まれる  
普通でいる事が一番難しい  
並でいい夫も寿命も鰻丼も  
普通よりチョット右向け右になる  
何よりも普通がいいね朝ごはん 大阪府 森 廣子  
並ならば上等肉も僕の子も 神戸市 山崎 武彦  
普通なら言うことはない無理しない 尾道市 小畑 宜之  
包装紙脱いで普通になってゆく 大阪府 平井美智子  
北京留学十元で飲む普通珈琲 宝塚市 丸山 孔一  
大阪はここでつつこむのが普通 大阪府 古今堂 蕉子  
鈍行で探る日本の原風景 河内長野市 中島 一彌  
それぞれにランクの違いある普通 高槻市 片山かずお  
パワフルなダルマで普通とはいかず 松江市 石橋 芳山  
黙ったら普通なんですおじいちゃん 宝塚市 太田としお  
普通のことやつと妻に頼まれる 松江市 中筋 弘充  
普通でいる事が一番難しい 貝塚市 吉道あかね  
並でいい夫も寿命も鰻丼も 岡山市 工藤千代子  
普通よりチョット右向け右になる 鳥取市 土橋 螢

医の進歩百歳さえもごく普通  
 二千万蓄え無いが生きてやる  
 逆走と思つていない逆走車  
 非正規が普通に見える世が怖い  
 戦争放棄アタリマエ過ぎますか  
 残業に徹夜は普通その昔  
 普通しか停まらないけど僕の駅  
 本人は普通と想つてる奇人  
 親には成績普通だと言つておく  
 病んで知る普通に生きるありがたさ  
 普通には見えたがかなり変わり者  
 贅沢が普通になつて食べ残す  
 ハードルを自分で高くして悩む  
 フレッシュもベテランもない花の宴  
 普通の子に育てたあとで欲が出る  
 六年生がパソコン使いこなしてる  
 人並みに生きてほどほど笑えたら  
 顔上げた時は普通に笑つてた  
 自分では普通と言うがへそ曲り  
 普通なら隠居の身だが働き手  
 無理せんでも普通の君が一番や  
 ごく普通窓に灯りが見えるなら

|       |       |    |
|-------|-------|----|
| 大阪市   | 若本    | 安代 |
| 加西市   | 山端なつみ |    |
| 尼崎市   | 藤井    | 宏造 |
| 三田市   | 多田    | 雅尚 |
| 奈良市   | 大久保真澄 |    |
| 土佐清水市 | 辻内    | 次根 |
| 藤井寺市  | 鈴木いさお |    |
| 和歌山市  | 上田    | 紀子 |
| 八尾市   | 村上ミツ子 |    |
| 米子市   | 伊塚美枝子 |    |
| 大阪府   | 米澤    | 俣子 |
| 鳥取市   | 岸本    | 宏章 |
| 四條畷市  | 吉岡    | 修  |
| 羽曳野市  | 中川ひろ介 |    |
| 堺市    | 奥     | 時雄 |
| 堺市    | 齋藤さくら |    |
| 堺市    | 内藤    | 憲彦 |
| 奈良市   | 山本    | 昌代 |
| 西宮市   | 福島    | 弘子 |
| 尼崎市   | 清水久美子 |    |
| 八幡市   | 今井万紗子 |    |
| 八尾市   | 山根    | 妙子 |

可能性秘めた普通にある未来  
 普通つて四角四面の中である  
 昨日まで普通に跳べた川の幅  
 石仏も元を正せばただの石  
 道標のとおり歩いて来た普通  
 オレの子だみんなトンビで平で居る  
 同じよに普通に育て凸と凹  
 百歳時代古稀にフツウとルビを振る  
 人並みであればひとまずほっとする  
 あつてないような普通預金の利  
 便利さに慣れた普通を見間違ふ  
 鈍行と呼ばれるでくれ普通です  
 普通では貯まらぬ老後二千万  
 馬鹿な趣味一つや二つ持つて生き  
 普通の男と普通の女で恙なし  
 被災地に普通のくらしやつとくる  
 水道をひねれば水のありがたさ  
 モブキャラの中に私の顔がある  
 今はごく普通の暮し感謝する  
 百歳が普通になつてくる令和  
 プロポーズ普通に好きと言つただけ  
 平凡と普通わたしの理想像

|      |       |    |
|------|-------|----|
| 香芝市  | 大内    | 朝子 |
| 寝屋川市 | 籠島    | 恵子 |
| 和歌山市 | 福井    | 菜摘 |
| 千葉市  | 海老池   | 洋  |
| 長岡京市 | 山田    | 葉子 |
| 大阪市  | 江島谷勝弘 |    |
| 大阪市  | 原田すみ子 |    |
| 堺市   | 澤井    | 敏治 |
| 池田市  | 栗田    | 久子 |
| 宇都市  | 平田    | 実男 |
| 出雲市  | 竹治ちかし |    |
| 大阪市  | 藤田    | 武人 |
| 尾道市  | 大本    | 和子 |
| 鳥取県  | 竹信    | 照彦 |
| 桜井市  | 安土    | 理恵 |
| 堺市   | 遠山    | 唯教 |
| 岡山県  | 藤澤    | 照代 |
| 佐賀県  | 真島久美子 |    |
| 橋本市  | 石田    | 隆彦 |
| 豊中市  | 松尾美智代 |    |
| 西宮市  | 福田    | 正彦 |
| 鳥取市  | 吉田    | 弘子 |

背伸びせず普段通りのルーティーン  
 本人は普通に生きたい希林  
 パワフルなダルマで普通とはいかず  
 信号は青で渡って赤止まる  
 虐待は普通の顔でパパとママ  
 歳と共に普通に減ってゆく五欲  
 頭から足の先まで普通です  
 いませんよ普通の顔の人なんて  
 朝日が昇り普通の顔でする介護  
 山陰道無料が普通おいでまし  
 六月だ普通じゃないよこの猛暑  
 改元の朝も普段の目玉焼き  
 平凡と普通わたしの理想像  
 百歳の寿命となってくる時代  
 並で充分傘寿の腹は控え目に  
 よくもまあ普通の態度記者会見  
 オレの子だみんなトンビで平で居る  
 普通です歳相応という数値  
 挙式する妻は普通の身ではない  
 異常気温これが普通になってきた  
 一番もいいが普通がもったいい  
 普通はビールたまに日本酒ウーロン茶  
 焼きもち普通に焼いてきつね色

|       |       |
|-------|-------|
| 東大阪市  | 佐々木満作 |
| 島取市   | 池澤 大鯨 |
| 松江市   | 石橋 芳山 |
| 島取市   | 山野すみれ |
| 大阪市   | 井丸 昌紀 |
| 枚方市   | 山口弘委智 |
| 安来市   | 原 徳利  |
| 橿原市   | 居谷真理子 |
| 門真市   | 坂本 星雨 |
| 鳥取市   | 中村 金祥 |
| 倉吉市   | 山中 康子 |
| 堺市    | 柿花 和夫 |
| 鳥取市   | 吉田 弘子 |
| 河内長野市 | 黒岩 靖博 |
| 三田市   | 足立つな子 |
| 奈良県   | 安福 和夫 |
| 大阪市   | 江島谷勝弘 |
| 貝塚市   | 吉道あかね |
| 唐津市   | 坂本 蜂朗 |
| 豊中市   | 齋藤奈津子 |
| 羽曳野市  | 三好 専平 |
| 大阪市   | 古今堂蕉子 |
| 富田林市  | 中村 恵  |

普通にもいろんな色がある芝生  
 山の辺に普通に咲けば良いのです  
 箸二膳当り前だと洗った日  
 顔上げた時は普通に笑ってた  
 浮き沈みはつきものの人の世を生きる  
 普通って何か時々考える  
 慣らされた仮設暮らしの吹流し  
 普通なら隠居の身だが働き手  
 並肉でいいよ料理は心です  
 まず目指す普通サイズの暮らしぶり  
 普通だと言える幸せ箸二膳  
 普通にと言えば並かと聞き返す  
 背伸びして普通の位置がわからない  
 百歳が普通になれば世が狂う  
 背伸びせず普段通りのルーティーン  
 政治家のどこか普通じゃない目つき  
 平平で凡凡の日へ頭下げ  
 まだら呆け時に普通がかくれんぼ  
 三食をいただけました普通の日  
 のんびりと各駅停車大すぎだ  
 松竹梅竹のあたりの幸せ度  
 若者にはら抜き言葉が普通です  
 我が家でも普通に飯面付けている

|       |       |
|-------|-------|
| 倉吉市   | 牧野 芳光 |
| 岡山県   | 大杉 敏夫 |
| 堺市    | 矢倉 五月 |
| 奈良市   | 山本 昌代 |
| 三田市   | 久保田千代 |
| 犬山市   | 金子美千代 |
| 黒石市   | 千葉 風樹 |
| 尼崎市   | 清水久美子 |
| 高槻市   | 松岡 篤  |
| 東京都   | 川本真理子 |
| 堺市    | 加島 由一 |
| 藤井寺市  | 鴨谷瑠美子 |
| 鳥取市   | 倉益 一瑤 |
| 鳥取市   | 夏目 一粹 |
| 東大阪市  | 佐々木満作 |
| 羽曳野市  | 吉村久仁雄 |
| 奈良県   | 中堀 優  |
| 大阪府   | 米澤 淑子 |
| 唐津市   | 仁部 四郎 |
| 大阪市   | 柴本ばつは |
| 西宮市   | 亀岡 哲子 |
| 堺市    | 村上 玄也 |
| 河内長野市 | 辻村 ヒロ |

|                   |      |       |
|-------------------|------|-------|
| 記念日はない平凡にこの暮し     | 三田市  | 上田ひとみ |
| 包装紙脱いで普通になってゆく    | 大阪市  | 平井美智子 |
| 退院へ心も弾む普通食        | 米子市  | 竹村紀の治 |
| 8020磨く普通の有りがたさ    | 米子市  | 後藤美恵子 |
| 水道をひねれば水のありがたさ    | 岡山県  | 藤澤 照代 |
| 滑らかな普通を消して鬼の面     | 海南市  | 小谷 小雪 |
| 浄土まで並みの暮らして善しとする  | 高槻市  | 富田 保子 |
| 普通より少し弾んで誕生日      | 豊中市  | 水野 黒兎 |
| 天皇が普通目線で話しかけ      | 札幌市  | 小沢 淳  |
| 病んでみて気付く普通のありがたさ  | 出雲市  | 竹治ちかし |
| 普通なら見過ごす角にあった縁    | 大阪市  | 原田すみ子 |
| 可能性秘めた普通にある未来     | 香芝市  | 大内 朝子 |
| 時々親を見にくる普通の子      | 和歌山県 | 森下よりこ |
| 普通からはみださないでいる立ち居  | 寝屋川市 | 森 茜   |
| 普通なんてないとわかってマイペース | 長岡京市 | 山田 葉子 |
| 群衆の中で普通の顔の鬼       | 貝塚市  | 石田ひろ子 |
| 普通なら起きてる妻がまだ寝てる   | 和歌山県 | 定松 宏枝 |
| 前向きに検討という通せんぼ     | 弘前市  | 高瀬 霜石 |
| 秀 句               |      |       |
| 政治家のどこか普通じゃない目つき  | 羽曳野市 | 吉村久仁雄 |
| 当り前に泣いて笑って生きのびる   | 奈良県  | 渡辺 富子 |
| 不揃いの中で普通が光ってる     | 和歌山県 | 武本 碧  |

|                   |       |        |
|-------------------|-------|--------|
| 目立たずとも普通に生きて心地良い  | 豊中市   | 藤井 則彦  |
| 人並みに生きてほどほど笑えたら   | 堺 市   | 内藤 憲彦  |
| 化粧とり普通の顔にホッとする    | 米子市   | 伊塚美枝子  |
| 普段着のつき合いなどと油断させ   | 塩竈市   | 木田比呂朗  |
| 不揃いの中で普通が光ってる     | 和歌山県  | 武本 碧   |
| 鈍行の鈍のやさしさ風を乗せ     | 橿原市   | 居谷真理子  |
| 普通ってゴロゴロ過ごす日のことか  | 奈良市   | 大久保眞澄  |
| 一番もいいが普通がもつといい    | 羽曳野市  | 三好 専平  |
| ふつうってすごい可もなく不可もなく | 松山市   | 柳田かおる  |
| 幕が開き今日も二合の米を研ぐ    | 河内長野市 | 森田 旅人  |
| 素うどんが普通になった停年後    | 寝屋川市  | 伊達 郁夫  |
| アナログの普通とデジタルの普通   | 三原市   | 鴨田 昭紀  |
| 学校に行って普通になってゆく    | 沖繩県   | 森山 文切  |
| 天皇が普通目線で話しかけ      | 札幌市   | 小沢 淳   |
| もがいたら多分普通になれるはず   | 大阪市   | 小野 雅美  |
| 本当は奇跡なのです普通の日     | 大阪市   | 宇都満知子  |
| 前向きに検討という通せんぼ     | 弘前市   | 高瀬 霜石  |
| 鉢巻をしてから遠くなる普通     | 黒石市   | 北山まみどり |
| 秀 句               |       |        |
| 哲学が一番近く居る普通       | 松山市   | 宮尾みのり  |
| 普通しか停まらないけど僕の駅    | 藤井寺市  | 鈴木いさお  |
| 万葉集が普通列車に乗る令和     | 島根県   | 伊藤 寿美  |



# 「荒れる」

堀 正 和 選

(投句 221名)



復興の五輪とは言え荒れたまま  
先生の口調も雑な二千万  
香港が荒れる余所事ではないぞ  
遠目には青い地球も荒れている  
地球を荒らす人間引きしなれば  
荒れる場所漁夫の利を得た朝乃山  
阪神が負けるとラジオ投げ付ける  
ピッチャーの荒れ球打者をビビらせる  
空家増え荒れてきましたニュータウン  
荒れ放題隣家にやつと人が住み  
少子化の煽りを食った廃校舎  
ひと言の波紋に荒れる会議室  
腹減ったようだ議論が荒れている  
荒れている妻には犬も寄り付かぬ  
学園闘争荒れた時代は語り草  
学校のいじめ虐待悲しいね  
荒稼ぎの割には後に残らない  
ささくれた心に演歌浸みてる  
ピロリ菌おなかの中で大暴れ  
肌荒れに悩む私にへちま水

大阪市 古今堂蕉子  
岩国市 上村 夢香  
岡山市 丹下 凱夫  
和歌山市 武本 碧  
三田市 村田 博  
藤井寺市 鈴木いさお  
尼崎市 清水久美子  
堺市 村上 玄也  
豊中市 松尾美智代  
富山市 伴 よしお  
富士見市 中島 通則  
高槻市 島田千鶴子  
羽曳野市 吉村久仁雄  
大阪市 高杉 力  
堺市 澤井 敏治  
羽曳野市 中川ひろ介  
西予市 黒田 茂代  
大阪市 原田すみ子  
枚方市 谷 英也  
豊中市 木藤こみつ

若い男肌が荒れるとさす日傘  
酒グセの悪いお方は誘わない  
飲む打つ買うやつぱり芸は荒れてくる  
二次会が制御不能のエンドレス  
荒れる子に昔の我をタブラせる  
おっぱいを飲んだ口から「ウルセー」と  
気が荒いこれも親似と諦める  
午後からは荒れる予報士ハイヒール  
荒天に登山中止をする勇氣  
突然の雷雨思わず臍隠す  
足止めの島で碁盤と睨めっこ  
荒波が育ててくれた大砂丘

佳 句

河内長野市 藤塚 克三  
大阪市 江島谷勝弘  
丹波篠山市 酒井 健二  
塩竈市 木田比呂朗  
西宮市 福田 正彦  
岡山市 藤澤 照代  
八幡市 今井万紗子  
唐津市 仁部 四郎  
河内長野市 大島ともこ  
奈良市 大久保眞澄  
唐津市 山口 高明  
鳥取市 岸本 宏章  
宝塚市 岸田 万彩  
三田市 北野 哲男  
羽曳野市 徳山みつこ  
藤井寺市 太田扶美代  
橿原市 居谷真理子  
大阪市 小野 雅美  
大阪府 米澤 俣子  
横浜市 菊地 政勝

「湯」

(投句 215名)

宮野みつ江 選



銭湯が街から消えた子も消えた  
焼酎のお湯割り変化ないくらし  
ひとり寝の湯冷めの足をすり合わせ  
もらい湯に肩寄せ合っていた昭和  
温暖化そのうちお湯が降ってくる  
仏に茶入れて私の朝動く  
ホッとする母がもてなす白湯加減  
蛇口から湯の出る家のローン済み  
生きている証手術後の白湯踊る  
湯タンポのほんわか明日は謝ろう  
ぬるま湯に慣れて感性鈍くなる  
湯加減はぬるめ塩加減はうすめ  
混浴なのに緊張感のない足湯  
もらい湯の頃はおなかも空かしてた  
煮え切らぬ男に熱湯をかける  
ぬるま湯を出られず終えた宮仕え  
ぬるま湯の中で平和が油断する  
足湯には男女の区別無く入る  
湯煎してゆっくり溶かすわだかまり  
父さんの陣地はふたつ風呂・トイレ

弘前市 稲見 則彦  
藤井寺市 高田美代子  
大阪府 米澤 俣子  
大阪市 小谷 小雪  
神戸市 上田 和宏  
尾崎市 清水久美子  
奈良市 山本 昌代  
唐津市 仁部 四郎  
箕面市 出口セツ子  
島取市 福西 茶子  
堺市 羽田野洋介  
奈良市 大久保真澄  
松江市 中筋 弘充  
羽曳野市 徳山みつこ  
三原市 鴨田 昭紀  
札幌市 小沢 淳  
唐津市 坂本 峰朗  
三田市 多田 雅尚  
奈良県 渡辺 富子  
弘前市 高瀬 霜石

一幕の夢星空の露天風呂  
湯煙の中は心も素顔です

風呂つかりついで口遊む神田川  
一日を生きた証しと湯割り飲む

露天風呂羅漢の首が浮いてる  
わたくしの顔に戻っていく湯舟

湯煙で絡んだ糸が解れ出す  
旅の湯でこんなにはしゃぐ妻の下駄

茶柱も湯気も立たないボトルの茶  
真つ新のいのち沐浴する未来

一对の湯呑みと越えて来た峠  
熱湯になりそうだから許します

佳句

ぬるま湯にボコボコ浮かぶ詐欺偽装  
さすが妻湯割り濃い目にしてくれる  
湯に浸るみんな些細なことだった  
白湯飲んで今日と言う日を染め上げる  
滾る湯が湧く私の深いところ

人

足湯はいいなみんな揃って火照る顔

地

一杯の白湯私が動き出す

天

湯通しをするとこだわり溶けていく

軸

湯戻しに亡夫との日々ふくらまず

神戸市 奥澤洋次郎  
高槻市 富田 美義  
河内長野市 藤塚 克三  
米子市 生田 和之  
富田林市 中村 恵  
富田林市 山野 寿之  
生駒市 飛永ふりこ  
阿南市 小畑 定弘  
岡山県 藤澤 照代  
香芝市 大内 朝子  
貝塚市 石田ひろ子  
佐賀県 真島久美子  
堺市 内藤 憲彦  
高槻市 松岡 篤  
大阪市 田中ゆみ子  
八幡市 今井万紗子  
青森市 守田 啓子  
羽曳野市 中川ひろ介  
三田市 上田ひとみ  
和歌山市 武本 碧

# 初級教室

題 — 内緒

居谷 真理子

内緒と言われたけれど皆が知っていた——  
こんな句がたいへん多かったです。最初に浮かぶのは「よくある句」だから捨てろ、という意見もありますが捨てるのも忍びない。

着眼、発想、表現に自分らしさを持ち、それを磨き続ける。たいへん難しいことですがだからこそ面白いのでしょうか。

(原は原句 参は参考句)

原 耳元で内緒と聞いて苦い顔

ゆ き

もうひとひねり

参 耳元の内緒は苦い味がする

原 墓場まで内緒話は持っていく

弘 美

どんな内緒かしら

参 墓場まで二人の内緒持っていく

原 二人旅夢みて内緒金貯める

由 紀子

参 二人旅夢み一人で貯めている

原 老老の暮らし娘らには知らせずに 開 子

参 老老の暮らし娘らには愚痴らずに

原 内緒した話がばれた孫の口

弘 華

童話を下敷きにしてみました

参 あのねのね内緒をばらす孫の口

原 秘密など無いとへそくり古女房

辰 夫

参 秘密など無いとへそくり五十年

原 解任は内緒話でつい本音

秀 爷

参 解任は漏れないはずの本音から

原 お隣りが内緒にしてと味噌を借り 三樹夫

参 お隣がひっそり味噌を借りに来る

原 夫婦でも時に内緒が生きている (澤) 良 子

下五はとても大事です。いろんな表現を試

してみましよう。

参 夫婦だが時に内緒が隠し味

原 耳もとでささやく天使も悪魔も もとこ

ユニークですね、リズムを整えてみません

か

参 天使と悪魔ささやく耳の右左

原 内緒やと言われたけれどしゃべりたい 重 男

参 内緒やおっしゃったので喋りたい

原 内緒話どこから漏れた空気穴 (坂) 澄 子

「空気穴」が面白い。「どこから」は不要。

参 内緒話必ず漏れる空気穴

原 内緒事猫に話せるあれやこれ 奈津子

内緒と猫は相性が良いのか類句多数。かなり変えてみましたがお許しを。

参 内緒だがねえミケお前どう思う

原 内緒ごとSNSに書き込まれ

参 SNSで世界にバレる内緒ごと

原 あの額の裏は私の秘密基地

参 あの額の裏に私の基地がある 風 露

原 美代ちゃんの内緒は僕を好きなこと

参 美代ちゃんの内緒は僕を好きなこと (生) 和 之

原 お披露目内緒にできぬ祝い事 (あ) さくら

参 お披露目の重さは言えぬ祝い事

原 趣味の会人を笑わすネタを持つ 久 直

分かりにくい句でした。

参 趣味の会笑いのネタを持って行く

参 笑わせてもらいに今日も趣味の会

原 内緒事雨に打たれて表れる

参 あの雨がむき出しにした内緒事 勝 正

原 居酒屋の酒の肴は内緒事

参 居酒屋で肴にしている内緒事 廣 光

原 目くばせと身振りで話す子供達

参 目くばせと身振りで子らの内緒事 宏 子

原内緒だと断らないで告白す 寧

参内緒だと前置きしない潔さ

原日向ほこ内緒話しに花が咲く 整

参内緒話の声が大きい日向ほこ

原恋心伝えて欲しい内緒でね 嘉昭

参内密に伝えて欲しい恋心

原内緒事すべてバレてる木偶の坊 ひでお

木偶の坊：きつい言い方になりました

参内緒事すべてバレてる人の良さ

原難聴を演じ聞か猿内緒ごと 紀美代

参聞か猿を演じ通した内緒ごと

原内緒事誰にも一つあるはずだ (北)恵子

一つとは限らないので

参誰だって一つや二つ内緒事

原内緒事だれもわたしに話さない よしお

参内緒事打ち明けたことがない

原へそくりの場所を忘れて大探し 隆子

大探し、とまで説明しなくても

参へそくりの場所忘れたと言えませんか

原喪服着て耳欝てる内緒事 道子

情景が浮かびます

参内幕に喪服の耳をそばだてる

原内緒ごと聞いた耳穴痒みだす えい子

参内緒ごと聞いて痒がる耳の穴

原内緒やで前置言わぬもれるかも (菊)美智子

参内緒やと言わなかったな漏れるかな

原内緒だった胸長はれるズボン穿く (門)幸子

参ズボン穿きああ胸長がばれました

原内緒事黒塗りをして国会へ 洋一

参黒塗りで黒を隠して国会へ

原顔に出て内緒にできないこの私

参正直な顔で内緒は苦手です

原内緒事隠して優越感してる

参優越感君の知らない内緒事

原額寄せ目輝やかせて内緒事

声に出して読むとひっかかります

参額寄せ目を輝かせ内緒事

原こだけよ昔井戸端今スマホ

参井戸端からスマホになったこだけよ

原内緒話何より好きな姉が来る

参内緒話広めに姉がやって来る

原耳打ちの内緒話で人を見る

参耳打ちの内緒で知れるお人柄

原ヒソヒソの内緒話に耳動く

少し遊んで

参ヒソヒソの内緒に耳がビクビク

原側近の一言内緒事がバレ 亜希子

参側近がバラしちゃならぬことを言い

原尾鰭つけ内緒話がまい戻る 貴美江

よい句ですが恒さんの方をいただきました

た。

原内緒だよ孫に手渡すおこずかい 貴美江

参ババママに内緒と渡すおこずかい

【佳句】

夫婦間秘密あつての長続き 通則

内緒話祖母は何度も聞き返す 厚子

補聴器のボリリューム上げて聞く内緒 美穂

猫被りそろそろ止めよ地で行こう なつみ

あんなこと美人の前で言えますか 不二夫

内緒だと言った口先疼いてる のぞみ

ママが好き後でこっそりパパも好き 千賀子

耳垢になった内緒がポロリ出る 徳利

知っててもすまして受けるサブライズ くみ子

内緒ごと尾鰭をつけて世を泳ぐ 恒

【今月の推せん句】

余所行きの服で散歩に出た夫 丹羽 美恵

ひそひそと猿の親子がこちち見る 梅瀬みちを

こっそりと財布の底に当りくじ 貝塚 正子

# 川柳塔鑑賞

同人吟 斉 尾 くにこ

— 7月号から

笑うしかないのか強い俺だから

石 橋 芳 山

寂しさは本屋の跡のケアハウス

快眠快食快便五月晴れ

山 岡 富美子

丹 下 凱 夫

なじみの本屋さんへと出かけたならそこはケアハウスに成っていた。驚きと寂しさ。ここもあそこもと馴染みの場所がケアハウスに変わっていきます。

折れた矢が山積みだった父の書架

両 川 無 限

岸 本 清

遺品整理は子としての最後の親孝行。或いは親として子に見せたく無い物もあるのかも知れない。親の果たせなかった

「ひるまえ川柳」の公開録画ですね。私もTV録画して楽しく観ました。いつも没ですが投句は欠かしません。

散歩には手頃な距離にあるポスト

岸 本 宏 章

思いや無念な敗戦品に触れたとき、息子として親からの人間に触れたような気持ちになるでしょう。最後に残してあった至宝の時間です。

そのポストはきっと投句にも縁起のいいポストで歩数計のカウントとも相性がいいでしょう。晴れた日は弾みます。

六句一対になっっているうちの一句。強さって寂しさを見せないことか、弱さを見せないことが強いのか。生身は見せないですね。円周をくと、落ち込んだ穴からとが響き合う。

人柄が貌に出るアンパンの臍

野 口 真桜子

何の関係も無い人柄とアンパンの臍の取り合わせが面白い。理屈とは真実とかを越えて面白い。

本音から時空が歪み出した部屋

森 山 文 切

二人きりの部屋なのかも知れない。重たくなった空気が時空を曲げる。

皆さんがあつての政治なんだとさ

小 沢 淳

「なんだとさ」事実とは違うだろうの音が聴こえる。有権者は見抜いている。

## 静かすぎる夫婦の多いツアーバス

金子 美千代

数日間旅を一緒にするツアーバス。賑やかなのは淑女たちの一団で年配のご夫婦は口数も少なめ。どちらがいいのか。

## 見苦しい涙は見せぬ洗面所

早川 遡行

「洗面所」です。その場での涙では無くても見苦しいから我慢する。昭和生まれの矜持でしょうか。

## ホームの義母へ絵手紙の定期便

宇都 満知子

介護施設へ入っておられる義母様へ季節ごと絵手紙を差し上げておられるのでしよう。貰う喜び贈る楽しさ。

## 職を辞し免許返納まる裸

中井 萌

本当に悩ましい問題ですね。事故の報道は他人事と思えず、されど車は足。「まる裸」にぐっと来ます。

## 流し目で朝を急かせる目玉焼

安芸田 泰子

慌ただしい朝の数時間。時計の針とTVのニュース。家族の立てる音にキッチン音。コンダクターはきっと奥様でしょう。目玉焼きが流し目でそんな奥様を応援しているのです。

## 縄飛びをまだ続けてるまだこの世

居谷 真理子

回って回って回って来るから跳んで跳んで跳んで。息切れをしても飽きることに無いこの世。自分の命は自分で決められない。息の切れるときが分からないから楽しむしか無いでしょう。

## 休めない人が支える十連休

竹村 紀の治

三百六十五日日曜日なんて言ってなんて申し訳ないことでしょう。支えて下さる方があつての休日です。忘れてはいけない事です。

## きつかけは傘さしかけただけの事

山下 節子

人間関係つくれるのも壊れるのも、ほんの些細なことかも知れませんが。必要とされる時にさりげなく傘さしかけられる人でありたいですね。

## 付録からも虹立つ様に編む本誌

永見 心咲

「虹立つ様に編む」の表現に立ち止まりました。豪華な付録のことか? 「本誌」だから川柳塔のことですね。毎月編集をして下さる皆様に感謝です。

## 失恋のメンテナンスに五日間

藤井 智史

傷ついたハートの維持保守点検には五日間あれば充分。エネルギーチャージして引きずらず、梅雨の季節はメンテナンスに最適。保湿してふっくら、もとどうりになります。 たぶん  
読んで頂きありがとうございます。

# 水煙抄鑑賞

— 7月号から

坂 裕 之

連合いに笑い袋をプレゼント

加藤 佳子

「ご主人が仕事疲れか不機嫌なんですね。機嫌よく笑顔で会話の出来る物をプレゼント、羨ましいご夫婦ですね。」

吠えたいがフライドもあり止めておく

尾 畑 なを江

あれもこれも言いたいことは山ほどあるが、言わずに大きいあなたを守っているのですね。大人ですね。

ランドセル朝の挨拶いい笑顔

上 山 一 平

「いつてらっしやい」に笑顔で答えてくれる一年生でしょうか。昭和では当たり前の風景がこの頃は……。見知らぬ大人から「おはよう」と声を掛けられても返事をしてはいけないと学校から言われているところもあるそうですね。

気兼ねなく話せる友と時忘れ

あ ら さくら

なんでも気兼ねなく話せる友と、たまには思いっきり鬱憤を晴らしたいですね。明日から頑張るぞの気持ち湧き上がってきますよね。

待つ身には時の経つのが遅過ぎる

北 野 クニオ

時の経過はあつという間と言うが、待っている時の長い事、遅い事それでも大事な人を守っている時は穏やかに、穏やかに：作業服汚したころは華だった

柴 本 ばつは

作業服を泥んこに汚すまで精一杯働いてきた若い時期があつたのは誇らしい思い出ですね。今は少しゆっくりしましょう。

妻律儀子どもの日とてかしわ餅

樋 口 眞

こどもの日がかしわ餅、ひな祭りには白酒に菱餅・桃の花といひ奥さんですね。

清貧と言わざるを得ん年金者

横 山 里 子

百歳まで生きるとしたら年金だけでは無理だと国が言いますが、二千万の貯金はいしんどいですよね。私には無理。

別腹が肥満の元になっている

清 水 久美子

気にする人ほど別腹って言いますね。美味しいものは食べたらいんですよ。伸び切ったゴムに未だ有る自尊心

西 川 千鶴

遣るべき事を充分に遣り切って、ゆっくりすればいいのに、まだ事有れば現役に負けないぞ。いっぱいいっぱい働いてきた我々世代と同じですね。

台所手伝いながら摘まみ食い

助 川 和 美

ご主人が調理のお手伝いに立たれたのは嬉しいのだが、作っている料理をちよつと摘まみ食いですか。かわいいですね。

燕舞うタバコ屋やめた事知らず

平 井 富 夫

去年までは商売をしていたが、小売店はやっていけないので廃業した。燕にはそんな事情は分からないものね。

数独に占領された古希の脳

九 村 義 徳

老いた脳を鍛えるために数独を始めたのでしょうか、嵌まり込んでしまったのですね。止められませんが、私もです。

# 第43回 全日本川柳2019年 浜松大会 選考結果

(当日 626名/事前 1,729名/ジュニア4,7078名)

## 高校生・一般の部

### 文部科学大臣賞

脇道を走り人間らしくなる

東京 上村 脩

### 参議院議長賞

マイバッグ忘れぬほくは地球人

青森 高瀬 霜石

### 川柳大賞

縁日の金魚を光ごと掬う

福岡 梅崎 流青

### 大会賞

走れ走れあなたが描いた空なんだ  
選択肢なんてないのさハムレット

宮城 月波 与生  
静岡 句ノ一

背景の富士が気品を問うてくる

北海道 小沢 淳  
福岡 敷田 無煙

平成が終わったよくぞ働いた

宮城 齋藤 晃

おばちゃんはズバズバ言うが鮎くれる

静岡 松田 タ介

まっすぐに俺は立っているか富士よ

青森 北山まみどり

わたくしを晒してわたくしを磨く

広島 福田 淳子

臓器移植今からこの人と生きる

秋田 大石 一粋

ドラムソロもうさざ波でいられない

青森 千島 鉄男

トランペットに合わせて走れ少年期

茨城 岡 さくら

天と地の自由を選び樹木葬

## 小学生・中学生の部

### 静岡知事賞

たこあげて空いっぱいすわせるぞ

広島 小1 下沖 勇心

### 静岡県教育長賞

いまのほくバランスとれる尾がほしい

岩手 小5 上野 寧大

### 浜松市長賞

握手して世界平和をめざすんだ

広島 小6 藤枝 利胡

### 浜松市教育長賞

あく手はねギョツとにぎると温かい

広島 小3 原田 七愛

### 静岡県文化協議会会長賞

カタカタと走る背中のレストラン

徳島 小6 榊 胡桃

### 全日本川柳協会賞

またきてねじじの車おいかける

岩手 小2 土田 雪乃

### 静岡県川柳協会会長賞

切れちゃったばくと風との友情が

広島 小6 神田 康佑

### 静岡新聞社賞

テスト前急いでペンを走らせる

熊本 中1 村田 光輝

### 中日新聞社賞

お母さん胎児と握手動いたよ

静岡 小4 杉山 優羽

(太字は本社同人)



## 『麻生路郎読本』余滴 (53)

### 路郎の「川柳人協会」①

楽 原 道 夫

「川柳雑誌」昭和11年8月号で、路郎は「川柳職業人宣言」を発表したが、同年7月号で、川柳人協会の創立についての記事を掲載している。川柳人協会とはどのようなものだったのか、見ていくことにする。

「川柳人協会の創立と正會員を募る」で、路郎は次のように述べている。

「詩壇でも歌壇でも俳壇でも群雄が割據（わがが）して畦合（いけが）ひが絶えないといふことをよく聽かされ柳壇にはそんな傾向はありませんかとよく訊かれる。亡くなられた小酒井（こさかい）木博士を訪ねた時にも、こちらの俳人達は神經がこまかくて、もめどろしですが、その點あなたの雑誌を拜見してゐると川柳人は随分仲がいい、んですネと云はれたことがあるが、今日の柳壇の情勢は必ずしもそれ

ほど美しい友情關係にあるものとは思考し得られない。

全國各地に、吟社の林立、柳誌の簇生（さくせい）は勢ひ各種會合等に於ても對立的な感情による疎隔状態を招來してゐると見るのが正鵠（せいかく）を得てゐるやうで交驛（かうえき）會の如きも呼び聲はかなり大きい、その實情は空疎なものと成り勝ちである。

この間隙（かんげき）を救ふために流派を超越して川柳人協会の創立を劃（か）し下記全國著名大家に、本會の趣旨貫徹を易（やす）からしめるやう、特に名譽會員としての御後援方をお願いしたところ柳壇の耆宿（しよきよく）坂井久良伎翁はじめ斯界の明星達がたちどころに御快諾、激勵の辭さへ惜まれなかつたので迂生（ゆうせい）又感激して百度の暑熱を拜して本會の完成に勇往邁進してゐる次第大方諸賢も又本會の趣旨を賛せられ陸續入會して迂生晩年の事業に光輝あらしめて頂きたい。」

\* 明治23—昭和4。医学者、翻訳家、推理作家。「川柳雑誌」の賛助員だった。

続いて、名譽會員の名前を記載している。姓を補つておく。

（順序不同敬稱略）

（千葉） 阪井久良伎

（東京） 川上三太郎、村田周魚、前田雀郎、岡田三面子、塚越正光、和田天民子

（福島） 大谷五花村（青森） 小林不浪人

（函館） 亀井晟修（金澤） 安川久流美

（静岡） 榎田珍竹林（長野） 中島紫痴郎

（松山） 前田五健（兵庫） 食満南北

（神戸） 相元紋太（京都） 藤本福造

（大阪） 森東魚、本田溪花坊、森雞牛子

堀口堯人

一覽しただけで、岸本水府の名前がないことに気づく。「川柳雑誌」7月号は25日発行だが、森雞牛子の「三味線草」7月号は15日発行である。その「三味線草」に「川柳人協会設立」の記事が掲載されている。そこには、雀郎の名前はないが、水府の名前があるのである。これはどういうことか。

品川陣居が、「きやり」（昭和11年9月1日発行）の「時評 川柳萬歳の唱和へ」で、このことについて次のように述べている。

「川柳人協会のことであるが、麻生路郎氏署名の下に「名譽會員御芳名（順序不同敬稱略）」とある顔振れは「三味線草」掲載のものと人員に於ての二十四氏に變りはないが、水府氏の名を見出し得ない代りに

雀郎氏の名を掲げてゐることである。公平にいつて三味線草掲載の如く川柳人協會の完成に當つて「水府」氏が参加してゐたと

したら、僕は双手を舉げて歡呼の聲を發するに吝かでない。「三味線草」が水府氏の名を掲げてゐる事實からみて、その當初に於ては水府氏の参加が豫期されたのではないかと思はれる。麻生氏が「流派を超越して川柳人協會の創立を劃し」「全國著名大家に、本會の趣旨貫徹を易からしめるやう、特に名譽會員としての御後援方をお願いした」にも拘はらず「全國著名大家」中の水府氏が「快諾、激勵の辭」を惜まれたとしたら、僕は大阪柳壇に今日もなほ「番傘」對「川柳雜誌」の傳統的暗雲の未だ層々と積み當つてゐることをおもひ淋しい感じに打たれるのである。これを最惡のコンジションに於て考へてみて當初から水府氏の「後援」が期待されてゐなかつたとしたならば、また何をか言はんやであるが、そのいづれにしても川柳人協會が水府氏の名をこの名譽會員のメンバーから逸することは遺憾である。白璧の微瑕と一揖し去るには餘りに瑕が大きいのである。

これは早晩「水府」氏を一枚加へてこの

川柳人協會大家プロツクを結實すべきだと思ふ。

雀郎の名前が「三味線草」にないのは、その時点ではまだ雀郎の了解が得られていなかったのだらう。「川柳雜誌」7月号に名前がなかつた水府が、9月15日発行の「川柳雜誌」で新名譽會員として報告されている。このことについても、品川陣居が「きやり」（昭和11年11月1日発行）の「時評 忽ち大舞臺に登場す」で、次のように述べている。

（九月二十日川協の用務を帶びて上京中の麻生路郎氏からの直話によると、水府氏は九月六日に至つて突如川柳人協會名譽會員たることの承諾を「今からでも遅くなければ」と言ひ越された由である、勿論言ふ迄もなく理事長麻生氏は歡んで迎へる旨を答へた。依て思ふに九月六日には本誌九月號が既に發行させてゐたといふ事實即ち小生が時評に於て川柳人協會名譽會員中に岸本水府氏の氏名なきを遺憾とする旨を云爲したこと、水府氏の川柳人協會名譽會員承諾との間に何等かの關聯があると觀るのは小生の己惚れであらうか——麻生氏は呵々大笑して小生の肩を叩いたものである、小

生も亦朗かに麻生氏と盃をち合せて遙かに水府氏の爲めに乾杯したことであつた。——「これでいゝ」といふ氣持であつたのである。水府氏よ麻生氏の童心を咎むること勿れである、あなたの純粹なお氣持がピタリとこの陣居に感受し得られたことは何より有難いことであつたからである。小生の川協創立への希望が見事達成したからである。小生らの歡びよりもあなたの方のお悦びの方が大きい筈である。）

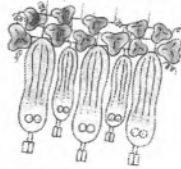
これから書くことは、推測であることを先にお断りしておく。「三味線草」7月号に、水府の名前があつたのは、路郎の要請に對して、「考えておく」といふような返事を水府がしたのをいづれ了解すると路郎が判斷して掲載したのであらう。ところが、その後水府が返事をしてこなかつたため、「川柳雜誌」7月号には掲載しなかつたのではない。水府は、路郎が理事長である川柳人協會の名譽會員になることに躊躇したのであらう。ところが、「きやり」で大々的に取り上げられたので、「今からでも遅くなければ」と言つて承諾したのでと推測するのである。

（次回に続く）



(投句217名)

レイワという呼び方にも  
少し慣れ、G20とやらで大  
阪は高速が開鎖されたり学  
校も休みになったり、街に  
はお巡りさんが溢れかえっ  
ていたりしました。



このように、自分の意識とは遠いところ  
で歴史は進んでいくようです。

また、親しくして頂いた川柳家の方が  
鬼籍に入られてして、慌ただしく、寂  
しい梅雨になってしまいました。  
でも、皆様のナビは健在です。

三田市 久保田千代  
荻坊主特に出世の友も居す

(評) これが仲良しの秘訣かも。誰か一  
人でも抜き出ると、何となく不協和音  
が生まれてしまいますから。

堺市 内藤 憲彦  
人並みに暮らしたいなら2000万  
(評) ああ、2000万。最近この数字

を何度目にしたことでしょう。つくづく  
格差社会というものを感じます。

鳥取市 福西 茶子  
のど飴の効果信じてのど自慢

(評) のどが痛くなければただの飴です  
が、不調の時は結構キキメがあります。  
カネ三つ、間違い無しですね。

大阪市 藤田 武人  
靴下はこれに限ると五本指

(評) 履いてしまうと本当に気持ちいい  
んですけど、きっちり履くのが大変って  
不器用なだけでしょいか。

土佐清水市 辻内 次根  
大勝をした政党の悩み事

(評) 一強と言われて久しく、その所為  
かどうか分かりませんが、随分ヘンな議  
員さんも多いです。何とかして!

寝屋川市 森 茜  
梅漬けもらつきよう漬けもがんばろう

(評) 梅干しやららつきようやら、梅仕  
事は時間と労力がハンパ無いです。けど  
その恩恵はすごいものがあります。

東大阪市 佐々木満作  
女子力が勝り男の出番なし

(評) 女と靴下が強くなった、なんて言  
われたのは昔むかしのお話。持ち合わせ  
ていたものが出てきただけだと思いますが。

下松市 有海 静枝  
拡散の始めはほんの悪ふざけ

(評) 本人は仲間うちだけの冗談のつも

りでも、やがて人生さえ狂わせてしま  
うことになりそう。コワイですねえ。

横浜市 菊地 政勝  
うなずいただけで仲間になれている

(評) あります、あります、こんなこと。  
だからと言って、自分だけ横を向いてい  
る訳にもいかないし。

河内長野市 大島ともこ  
筋肉は裏切らぬさあもう一度

(評) 幾つからでも、人間の身体は鍛え  
ることが出来るらしい、とは言うもの  
の、あ、しんど。

高槻市 松岡 篤  
暑い中インバウンドも疲れ気味

大阪市 石田 孝純  
B型です伝言ゲーム苦手です  
門真市 坂本 星雨  
万歳が揃えば右へ向く政治

堺市 澤井 敏治  
サミットの人には見せぬ水面下

大阪市 坂 裕之  
お隣りはみんな揃ってお食事へ

鳥取市 夏目 一粋  
人生でもっとも辛いのは別れ

岡山市 大石 洋子  
まっすぐな足がまぶしいシーサイド  
鳥取市 斉尾くにこ  
豆ごはん炊けたと朝の笛が鳴る

神戸市 上田 和宏  
養毛剤これが売れ筋お客さん

和歌山市 古久保和子  
口パクでいいとコーラス誘われる

松山市 栗田 忠士  
以下同文なんてやつぱり味気ない

米子市 八木 千代  
枯れるのはヤメタ景色がオモシロイ

真面目市 出口セツ子  
暴言や私欲へちまのよう議員

大阪府 米澤 俣子  
昔ばなしに花咲く婆ちゃん足湯

弘前市 稲見 則彦  
グレンジャーあなたの夏を守ります

唐津市 仁部 四郎  
整列が好きな国民でいいかな

海田市 堂上 泰女  
バラの傘出番ですよと雨が降る

大阪市 柴本ばつは  
さあ今年ヘチマコロンがあふれそう

松江市 石橋 芳山  
早朝に並ぶ卵の特売日

佐賀県 真島久美子  
言えないよ一緒に泣いてくれなんて

榎原市 居谷真理子  
指定席隣の人は選べない

弘前市 福士 慕情  
人間のエゴで個性を消す胡瓜

大阪市 古今堂蕉子  
縄のれんぐればみんな顔なじみ

黒石市 北山まみどり  
行儀よく並んで目立たない個性

大阪市 江島谷勝弘  
ことの外お役に立っていますのよ

藤井寺市 鈴木いさお  
年金へ家族五人がぶら下がる

大阪市 栃尾 奏子  
美しさ抜きん出でていて並べない

尼崎市 近兼 敦子  
それぞれの個性生かして臨みます

弘前市 高瀬 霜石  
サラリーマンだって立派な格闘技

熊本市 杉野 羅天  
尖るもの皆ミサイルに見えてくる

防府市 坂本 加代  
食べきれぬ旬の野菜をおすそ分け

五所川原市 むらのひとり  
無職にも慣れて発酵し始める

大阪市 平井美智子  
イエスマンばかり揃えて過食症

神戸市 奥澤洋次郎  
物干しへ気分も吊す梅雨晴間

西宮市 西口いわゑ  
ふるさとも幼なじみも遠くなり

沖縄県 森山 文切  
集団の論理へちまになつてゐる

富田林市 山野 寿之  
メンデルの法則みんなだんご鼻

東京都 川本真理子  
同じ夢見ていた同じ風の中

岩国市 上村 夢香  
大行列訳も知らずに最後尾

羽曳野市 徳山みつこ  
涼やかな風を送って差しあげる

丹波篠山市 河南 利尚  
ビットコイン三途の川で使えない

鳥取市 前田 楓花  
風鈴が奏でる風のハーモニー

和歌山市 まつもとともこ  
八月が好きな僕らのクラス会

宝塚市 岸田 万彩  
見栄張らぬ社宅仲間のティータイム

枚方市 山口弘委智  
欲望にまみれる心閉じこめる

豊中市 藤井 則彦  
阿呆になつて今年も見たい阿波踊り

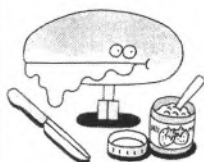
神戸市 富永 恭子  
この後はそろそろ好きにしませんか

和歌山市 定松 宏枝  
ウエストのくびれ気になる海開き

貝塚市 石田ひろ子  
チアガールのエールで夏の甲子園

三本市 山口ヨシエ  
星祭り欲がどんどん増えてくる

## 10月号発表 (8月15日締切)



(平本 勝彦 画)  
柳菱に2句

## 川柳塔社各賞選考規定

- ① 川柳塔社には、路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞の六賞があり、毎年10月に表彰する。
- ② 自選集の作者は、すべての賞の対象としない。
- ③ 各賞とも、原則として同一人に同一賞を授賞しない。
- ④ 路郎賞・川柳塔賞については、準優秀作の場合、上位は差し支えないが、同位または下位には授賞しない。
- ⑤ 二賞の選考委員は、その任期中は賞の対象としない。
- ⑥ 路郎賞・川柳塔賞の選考要領については、下記の通り定める。
- ⑦ 愛染帖賞は選者が決定し、主幹の承認を得るものとする。
- ⑧ 檸檬賞は二名の選者がそれぞれ5句ずつ選出した10句中から主幹が決定するものとする。
- ⑨ 一路賞・各地柳壇賞は、常任理事会の委嘱を受けた選者が受賞句を決定し、主幹の承認を得るものとする。

(備考)

この規定は、現行の選考規定を一部改定したもので、常任理事会で承認の上、平成二十七年から実施するものとする。

## 二賞選考規定

- ① 路郎賞 川柳塔欄の入選句から5句  
川柳塔賞 水煙抄欄の入選句から5句  
昨年9月号から今年8月号までの一年間の入選句の中から自選し、8月号に刷込みの応募用紙を使用の上、8月10日必着で本社宛郵送する。
- ② 第一次選者は主幹・理事長・副主幹・副理事長・編集長とする。各賞15編ずつ選出し、第二次選者へ郵送する。
- ③ 第二次選者は折り返し、路郎賞、川柳塔賞の各選考結果を本社宛通知する。選考には順位をつけ、第一席(5点)、第二席(4点)、第三席(3点)、第四席(2点)、第五席(1点)の五編の番号を予め本社で用意したハガキに記入のこと。
- ④ 第二次選者  
本社関係 主幹・理事長  
地方関係 【4】Ⅱブロック (11) Ⅱ選者数  
【東日本】 (2) 北海道・東北・関東・信越・北陸・東海  
【近畿A】 (4) 大阪  
【近畿B】 (2) 滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山  
【西日本】 (3) 中国・四国・九州・沖縄・海外  
合計13名
- ⑤ 地方関係の選者は、適宜交代制を取り、均衡をはかることにする。  
川柳塔欄・水煙抄欄に6ヵ月以上出句した人に応募資格を認める。

## 令和元年 二賞選考委員

### 第一次選者（七名）

小島 蘭幸・新家 完司・川上 大輪・木本 朱夏  
西出 楓楽

### 第二次選者（十三名）

本社関係（二名）

小島 蘭幸・新家 完司

地方関係【4】Ⅱブロック（11）Ⅱ選者数

【東日本】（2）北海道・東北・関東・信越・北陸・東海

三浦 強一・金子美千代

【近畿A】（4）大阪

柿花 和夫・伊達 郁夫・片山かずお・籠島 恵子

【近畿B】（2）滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山

堀 正和・山田 葉子

【西日本】（3）中国・四国・九州・沖縄・海外

森山 盛桜・松本 文子・川崎ひかり

昨年九月から今年八月の間に

誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い方を選  
択して応募下さい。

ただし、「路郎賞」には川柳塔欄作品から、「川柳塔  
賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、間  
違いのないようにお願いします。

## 令和元年 各賞選者

愛染帖賞 新家 完司

檸檬賞 川端 一步 山岡富美子

一路賞 初代 正彦 久保田千代

各地柳壇賞 藤村 亜成 山本希久子

# 本社 七月句会

◇七月五日(金) 午後一時  
ア ウ イ ー ナ 大 阪

梅雨の晴れ間となった五日、路郎忌七月句会は、百三十八名(内投句者十名)の参加で開催された。選者をお願いした片岡加代さん所属の番傘をはじめ、多くの他柳社の方々のご出席を得て、熱気あふれる句会を持つことができた。

今月のお話は新家完司理事長。題は「夏を詠う」。各地で猛暑日を記録した昨年の夏を詠った25句を紹介された。理事長は夏がお好きだが「夏が好き但し36度以下(弘光)」「エアコンを着て歩きたい四十度(春代)」に同感。「沖繩が避暑地に見える猛暑かな(千休)」も決して大げさではなく、「この暑さ根性論で片付かぬ(篤)」もその通り。喉元過ぎて忘れかけていたアツサを川柳はしっかり残していた。暑さにめげず、「われは海の子」を歌って、お話を締められた。

月間賞は本田智彦さん(大阪市)  
(司会・真理子・隆彦)(協取・志津子・勝弘)  
(受付・蕉子・隆彦)(懸垂幕墨書・耕治)  
(清記・憲彦・勝弘)

## 席題「良い」

久保田千代 選

老犬と夫の歩幅とてもグー  
心地良くシャワー全開野良の汗  
汗しど夏は木綿に限りまず  
良いではないか浴衣にスニーカーだつて  
良い雨だ生き生き一面の青田  
やしの実が流れてきたという時代  
次の世は大金持ちでハンサムで  
良い人だいつも奢ってくれるから  
良い物はやはりお金がいるのです  
ええ人と言われ論吉の咳払い  
近頃の良い話には臭う詐欺  
良い顔がしたくて財布軽くなる  
鰻重なら松でなくても梅で良い  
良い人と言われお願い付いてくる  
残り福を信じた男だったのに  
お互いに辛口吐ける友がいる  
運の良さただそれだけにかけける  
良い話でしたええ服着てはつた  
良いことは良いとしつかり褒めてやる  
良い子続け疲れたまっぴきこもり  
良い子だと言われ根性なしになる  
良いところ見つけ誉めれば子は伸びる  
良い人と思わせている肩の凝り  
良い人と言われたことはありません  
良い人に囲まれながら惚けてゆく

柴本ばつは  
山野 寿之  
岩田 明子  
森 廣子  
田中ゆみ子  
西澤 知子  
榎本 舞夢  
江島谷勝弘  
矢倉 五月  
澤井 敏治  
水野 黒兎  
油谷 克己  
坂上 淳司  
山田 耕治  
島田 握夢  
初代 正彦  
岩佐ダン吉  
上野多恵子  
中堀 優  
山田 葉子  
片山かずお  
西出 楓楽  
岩田 明子  
岩佐ダン吉  
山岡富美子

母が笑った今日一日の良いニュース  
老いらくの恋は弱火で良い加減  
いい話ロールキャベツにいられてある  
都合良く亭主にかかつてきた電話  
生と死の峠を越えて指す朝日  
良い明日の約束くれる大落暉  
良い人で終りそうです恋未完  
お父さん私が先でいいですか  
その時はあなた一人が居ればよい  
ありがとう生まれてほんま良かったわ  
終わる日に子等が元気でいれぱいい  
良い人と添えたからこそ共白髪

今井万紗子  
大西 将文  
西澤 知子  
安土 理恵  
大楠 紀子  
石田ひろ子  
矢倉 五月  
太田としお  
川端 一步  
太田としお  
山田 葉子  
澤井 敏治

人に  
良い話だけが聞こえる耳を持つ  
吉村久仁雄  
地  
春落ち葉ひとりを生きているころがけ  
森中恵美子  
天  
三途の川で悔いなければ良いのです  
島田 握夢  
軸  
いいことがあるかも富士が良く見える



兼題「無い」 原田すみ子 選

彼女より無いと思つた日の不思議  
欲張りて捨てたいものは何もない  
半夏生あなたと呼べる人が無い  
風の無い日には何かが抜けていく  
ないないづくし最後に残す好奇心  
澄みきつたみ空へ僕を天日干し  
再婚話ないが釣書はかいてある  
打算など無いよあなたに首つたけ  
頼り無い人ほど支え甲斐がある  
もう頭カラッポですわ楽ですわ  
風呂めし寝る夫に悩み無いらしい  
恙無い明日へ沈んでいく夕陽  
仏壇はないが心に仏様  
泣かせた女つて母のほかは無し  
無くしたのもう数えない青い空  
正解の無い毎日を生きている  
何ごとも無かつたように懐しめ  
内緒など無いよカバの大あくび  
はじめから野心など無いねこじやらし  
核の無い世界を夢のように言う  
予告なく悲しい別れて来て挽歌  
愛想無い妻だが私にはベスト  
半端ない覚悟で返す免許証  
落ち着きが無い子だまさに僕の血だ  
防犯カメラ偽装ないぞという矜持

萩原 狸月  
大久保真澄  
森中恵美子  
久保田千代  
緒方美津子  
初代 正彦  
西澤 知子  
中村 恵  
鈴木いさお  
柴本ばつは  
澤井 敏治  
山野 寿之  
木藤こみつ  
藤井 宏造  
山田 葉子  
木本 朱夏  
酒井 紀華  
澤井 敏治  
片岡 加代  
岩佐ダン吉  
内田志津子  
鈴木いさお  
永田 紀恵  
森松まつお  
上山 堅坊

何事も無い一日が過ぎていく  
なにも無いことが長所になって来た  
九十四年戦無い世へつなぎたい  
ドラマのない一日だつた傘たたむ  
無い話上手に作る遺産わけ  
路地裏の向こうに消えたカゴメの輪  
欲しいものたくさんあつた青い頃  
夢の無いおとこ背中の荷は軽い  
幸せと書く宛先のない手紙  
ゼロからの歩み無など恐れない  
運のない男わたしが妻なんて  
ふと立ち止る言い訳の無い月の下

能勢 良子  
小島 蘭幸  
前 たもつ  
山本希久子  
榎本 宏子  
鈴木 かこ  
上田ひとみ  
大楠 紀子  
小野 雅美  
柴田 桂子  
西出 楓楽  
森 廣子  
たむらあきこ  
山田 葉子  
山本希久子  
三宅 保州  
中岡千代美  
吉村久仁雄  
山岡富美子  
銭谷まきひろ

ボクのかなかにいるからいいわけじゃない  
大きな傘無くしてからも旅続く  
ケイタイ無い頃の歩幅に戻れない  
無限大の最たるものは欲である  
下心は無いけど水割りが濃い  
人 今日にしかない幸せと気がつかず  
地 残高は無いが翼と夢がある  
天 無邪気です晒し木綿になりました  
軸 平凡に生きる以上の望み無い

兼題「おいしい」 川端 一步 選

高いけど鰻はやはり国産や  
酔いざめに冷たい茶漬け一夜漬け  
ブリブリなわたしおいしく召し上がれ  
煮込まれてやつと美味しくなつたボク  
焼酎がおいしいこの世去り難し  
この季節やつぱり鰻と吟醸酒  
おいしそうな話を盛つてある保険  
ソーメンを啜るおいしい君がいる  
こんなにもおいしいものが初キッス  
この恋はきつと咲きます味が  
何となく七輪美味しそくに焼け  
陽の匂いいっぱい完熟のトマト  
終章でやつとおいくくなる自伝  
おいしいものをいただいている八月忘  
おいしいな戦争のない三食だ  
飛びついた旨い話に大火傷  
魯山人の茶碗で卵かけ御飯  
こんなにも旨い手術後のお粥  
千里眼おいしい一手囲碁将棋  
枝豆とビールと隣にはあなた  
お土産はおいしい空気の話  
「おいしいね」相手があつて出る言葉  
ごはんにも酒のアテにも納豆だ  
箸置きがおいしい返事待っている

奥村 五月  
北野 哲男  
藤井 智史  
たむらあきこ  
新家 完司  
片岡 加代  
木本 朱夏  
西澤 知子  
木嶋 盛隆  
柴本ばつは  
島田 握夢  
荻野 浩子  
平井美智子  
本田 智彦  
森中恵美子  
米澤 俣子  
吉村久仁雄  
上野多恵子  
前田 紀雄  
小野 雅美  
森松まつお  
山根 妙子  
江島谷勝弘  
鴨谷瑠美子



おいさが微妙に違う三代目

釣り立ての味船上で噛みしめる

頂上の雪解け水とにぎりめし

何食っても旨い卒寿は通過点

肉じゃがはやはりおいしい母の味

生きてます美味しのお酒飲んでます

おいしいと思う話に尻がある

食パンが旨い噂に長い列

地酒提げておいしい男やって来る

こんなにも空気がうまい退院日

フレンチの後はいつものラーメン屋

生きている喜びを噛む三分粥

佳

頑張りやと母のでっかい塩むすび

平和ですだからうまいよ朝ごはん

箸の数増えると旨い鍋料理

牛を見て美味しそうだと僕の妻

究極の味は素うどんだと思う

人

大切な今をおいしく召し上がる

地

スルメ噛むように味ある人間味

天

夢ひとつ混ぜておいしい明日にする

武器爆買いこんなおいしい話ない

三宅 保州

小川賀世子

内田志津子

油谷 克己

松尾美智代

鈴木いさお

山岡富美子

山野 寿之

鴨谷瑠美子

大西 将文

斎藤 隆浩

石田ひろ子

澤井 敏治

上田ひとみ

山岡富美子

木嶋 盛隆

山崎 武彦

藤井 智史

荻野 浩子

鈴木 かの

### 兼題「休む」

片山かずお 選

役力士誰かが休む大相撲

休まない自慢をしてた若い頃

育休に日参してるバチンコ屋

この辺で休もう二千万貯めた

お休みなさい妻はさっさと寝るんです

テレビ消し今日は目と耳休ませる

心臓に休みたいとは言わせない

八月は例年通り軽井沢

休日はずらいな妻に使われる

粗探しばかりする目を休ませる

休む暇あつたら寝るか食べている

医者通い休まぬうちはまだ元氣

ボランティア缶コーヒーで一休み

メンバーが揃い出番は今日もなし

週一度お休みしたい家事育児

サミットで休んだ分は残業で

毎日が休みで曜日からない

休むため家には椅子がたんとある

八合目過ぎたし少し休もうか

休むのは盆暮だけの町工場

四分休符続くワタシの脳回路

先人の知恵だと思ふ安息日

参観日パート休んだ母が来た

北野 哲男

降幡 弘美

清水 英旺

西出 楓楽

太田としお

松尾美智代

古今堂蕉子

藤井 宏造

内藤 憲彦

小野 雅美

清水久美子

長谷川崇明

石田ひろ子

小金澤真一

川端 六次

油谷 克己

敏森 廣光

久保田千代

森松まつお

山野 寿之

米澤 俣子

平賀 国和

山田 耕治

柴田 桂子

歳だから休みなさいと諭される

十連休その後出勤指示がない

休む理由見つからぬから靴を履く

休んだらこけると独楽のひとり言

なんぼでも休めと言われ休めない

ルノアール腹郁水に休んでる

誘われて先送りする休肝日

スマホから休みをくれと言われそう

サミットで休校はあば出番です

使い込みバれないように休まない

採め出すとフレックスタイム挿み込む

何よりの褒美私を休ませる

苦悶していたのかまっ白なページ

佳

休んでるふりでスマホは離さない

休日をぐいちに取って恙無し

仮眠してさっきの憂さが消えている

錆びついて休みモードにある海馬

「休みたい」ばかり呟く膝小僧

人

休止符もなければ生きてこぬリズム

休むのはここだと決めて墓地を買う

天

休ませてあげたい地球疲れてる

ひと鍬ごとに休む八十路の畑仕事

山崎 武彦

岩佐ダン吉

奥澤洋次郎

大西 将文

島田 握夢

宮西 弥生

松浦 英夫

松岡 篤

関 よしみ

油谷 克己

安福 和夫

三宅 保州

たむらあきこ

森田 旅人

中岡千代美

清水久美子

中島 一彌

新家 完司

三宅 保州

地

柿花 和夫

天

中島 一彌

軸

兼題「今」 片岡 加代 選

今は昔ニホンは強い国だった  
健康な今を続けるウォーキング  
今卒寿放物線を意識する  
今のままの僕で終つてなるもんか  
今のとこ妻は一人で足りてます  
父親のあの一言で今がある  
いよいよか今聞いたこと忘れてる  
今になれば何と言うことない話  
遅咲きで今が旬です跳ねてます  
句会だけが外出先になつてきた  
昨日も明日もおほろで今を飲んで  
足の裏砂浜に触れ今夏だ  
水は流れて今の私を見てもらう  
新聞の呼吸読者の今の声  
白紙が問うイマノオマエハナニモノダ  
おしずかに今睡蓮の花がボン  
またあとであとと今を逃けている  
砂時計戻して今を繰り返す  
ちよつと訳あつて只今別居中  
今が旬甘い響きにまたメタボ  
僕の今妻の我慢があればこそ  
今のうちお墓引越しさせなくちゃ  
今日もまたといつまで言えることだろう  
今すぐに駆け込み寺にいらつしやい

清水 英旺  
萩原 狸月  
北野 哲男  
福田 好文  
伊達 郁夫  
藤田 雪菜  
能勢 良子  
松浦 英夫  
伊達 郁夫  
上田 和宏  
小島 蘭幸  
本田 智彦  
小島 蘭幸  
宇都満知子  
居谷真理子  
藤井 宏造  
平井美智子  
大西 将文  
川端 六点  
上出 修  
敏森 廣光  
内藤 憲彦  
大久保真澄  
岩田 明子

青春しよう今からでも遅くない  
積み上げた今をエンジョイしています  
逆上りできて広がる僕の今  
今の暮らし続けられたらそれでいい  
今神に近づくと父のものの静か  
いろんな事あつたねえ若かつたねえ  
まだ降っていない今なら帰れます  
幸せです元氣にここに居ることが  
今さらかいえ今だから好きでした  
喋るのも面倒くさいのです今  
やがて来るわたしに今が無くなる日  
今ならば妻に負けないかもしれん

鈴木いさお  
荻野 浩子  
大楠 紀子  
山田 葉子  
柴本ばつは  
小川賀世子  
鴨谷瑠美子  
江島谷勝弘  
大久保真澄  
森松まつお  
西出 楓楽  
松岡 篤  
吉村久仁雄  
鈴木 かこ  
江島谷勝弘  
立蔵 信子  
平松かすみ  
たむらあきこ  
木本 朱夏  
岩佐ダン吉

腹式呼吸今をゆつたり生きている  
どれだけの今を零して来ただろう  
ふと思うお昼ごはん食べたかな  
今が始まる一杯のコーヒート  
梅雨最中あじさい寺へ続くバス  
人  
なぜになりいまもわたしの中に居る  
地  
今にして思うジャムパンコッペパン  
天  
七十四年今仰いでる夏の空  
軸  
時は今敵は軒をかいている

兼題「想定」 小島 蘭幸 選

想定外の葉は灘に置いてある  
文通のお方と逢わず半世紀  
捨て切れぬ夢妄想をアテに飲む  
私を見送り逝くと言つたのに  
ボートと生きて何も想定していない  
想定は出来ても打つ手ない被害  
手抜きしたのにこんなきれいな花が咲く  
あの人に似てる男の子だった筈  
神の試練少し大人にしてくれた  
サプライズ想定外のバラ百本  
じめじめむしむし想定内である  
その内にきつと青空見えてくる  
想定はわたしが残ることばかり  
想定外の範囲に種を蒔いておく  
想定の中で泳いでいるメダカ  
二番手の品位を腐らずに保つ  
泣くまいぞ想定内の事だから  
ナイスショットの気分で傘を振っている  
喜寿までは想定できるほどの金  
想定外白寿を越えて生きている  
月イチで美人になれる白髪染め  
極楽へ行く切符ならすぐ予約  
想定外ばかり立ちあがらせている  
路郎忌に想定外の人と会う

青木 公輔  
三宅 保州  
吉村久仁雄  
能勢 利子  
片山かずお  
川端 一步  
森 廣子  
中岡千代美  
小野 雅美  
磯島福貴子  
山本希久子  
山本 昌代  
原田すみ子  
木本 朱夏  
矢倉 五月  
小野 雅美  
山本 昌代  
島田 握夢  
中島 一彌  
黒岩 靖博  
酒井 紀華  
内藤 憲彦  
たむらあきこ  
本田 智彦

土佐生まれと聞いてぐい飲み用意する  
あと二年くらいか僕の持ち時間  
二千万は想定内よドッコイシヨ  
マイク握ると越路吹雪になるのです  
紙オシメまでは想定したくない  
天の川想定外の雨が降る  
想定外だった鳥にはまだなれぬ  
私から愛を抜いたら風になる  
想定外あなたと飛べた水溜り  
ティラノサウルス用心棒に飼うなんて  
想定外だらけの孫は宇宙人  
私を焼く煙はピンクかも知れぬ  
ボケてきたけれど想定内である

澤井 敏治  
森松まつお  
小川賀世子  
上野多恵子  
新家 完司  
平井美智子  
鈴木 かこ  
今井万紗子  
村田 博  
藤井 宏造  
西出 楓楽  
新家 完司

離婚したのも想定のうちですか  
百歳時代へ魔女のホウキを誂える  
ヘップバーンと同じ瞳になってきた  
二世帯を想定にしてローン組む  
真っ直ぐに生きたボツクリ逝くだろう

鈴木いさお  
小川賀世子  
上野多恵子  
石田ひろ子  
西出 楓楽

穏やかな形で母が暮れてゆく  
どしゃぶりの恋は想定外でした

平井美智子  
藤井 智史

七夕の笹に想定外を吊る

本田 智彦

七十一歳想定外を生きている

## 句 会 燦 燦

### 志 孝 垣 板 読む会 六月

いいことがありましたかと見破られ  
犬のウンコ踏んで笑うてたら大概バレまっせ  
噛み砕いた話で余計ややこしい  
とりあえず放送法第六十四条から説明しますとです  
流行は追わないわたしアツパツパ  
軽くて涼しく簡単。不易流行の原点は縄文衣服かも  
噛み殺したあくび見られた入社式  
定年時の肩書きは、多分係長補佐あたりでしょうなあ  
持ち金と生命線が喧嘩する  
句会に向かう脚に、瀕死の通帳が取り纏ってヨヨと泣く  
計算は苦手半額なら得意  
55%引きよりも半額の方が安いような気がする  
近道を教えてくれるビタゴラス  
その近道に呑み屋を配備したのはアナカルシス  
家計簿は合っているのに足りません  
着物と靴は外交機密費で落としたけれど 飲んだから  
白寿から我慢の文字が消えました  
高齢者がキレルのは、出来ない事への不安と寂しさから  
守るため抱きしめるためこの両手  
リュックサックが流行るのは、スマホを操作する為  
戦時中に流行った名前です勝  
忠・勇・武 歓呼の声に三度目の神風は吹かなかった  
手書きからあふれるほどの思い遣り  
八月の日本人は『素子への手紙』を検索すべし

江島谷勝弘  
岩佐ダン吉  
酒井 紀華  
中川ひろ介  
古今堂蕉子  
山野 寿之  
澤井 敏治  
中岡千代美  
能勢 利子  
上田ひとみ  
木本 朱夏  
松原 寿子

# 老地神壇

毎月24日締切・35句以内厳守  
掲載は原稿到着順となります。  
楷書で誤字のないようにお願い  
いたします。

編集部

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにこ報

集まれば介護年金認知症  
幼い子等に涙集めた危険事故  
いきなりに幼い園児事故に遭い  
いきなりに客にスッピン覗かれた  
小数点以下がいきなりものを言う  
予測など出来ぬ女房の乱気流  
仕組まれていたいきなり破産とは  
好物のカツ丼無口でかき込んだ  
力士らの腹は脂肪が筋肉か  
ぜい肉を割った家計簿まだ赤い  
頭黒い小ネズミ喧嘩肉取り合い  
十連休絆深めた高い肉  
畑荒らすいのしし食ってかたきうつ  
肉なのか脂肪なのかと腹眺め  
肉のないスキ焼き返さない男  
今はおうちやぶ台返しできない世  
テーブルのラッキョウ潰けが飯の友  
義人

テーブルにはほ杖ついて思案顔  
十連休テーブルに積むマンガ本  
テーブルの傷に昔をばらされる  
喉が鳴るテーブルスピーチが長い  
食卓の脚がだんだん細くなる  
カメモシが食卓乱す夕食時  
テーブルをひっくり返し物忘れ  
テーブルの極東に日本列島  
川柳塔すみよし(大阪) 森松まつお報  
ミスはミス認め人間らしくなる  
宿敵に致命的ミス救われる  
老人のミスは当然ケ・セラ・セラ  
飲む程に昼間のミスがまざまざと  
子等のミス責めず長所を引き伸ばす  
神様のミスが私の目鼻立ち  
ノミスのジャンプ華麗に舞うルッツ  
書いて消しけしては書いている夜更け  
初めての句会に苦戦指疲れ  
なんでやる妻がこの頃若返る  
離婚した理由は誰にも云えませんが  
シングルになった理由など聞かないで  
泣きにゆく母は理由を聞かず抱く  
謝りに来た友だから飲み明かす  
サブリ飲む「すごい」と妻に言わせた  
定年後光る所が消えた父  
任されて光り始めた甘えっ子  
ダイヤよりキラリと光る和の心  
美美子  
清  
節子  
重忠  
三津子  
照彦  
石花菜  
くにこ  
ゆみ子  
久美子  
シマ子  
昌紀  
隆昭  
いさお  
靖鬼  
芳香  
佳子  
ひろ介  
志津子  
一歩  
朝子  
久仁雄  
宏造  
奥五  
満子  
作

雨上がり竿の雫のペンダント  
接戦の汗のタツクル光つてる  
好奇心八十路の父も光らせる  
蒲公英の風まで光る黄金色  
ピカピカの命躍動する新芽  
世界へと勇む男の背が光る  
酒二合そろそろ妻の目が光る  
人の意見聞く耳持たぬ男も足  
どんどんと先に行きはる散歩道  
どんどんと明日と言う日が来てくれる  
民意無視め立て進む辺野古基地  
若者の生きている歩幅が越してゆく  
ひたすらに愛し続けて五十年  
開発はどんどん景色変えてゆく  
平成から令和を祝う大花火  
言い訳がどんどん厚着になる浮気(矢)  
ラストスパートどんどんゴール近くなる  
和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報  
世の中で一番怖い人の口  
お茶席の和菓子に和むエトランゼ  
赤人の心惚べる和歌の浦  
人間の都合で変わり行く自然  
温暖化人のおこりが招く罪  
姿見に問うたおくしの裏表  
人前に出ると言葉が人見する  
味のある人だどん底知っている  
硝煙弾雨空を見上げている少女  
妙子  
ふりこ  
雅美  
里子  
賢子  
俊雄  
萌  
美籠  
美世子  
日の出  
福貴子  
満知子  
ミナ子  
直子  
寿之  
五月  
舞夢  
当代  
まき  
一雄  
富香  
康則  
幹枝  
宏枝  
起世子  
ダン吉

紀州路の緑に染まるスニーカー  
名人はおっとり人を和ませる  
キラキラとすつく太刀魚モニュメント  
ひろ子

男らしい息子に嫉妬してしまふ  
恙なく生き忘却も又楽し  
保州  
みつ江

女の顔つい忘れてた子育て期  
停戦はするが和解は有り得ない  
かず子  
美枝子

七人の敵が男にしてくれる  
人間になったビノキオ悩み出す  
日出男  
智子

蘇生法習っておいした人助け  
爪縦に割れて男が独り居る  
義雄  
和子

あの日から女ひとりで守る城  
向い風耐えて男の顔になる  
八重子  
次根

令和へと期待を込めて発車する  
慎ましく生きて女の灯を守る  
准一  
昭枝

一言の重みが違う苦勞人  
ポリシーを曲げぬ男の無位無冠  
菜摘  
敏照

足し算をやめて私を削ぎ落とす  
眉ベンに女をかけるにらめっこ  
知香  
弘子

仲の良い女系家族のピチカート  
和が大事言いつつ我流押し通す  
あき子  
彦弘

初恋の相手はなんと雨男  
男らしさ今も少しは残ってる  
明宏  
珠子

掘り出した土偶は女乳房ある  
聖女にはなれぬが悪女にはなれる  
義泰  
千鶴

竹原川柳会(広島)

古田

太虚報

花の夜の雫か涙雨

宣之

点滴で命を繋ぐ養老院  
木の芽和え煮汁の雫きつておく  
一雫も疑ってない母心

雪ボタボタ絶好調という男  
一雫のレモンを絞る母の味  
川柳の本に抱かれ老いて今

草の上雲に抱かれて対話する  
九十歳まだまだ重い母を抱く  
弾むもの抱いてやさしい風を待つ

上皇后母の慈愛と抱擁と  
これからも平和な日々を抱かれて  
お手植えの緑令和へつなぐ愛

校章の緑は若い印なり  
遠景の緑くぐって来た風よ  
新天皇初のお言葉緑彩

みどりの風に恋のピアスが駆けてくる  
律儀にも芽吹いたフクシマの緑  
先輩のお節介だがありがたい

五月一日令和元年国旗揚げ  
令和元朝きりり深紅の紅を引く  
風清か御母堂様はお浄土へ

まんまるい手はなんでも作る魔法の手  
組体操てっぺんは息子です  
さがしものみつけるまほうのステッキで

川柳塔みちのく(青森)

稲見

則彦報

肩書が離れようとはせぬ名刺  
逆立ちの子からこぼれた花の種

一徳

慶子

輝恵

蘭幸

栄香

規代

弘子

千代美

鬼焼

敬子

夢香

幸子

笑子

比呂子

淑子

寛

昭紀

歩美

初音

厚子

汎美

三歳

史子

か

石橋芳山選

キョッキキョッキの首も凝っている  
自分から戦力外を願ひ出る  
堂々と地獄へ堕ちて行く覚悟

スマホって人を一人にする機械  
フレッシュなレタスの音も食べているひろ介  
新しい波だびょーんと飛んでやる

ミサイルと云えば良いのに飛翔体  
補助輪を外してからポテンシャル  
全没でシヨックな日にはアリナミン

風みどり今日はスマホを置いて出る  
星雨

佳句地十選 (7月号から)

山田葉子選

飛びたくも飛べぬ介護と言つ鎖  
ナツメロが蓋した傷に火を灯す  
うるさいが母のいちいちごもつとも

ごたごたはその日のうちにシュレツダー  
先祖代々背中で継いできた老舗  
わたくしの終着駅になる令和

鉛筆はやさしくなれる魔法もつ  
フレッシュなレタスの音も食べているひろ介  
データーには見えぬ他人の胸のうち

夕方になると忘れる休肝日  
草庵

慕情

洋志

楓花

岩玲子

則彦

古ハガキ離ればなれの友想う  
 コミカルな家族で皆んな笑い声  
 平成の花は散つても令和咲く  
 桜散り今はりんごの花見酒  
 とりあえず離陸 着陸許可がない  
 妻のあと十二歩離れ他人顔  
 離散した村に無心の花が咲く  
 散読で独り気晴らす雨の日は  
 塩水に漬かる種もみ期待負う  
 ふたたびのいのちが咲いた花筏  
 雪融けを待ちに待てる種袋  
 いずれまた会おうじゃないかサクラ散る  
 良い種は出会いを求め飛び回る  
 断捨離が夢に出てまで苦しめる  
 私とて離れたくないのよお礼  
 サバ缶を十日続けていざ検診  
 学歴は問わず健康認められ  
 親元を離れる僕は二男坊  
 セーフには拍手アウトはまた明日  
 まだまだと在庫たっぷり生きる欲  
 わたくしの老後は恋の花盛り  
 年金を宥めなだめて今日を生く  
 酒のつまみ猫と喧嘩を繰り返す  
 おてんとさまに叱られてる昼の酒  
 セロハンテープ切れて一人を選ぶ旅  
 瘦せたいなでも黒ビールおいしいな

# はびきの市民川柳会(大阪)中川ひろ介

真つ当に生き生きしてる彬の句

冬の一呑み  
 重道  
 風来坊  
 則彦  
 美鈴  
 洋子  
 初枝  
 黙人  
 慕情  
 隆樹  
 孝子  
 柳子  
 吹喜  
 英子  
 きよし  
 吞舟  
 真由美  
 のぶよし  
 龍馬  
 ふさあ  
 花峯  
 霜石  
 規子

冬のト

生きるっていいなトマトの赤光る  
 夢洲のカジノ飛び交う丁と半  
 流れ星咄嗟に出ない願い事  
 生きている実感のどを越すビール  
 手と足の一句脈々生きつづけ  
 柔らかな言葉の奥の強い意志  
 不器用にただ真つ当に生きてきた  
 つらい時期質に流した腕時計  
 沖繩のサンゴ生きている助けでね  
 指先の流れに夢のピアニスト  
 停電でソフトクリーム食べそこね  
 生きてますかと葬儀屋から電話  
 生きているとは至難の技と知る余生  
 長生きして渡る世間はこんなもの  
 書く喋るそれが私の生きる道  
 スッピンで生きる気楽なロスタイム  
 六万円生きた人情美談なり  
 ご飯炊き洗濯もして今日も生き  
 生きている道トランプさんを見習おう  
 恋と酒演歌のように生きられぬ  
 点滴の音無き音を聞く命  
 母さんのうしろ姿を見て生きる  
 落丁のページにあった物語  
 乱丁は不問ドラマは佳境へ

## 川柳塔唐津(佐賀)

仁部 四郎報

亡母好み季節移れどバラの供華  
 背丈が縮む寿命が縮む

みつこ  
 壽峰  
 ちづる  
 欣之  
 いさお  
 大子  
 久仁雄  
 フジ  
 清  
 高鷲  
 かつ美  
 専平  
 久仁子  
 シルク  
 千鶴子  
 紀雄  
 洋一  
 一文  
 正義  
 まつお  
 泰子  
 さくら  
 ダン吉  
 ひろ介

蜂 朗

欠陥があつて墜落する機体  
 当選に冷や水投票率低い  
 城北川柳会(大阪)  
 近藤  
 月までもスキップで行く有頂天  
 話が佳境なのに診察の順番  
 百態の飛翔姿よ鳥遊ぶ  
 雨の日は心やすまるタイガース  
 令和新年老いもスキップしてみよう  
 願わくば枯木にも花咲けば咲け  
 駆けるだけ駆けて抱きつく母の背な  
 正論も遠吠えとなる少数派  
 天辺の眺め悲鳴に変わる揺れ  
 神さまがスキップしてる虹の橋  
 人生の佳境をアクティブに生きる  
 母の影その花の名は沙羅双樹  
 十連休誰の誘いも無く不貞寝  
 こじつけがうまく働きますべて良し  
 昨日まで元気でいたと言われた  
 包丁が子どもの夢を切り裂いた  
 スキップで命閉じたいウオーキング  
 表札に頭を下げて雨宿り  
 七つ半やらずの雨と飲み直す  
 雨上がり少し素直になつてみる  
 共白髪あの日雨の雨がキューピット  
 雨を待つ河童の皿が乾き出す  
 ターザンの吠え方学ぶうちの犬  
 遠くから吠えて火の粉は被らない

高明  
 四郎  
 正報  
 博  
 満知子  
 克己  
 賢子  
 俊雄  
 雅美  
 満洲夫  
 朝子  
 満作  
 志華子  
 あさ子  
 峰子  
 たもつ  
 一歩  
 堅坊  
 和夫  
 捷二  
 星雨  
 北舟  
 久美子  
 宣子  
 洋志



長雨に濡れた女が乾かない  
そこそこのそこが掴めぬ石あたま  
称え合い励まし合つて傘一つ  
人生の佳境いちばん若い今日  
胃袋が必死に吠える休肝日  
いい夫婦生きたる歩幅の歩み寄り  
老春をスキップで行くいまが華  
突然の別れ惜しんで涙雨  
しとしとの梅雨は昔のことだった

### 川柳塔なら

### 大久保眞澄報

郁夫 弘修 直樹 野鶴 榎香 榮子 高志 勝弘

赤鼻のピエロ患者を和ませる  
恙なく父そつくりのだんご鼻  
この憂うつ息息ひとつ吹き飛ばす

赤門の前に涙と折れた鼻  
足りているくらしに不遜の子が育ち  
足りるかなもう一枚を握つて

五欲見栄捨てて知足の境に入る  
生ビール焼酎ロック酒二合  
足りている脂肪もボーイフレンドも

余る程時間足りても気忙しい  
衣食住足りでも鍵っ子の爪がない  
この暑さ仏様にも水を足す

金と暇有るが名誉が付いて来ぬ  
足を知る地味な財布と二人旅  
満ち足りて心の皺が伸びて来る

父母の愛足り過ぎたのかひきこもり  
欲望をエンジンにして資本主義  
満ち足りて隣の花が欲しくなる

文聡 史郎 美智子 理恵 紀雄 恭昌 万紗子

よう子 文聡 史郎 美智子 理恵 紀雄 恭昌 万紗子

満ち足りた余裕がきつと敗因に  
三回忌夫に後悔今もあり  
シグナルに気付かず嵌まる蟻地獄  
つい本音言つてしまった酒の席  
言い過ぎたひとと胸に悔いのこる  
後悔の廊下足から冷えて来る  
あの時に言えばよかったありがとう  
天秤にかけた男が今社長  
夕焼けの真つ赤後悔解きほぐす  
引き潮がさらつていった悔いひとつ  
時間たつぷり堅い頭を趣味で研ぐ  
包丁も心も研げぬまま傘寿  
米研がぬ妻が上座におはしてる  
研ぎ澄まし緊張走る手術室  
世界みな肩組めるよう心研ぐ  
ふところの深いところで研ぐ野心  
慣れた手で米研ぐ息子嫁のもの

### 川柳茶ばしら(愛知)

### 関本かつ子報

一言が胸に刺さつてヤツ当たり  
定年へ普通電車が来て止まる  
兄二人逝つて妻たち薄化粧  
あれもこれも気を付ける事増えた老い  
花嫁の頃とは違う妻となり  
のどかだな駐在さんの草むしり

和夫 孝子 行久 盛隆 ひろ介 甚之市 雅美 富子 敬子 萌子 すみれ 賛郎 優 惠美子 純子

### 京都塔の会

### 山田 葉子報

必殺へびたりピントのスナイパー

欣之

ピントきた私も出来る川柳が  
ピント外れの質問をしてにが笑い  
たまにいるどこかピントが違つて  
美人でも難なく百歳ありがたい  
難病と聞いたが恋の病らし  
あじさいを包み切れない新聞紙  
常識をはみ出す者が世を変える  
焦点をぼかし質問はぐらかす  
妥協にピント合わせば怠惰責めてくる  
焦点は平和を指す令和の代  
難題は溜まった金の使い道  
娘の書棚難しい本並んでる  
難しい話だ後まわしにする  
絶頂期構えて落し穴知らず  
ネエアナタに構えてドキリと不整脈  
塗り絵からはみ出している不登校  
ピントずれまだまだ昭和生きている  
答えのない難問たんと抱えてる  
七難も八難もみな思い出の花火  
デザインはいいがサイズに難がある  
新米ババぐずる赤子に困り果て  
しっかりとピント合わせば皺の数  
一の字の毛筆の難しいこと  
今もって構えすぎたかまだひとり  
はみだした手足見て知る子の育ち

弘子 ルイ子 弥生 美津子 福子 公子 則彦 光久 文代 哲子 宏子 忠子 かずお 弘委智 弘之 洋志 葉子 英旺 求芽 美龍 元一 正彦 万紗子 満子

### 川柳塔わかやま吟社

### 小谷 小雪報

様がわり螢の里が消えている

寿子

赤ちゃんのてのひら光る風掴む  
屏風から音がしそうな雷神図

ゴロゴロが過ぎて海馬が笑いだす  
空腹にゴロゴロ鳴っているおなか

今にして思えば母は避雷針

命令の様に納税通知来る

遠雷にふと甦る思慕一つ

ゴロゴロと稲妻が打つ母の喝

ゴロゴロと寝返りをうって遣り過す

通知しないことも思いやりだらう

千羽折り切つてまもなく計がとどく

予告なく変更しますあしからず

だんだんと老母に似て来た顔と声

なるほどアナタはいつも聞き上手

百均にあるなるほどが遅しい

雲行きを読んで今夜はそつと寝る

### 川柳大阪

山崎

珠生報

拉致家族はやく帰国ねがうばかり

欲やなあひ孫の幸まで折つて

恙無い余生を願う老いの日々

誤字脱字だらけの絵馬が揺れている

子や孫の息災願う百度石

願いごとと多くなかなか死ねません

サミットで明るい未来期待する

友好ムードサミット成功を祈る

G20無茶言うトップ抑え込め

泣いている妻の寝言に起こされる

紀子

日出男

富美子

准一

保州

紀久子

愿

京子

ほのか

小雪

あきこ

知香

まさみ

経子

大輪

ちづこ

寝言では済まぬ武力で鳥を取る

嫁の名と同じ名前の子と遊ぶ

吾子が笑う寝言の中で笑つて

謝つてばかりしている寝言でも

局地的豪雨が又も村をのむ

強迫観念ゲータイが離せない

カーナビが一人で喋る二人旅

真しやかな話題ブライド傷つける

渴きっぱい世で情報の見えかくれ

情報の中で溺れている河童

良い知らせだけが聞こえる耳となり

黒塗りの情報などはいりません

土日は国際色のキタミナミ

### 川柳同友会みらい(鳥取)吉田

陽子報

写経してしつかり解かずだかまり

筈を初掘りをする獣たち

童謡が原風景ヘリセットす

愛犬棺野花いっぱい入れてやる

お茶の友令和饅頭買ってきた

女同士で交わし合うチョコレート

万葉という手も使い令和来る

神様が決めた寿命を生きている

地球の息吹き感じる春を謳歌する

たおやかな両陛下あり令和開け

朧夜に絡んでみたい好きな人

さわやかに目覚めた朝は希望の日

カモシカの足になるまで鍛えよう

紀雄

珠生

万紗子

俊雄

司

ゆみ子

志津子

美籠

克生

弥己

蕉子

美世子

照月

耕一

みち子

葵

恵美代

恵子

智恵子

和之

章子

和代

安子

美恵子

かず子

華蓮

仏壇に平成知らぬ父がいる

力んだら駄目と教えるシャボン玉

改元を祝い値上げが押し掛ける

ヒロインに拔擢雨の道を行く

人相で評価は駄目だ腹にしな

新緑を眺める里蛭だけ乱舞

限界のふる里蛭だけ乱舞

地球が望む最低限があればよい

### わかあゆ川柳会(鳥根)松本はるみ報

ゆつくりと行こうか今日も風まかせ

元氣よく踊る年輩見て楽し

立ち直りきつかけつかむサークル会

一秒差そんなわずかのきつかけに

きつかけはひとり暮らしの電話口

恐縮な話と思う出口から

### 富柳会(大阪)

関よしみ報

人間を導く愛は貽と鞭

あなたには強い味方のワテがいる

光もの好きな娘はまだ三つ

子に繋ぐ舌で教える母の味

逆光に浮かぶ昭和のシルエット

月光を飲んで白亜の天守閣

炎え尽きる迄のあなたは導火線

カーナビを信じ迷った都市砂漠

言葉より一部始終を示す靴

逆光を浴びて浮かんでくる微罪

みどり

八重

清春

陽子

三郎

游子

ダン吉

公弘

かつ子

安子

ハル子

恵美子

はるみ

昌

正行

新

文重

由夏

田鶴子

壽峰

澄子

清

あかり

かこ



記念樹の肥料になつたなみだ雨

武人

次の世もうちにはあんたしかおらん

恵

私を袈裟斬りにする流れ星

よしみ

圧巻の虹は光のスペクトル

欣之

蹟いた石から声のない指導

寿之

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西

茶子報

ボケツとする時間を惜しみ生きている

大鯨

大阪でストンと落ちた初ベッド

好幸

銭の音賽銭箱が聞き分ける

宏章

ライバルを天狗にさせて風をよむ

孝子

天狗にも蛙にもなる妻の前

茶子

山陰の野山で花は咲いて散る

すみれ

孫という天狗に誰も逆らえぬ

盛桜

百円が一万円になる話し

小鹿

取り越し苦労いやな性格老いるほど

弘子

ケータイを風呂に持ち込むようになる

実満

山陰一の味覚は蟹の五輝星

重忠

無言だが我が家を守る天狗面

綾子

瑞風はおもてなし受け山陰路

ゆり子

辺野古基地阻止はストンと胸に落ち

照彦

山陰の栄えた昔巡る旅

よしあき

地図さえもストンと消えた過疎の村

弘六

一言でストンと落ちた人気票

文道

害虫がストンと死滅こわい薬

孔美子

夫婦仲ストンと嵌る元の前

ゆたか

欲重くストンと軽いお賽銭

満

小天狗が沢山遊ぶ保育園

草文

朧月怪しい美女の酌に酔い

恒

せがまれて馬にさせられ尻打たれ

蟹郎

天狗さん団扇なくして困ってる

英子

怪しいと再検査を勧められて

かおる

怪しいねこそこそ陰に隠れてる

みさ子

山陰の海の夕日に無我の境

一平

おもいつき持ち上げられて落とされた

京

ふうもん吟社(鳥取) 両川

無限報

シャッターがもう開きません過疎の町

鐘旭

手が足りンドローンが苗植えてくれ

蟹郎

遣り残さないよう急ぐ朝仕事

房江

興奮の余韻つまみに酒を呑む

京子

労働歌にしては陽気な田植え歌

宏章

木洩れ陽の夫婦の会話まるくなる

一平

兄弟が貧乏暮らし仲がいい

整

弱音など吐かぬ夫のいじっぱり

回春子

農を継ぐ俺には退位など出来ぬ

早牛

ありのまま生きて余命を埋めてゆく

千代

ありのまま見せると恋に逃げられる

善平

スピンの私に惚れたのは貴方

凱柳

私のありのままです診断書

節子

ありのまま育った樹齢票と立つ

初恵

青空へ夢ありのまま吸い込まれ

とも湖

ありのままでいたい地球悲鳴あげ

金祥

スッピンを私を見たら腰抜かす

真理子

老い進み居場所とどんく狭くなり

昌鼓

情けない貴方の居場所物置よ

勲章

諭吉の居場所タンスの中で大欠伸

孝二

時期くれば咲いて居場所を知らず花

美津子

天国に私の居場所ありますか

天翔

最高の居場所はここで盗み酒

一瑤

居場所には黄色い布を結んどく

茶人

陽の残る方へ居場所を移しゆく

八千代

地球儀を回して居場所探します

一粹

投句箱兼題ちがえ嗚呼無効

栄子

五年前の約束なんて無効です

振作

無料券いつかいつか期限切れ

幸子

返品無効嫁の親父が目で語り

白兔

無効にはしない夫婦の長い旅

楓花

約束を破って玉手箱無効

みゆき

自叙伝を書けば捕まるかも知れぬ

無限

八尾市民川柳会(大阪) 中園

清報

限りなく透明になる島の旅

涼子

梅雨さなか他人の顔で雨しとど

常男

ノクターン尖る私を包み込む

みどり

先延ばしした借財を踏み倒す

高鷺

いつの間にたどり着いたか古希の坂

清

こぢんまり生きて知足の月明かり

あかり

駅うどん啜る戦士の朝の顔

寿之

繋いだ手ほどくと愛が逃げていく

恵

新緑の森に爽々初夏の風

壽峰

酒癖も品位も貶す金バッチ

紀雄

サヨウナラ五文字に愛憎潜ませて

耀一

出し抜けに妻好物の初鯉  
咀嚼するようにいのちを愛おしむ

ブラザ川柳(大阪) 穂口 正子報

俄雨下駄の素足に雨の粒

不味い飯ずつと我慢の居候

又しても頭痛の種の言いがかり

雨あがり濡れた緑のあざかやき

川柳会己が元気になる場所

なれすぎて言えなくなったありがと

官と業なれ合いが生む天下り

真面目さとずばらが同居い塩梅

皇后がのびのび交わすおもてなし

免許証返しよいよ濡れ落葉

孫たちとそろい浴衣の遠火火

負けて勝つずつとそうして生きた亡父

愛でられてより美しい花になる

ケキヨケキヨを尻目に余裕ホーホケキヨ

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

洗つてもぬぐいとれない罪残る

ナビよりも指図はげしい妻が横

蛭狩り子等にぎやかに橋の下

ゆりかごですやすやすと眠る赤ん坊

オナラする夫とバックする私

アクセルを踏んで地獄の門潜る

ゆらゆらと酔って恋しいひざまくら

洗濯機心の中も丸洗い

欣之 かこ 正子 政夫 和代 求 園子 克三 一彌 千枝子 弘光 悦夫 五月 久美子 清乃

蟹が呼ぶ多国語乱舞戎橋  
キスの場所橋の真ん中決めている

寝惚け面洗い戦士の貌となる

定年後めつちや留守する家内知る

遍路道心を洗う長い坂

無洗米をこまで手抜きしなくても

初七日の花を供える歩道橋

失恋で渡った橋は振り向かぬ

意地悪な橋だ渡ると揺れてくる

G20おもてなしなら粉もんで

丘の上永遠に眠れる家がある

週刊誌三冊読んだ待合室

休肝日心がゆるる生ビール

黄砂には感謝している洗車業

軸足がどつちだったか自問する

前後不覚それでも家に辿り着く

祈るとは心を洗うことだろう

また揺れるシナリオそと書き直す

駅で別れてゆらゆらとして帰る

少しだけ拗ねて愛情確かめる

とっておきの話で晴らす雨の鬱

眼科歯科全科に近い家搜す

魂をぎぶぎぶ洗う五月晴れ

貸ポート揺れて二人を近くする

綾取りの橋を渡って来た少女

はたる川柳同好会(大阪) 水野 黒兎報

はじめての赤い長靴雨を待つ

厚江 柳明 純 修平 紀華 紀恵 真桜子 正彦 芳香 まつお 千賀子 正和 祐康 万彩 健二 修平 ひとみ ヨシエ 耕治 良種 美籠 公子 宏造 かずお ひろ介

天気図を信じて亡妻と待つ螢  
天気よく出かけてみたが熊に逢う

老眼鏡はすせば書けぬアイライン

にらんでも尾をふり小犬ついて来る

子は四人唯一男内弁慶

洗濯機すらも使えぬ妻の留守

まさかの捻挫つたい歩きの日日間

当りくじ引換え期限昨日まで

病み上がりまさか体重理想的

独断でそこまで決めはしないでしょう

ピアスした時代祭のお姫様

この歳で時の流れとせめぎあう

何時までも無茶を続ける星条旗

うっかりでは済まない鍵の紛失

南大阪川柳会 松岡 篤報

〇〇バカと言われるほどの趣味を持ち

儲けにはならない趣味に首つたけ

古本は僕には宝妻はゴミ

趣味の道人格までも磨かれる

人生の節目節目で考える

節目にはいつも欠かさぬ墓参り

年号の節目に凜と吾が国旗

転勤をする度何故か子が産まれ

入院で亭主関白卒業す

疲れたら寝ることにするこれ大事

反り合わぬ二人結んだ赤い糸

そっくり返る総理は見飽きたり

信男 純子 正子 一弥 黒兎 春代 奈津子 順子 久子 則彦 桂子 堅坊 郁子 篤雄 あや子 一歩 たもつ ルイ子 いさお 志華子 東風 篤 勝弘 柳右子 保州

反り返る一強政治不安増す

弓なりになって愛しい人を抱く

のけ反ってそれは見事な斬られ役

黒い雲の向こうはきつと青い空

この先を言ったらきつと恨まれる

誠実な花束きつと恋してる

目標を立てたきつとはまっしぐら

もう寝ようあしたはきつと別の風

流浪雲きつと気儘に流れてる

青空に言うことはなしワンダフル

元カレも今年は奪生きてるか

青くさい意見聞くのも老いの役

ゴルフ相撲仕上げは和風炉端焼き

北海道夫がストーブ焚いたのか

忘れてたヒントボロりと敵に塩

粹に脚組んで夫のソロギター

カレンダーしつかり埋めてはつとする

腐葉土になって明日の命抱く

倉吉川柳会(鳥根)

竹信

照彦報

草ぶきの屋根修復に数億円

將軍を除で支えた草の者

ドクダミは葉草だから捨てられぬ

憂さ晴らし草のように根を持たぬ

ふわふわの羽毛布団に独り寝る

座の湿り軽口とばし風入れる

酒呑めば無口な男も口軽い

前頭葉があるくなつたオバアサン

国和

克己

ひさ乃

楓楽

弘子

柳伸

昌紀

亜成

修

益子

シマ子

和雄

直子

弘委智

ばつは

峰子

郁夫

寝たきりの母は小さく軽かった

振つてみる年金前の空財布

軽々と初夏の風飲む蛭のほり

軽口にのつてあなたと腐れ縁

機嫌良く大漁旗が帰港する

いそいそと買い物楽し孫が来る

いそいそとやってきました子の招き

いそいそとハワイ旅行を申し込む

いそいそと心うきうき旅支度

いそいそと旅の支度は二日前

いそいそと年金枠で旅に出る

お迎えはドンチャカチャンで来てほしい

夫婦げんかどんちゃん騒ぎこぶ二つ

どんちゃんと風穴抜けていく綿毛

何もかも忘れどんちゃん騒ぎたい

枇杷が熟れどんちゃん騒ぎするカラス

行けるなら種を飛ばして忍び草

岸和田川柳会(大阪)

石田ひろ子報

父ちゃんば留守という声奥で聞き

大の字に寝て留守番もいいものだ

留守番の亡父に萩の湯吞買う

留守電に向つて話すかしこまり

ピンボースタッピンなので居留守する

地球儀はほんまに丸いのやろか

公文書受け取りません財務省

なんでまたたつかい兵器買いますか

夫婦とは棒の両はし担ぐもの

茂夫

隆昌

明友

大鯰

麦青

由紀子

玲子

風露

智恵子

祐子

日出子

完司

紀美恵

宣子

けいこ

重忠

照彦

招き猫担いで見ればタヌキなり

人間はもう担がぬと地球言う

風呂敷で荷物担いだ昭和恋う

環境に配慮を欠いた使い捨て

かけ声も聞こえて来そう蟻の列

九条を平気で踏みにじる議員

言い訳は一にも二にも他人の所為

ジャケットの値札取らずに歩いてた

のびきつたパンツのゴムは僕のような

スパーで妻の後からカート押す

泥酔の記憶ないまま二日酔

上席と知らずに座り一時間

墓までは行かんでも良い今の妻

労つてそつと寄りそう老夫婦

担がれて座つた椅子の寒い風

川柳塔さかい(大阪)

内藤

憲彦報

五欲持ち浅瀬で私アツブツ

元氣ですまだ煩惱に溺れてる

新刊の図書に溺れる本の虫

八十路来て葉に溺れ生きている

溺れても浮かんで来ます練習生

一度でいい酒に溺れて浮かれない

夢に溺れて愛に溺れてはや八十路

切ない我が子に刃胸の内

にこにこ幼子になり逝つた母

椿あぶら塗つて叩いて鏡見て

わたくしに誇れるものが一つ無い

恵子

義泰

心

ふさふ

日出夫

康信

洋二

さくら

益子

和美

隆昭

大輔

雲水

珠子

ひろ子

みつこ

和夫

和子

光雄

廣子

舞夢

扶美代

妙子

憲

敏治

さくら

残り香がむずと乳房を締め付ける  
泥んこで駆けて来た子だきゅと抱く

子供らが掴みたくなる星がない  
脳錆びて妻が美人に見えてきた

さびのきいた声に懐メロ蘇る

錆び止めをさして傘寿の風に乗る

海好きで住んだが錆の早い家

錆びぬよう万葉集を読んでいる

コンビニの味庖丁の錆を呼ぶ

廃校のブランコ風が軋ませる

ラブレター封も切らずに返される

空家とも知らずに菊が群れて咲き

無理しなや言うても電話だけの声

摘まんといていたいけな芽を胸痛む

強い酒呷り面影追い払う

子殺しのニュース聞きつつ菜を刻む

老老介護優しさが底をつく

初恋を永久保存しています

何となくごろごろしてて遣る気ない

泣きまいぞこますりながら野心もつ

泣きべそでこめんなさいとやんちゃな子

悩みながら基石打つ音自棄つばい

夏近しゴーヤの蔓は屋根目指す

なんぼやねん極楽行きのヤミ切符

岩美川柳会(鳥取) 山下 節子報

犬掻きですかいい溺れているのです  
人生は浮世の義理が重すぎる

一 瑤 一 粹

蝶ネクタイに似合うちよび髭ほしくなる  
山となる事故の現場の花ジューズ

多数決賛同なくて一人浮く  
泳げないので溺れた人は見ないふり

大陸の黄砂が母の山隠す

ひと山を当てるつもりがすってんでん

土と生きネクタイ様に縁がない

発明に溺れ一生粥を食い

沈んだら浮く人生に希望持つ

弱いんです歯の浮くようなほめ言葉

酒飲めばいい智恵浮かぶお父さん

ネクタイを解いて自分の顔になる

浮き沈みあって人生面白い

麦わら帽子が浮いた青田海

アップアップこむらあがりで溺れそう

知らぬ間に一人浮いてるのに気付く

長柳会(大阪) 辻村 ヒロ報

雨垂れに後押しされる片思い

里帰り愚痴もこぼさず留守居役

奥の手で辻褃合わす利口者

たっぷりと時間あるのに無意欲

土砂降りも嵐も越えて今がある

何時だって金は天下の回りもの

生命線伸びて余裕の無い預金

タンスにはこつこつ貯めたゆとり金

筆筒には毎晩喰る金を持つ

年金に余裕なくした国に喝

幸子 隆彦 三和子

下を向くよりも大空を見る余裕  
流されて丸くなったと川の石

雨を待つ稲作のくに神妙に  
みのむしは家ごとゆれて風まかせ

談合で世間騒がすつむじ風

人生を彩ったのは無駄使い

新緑の若芽にも似て園児達

二の腕のたるみ細めるゆとり袖

連弾で孫と咲かせるチューリップ

新年が二度あったよない令和

雨が好き真珠だったらもつと好き

AIでも計算はムリ恋の道

窮しても笑って見せる子らの前

新芽のような園児の事故のいたまし

今の事慣れて覚えて又忘れ

みごとになり慣れた手つきの板場さん

馬耳東風慣れてしまった妻の愚痴

主役の座慣れてしまった赤いバラ

窓ぎわも慣れてしまえば良い居場所

新人も敬語身につき初夏の風

習うより慣れろと教え逝った父

薄味に慣れて夕焼け赤トンボ

加齢だと医者に言われることも慣れ

西宮北口川柳会(兵庫) 藤井 宏造報

一服のお茶をひと日の安らぎに

あせらない僕には僕にある歩幅

あじさいもわたしも今を確と咲く

紀華 千賀子 いわゑ

ワインよりきつねうどの好きな妻  
術後五年捨てるに惜しい千羽鶴  
境界に挑んだ汗は黒光り  
青春を曝す覚悟の一行詩

武彦  
武臣  
美津子  
弘委智

道なりを辿れば出合う虹の橋

弘子

爆音のバイクがチャラにしたムード

恭子

スカートにも鯉のぼりにも初夏の風

和宏

おはようと笑顔で言えるいいムード

敦子

ヨチヨチが歩きスマホの前にいる

利子

この人を通して見てるあの人を

宣子

いつまでも君は青くてまっすぐで

ひとみ

パッシング危うく気付くネズミ取り

新録

活断層から日本列島逃げられぬ

宏造

もう三日会話のない日続いている

光久

官僚の現場知らずが描くプラン

盛夫

危ういねスマホどつぶり子の未来

順子

二枚目の舌で転がす美辞麗句

哲子

丸山君だけではないと思います

勝弘

ムード音楽流れて来ても老い二人

浩司

よろず屋をコンビニと言うおらが村

真桜子

酒二合舌のもつれが解けてゆく

堅坊

舌五枚見せて閻魔も舌を巻き

野鶴

三歳がお邪魔しますに舌巻いた

みよし

舌切りの雀はいやと襟正す

正彦

一枚の舌が上手に裏返る

洋次郎

野良帰りを照らすコンビニの明かり

迪

起業せよと尻たたかれて立つ息子

忠夫

毒舌を夫婦聞き合いそれで済み

邦男

出世するやつは何かを持っている  
トイレ借りタダじゃ悪いと道を聞く  
靖夫

### 六甲川柳会(兵庫) 奥澤洋次郎報

断捨離の決意をくじくセール品

妙子

ハングリーをバナにしていた昭和の子

芳江

貴女なら百万本の薔薇の価値

和宏

万葉集令和の典拠ページ繰る

美恵子

賑やかに誘い合わせて行こう極楽

洋次郎

花火より君の横顔に見惚れる

博史

大家族トイレ戦争下克上

憲三

決意するいつまでつづくこの川柳

邦子

犬散歩我が家の前はトイレかな

忠志

ひーふーみー花卉の数に掛ける恋

和郎

誘いにはめっぽう弱い血が流る

正彦

テーブルのバラ一輪の一人言

弘華

知らない町人との出会い旅はいい

盛夫

下り坂見えなかったもの見えて来て

美穂

妻の感あれそれこれを言い当てる

敏夫

和式ですほんによろしいスクワット

美津子

子らの愛で早や草木空にのび

弘

あの角に涙を誘う白い花

廣光

森の道奥においでとスミレ草

恭三

これからは自分大事に生きていく

利子

どうしても手に入れたくて誘い水

光久

人間が好きで句会の末席へ

武彦

ちっちゃな花雑草なんて呼ばせない

道弘

なかなかできぬ免許返納肝日

勝弘

こぼし咲く枝に決意の糸からめ  
ライバルに花を持たせて次狙う  
義博  
日呂志

折り合えず皇帝タリヤひとりぼち

千賀子

花咲かす迄は戻らん靴をはく

浩司

勇退と花束受けて天下る

義博

### 川柳藤井寺(大阪) 太田扶美代報

青空に万歳リハビリの一步

ゆみ子

あと一步脚の長さで大違い

六点

注文が押しつけなのか戦闘機

一步

止まり木で聞いたギターをリクエスト

瑠美子

リクエスト聞きたい亡母の子守うた

喜代子

逝く前にタバコ一服頼みます

まつお

怒ってるあなたに笑顔リクエスト

育代

ライバルが譲ってくれたあの一步

ばつは

あと一步引き返すのもまた勇氣

信二

終章へ刻む一步が掴めない

フジ子

土砂投入一步も引かぬ安倍政治

紀雄

薫る風リクエストするスニーカー

寂子

ジビエに地酒ゆめり山家の麻のれん

みつこ

プロボースタイプでない素っ気ない

シルク

クレオパトラの鼻にシーザー麻痺をする

一文

戦争をしない地球をリクエスト

正義

さらさらと流れて麻薬の鬼となる

弥生

リクエストなくともシメはマイウエイ

俊雄

いい役者だったが大麻やっていたか

いさお

特注の麻の赤ふん締めてきた

光男

リクエスト叶って違う風が吹く

キー

リクエストしても人生一度だけ  
控えめのメイクに麻がマツチする

清 扶美代

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

歩一枚と金となつて大暴れ

清

じりじりと魚影の消える瀬戸の海

みつ江

寝不足は女性にとつて天敵だ

珠子

天国へ続く道なら歩こうか

博美

飾るのですか使うのですかF35

多代美

じりじりと組んず解れつ焼けるイカ

ひろ介

共闘だ民の天敵鬼退治

九条男

誰からも付度受けず歩で通す

紀雄

ブレーキを一秒遅れ自主返納

敏子

身の丈に合つた歩幅で無理しない

敏子

私なら辞めていただく麻生さん

高鷺

長い路辿りやがては核のゼロ

高鷺

空母化の「かが」でトランプ上機嫌

純甲

失政を怒る野党の無為無策

壽峰

地球から見れば人間は天敵

ひろこ

人は人の数だけ歩みあり

時夫

はからずも敵はわが身の老いの影

哲夫

信号ない裏道歩くやせ蛙

たもつ

おこつたらあかんあかと子に云われ

ばっは

天敵が死に張合いが無くなつた

いさお

基敵にもう十年も勝ててない

穂夫

ゴキブリの天敵ずつとスリッパだ

直子

怒らなくなつたらお迎えも近い

浩子

怒る時怒らないから舐められる

ダン吉

怒っている顔は笑っているけれど  
堺市長射止めた維新都構想

茶助 和男

人間が出来ているから怒らない

克己

天敵が逝つたその夜の一人酒

常男

でんでん太鼓読んで聖子さん悼む

一步

馬鹿にすな年金削り戦闘機

万作

魑魅魍魎脅し変節都構想

太郎

ふるりの遠い記憶の発車ベル

満知子

酒の上の話にするな北の島

一志

麻生さんに二千万などお小遣い

(立)信子

母子手帳親の資格の欄がある

里子

川柳花の輪(大阪)

岡本

薫報

我が子待つ拉致被害者の半世紀

正太郎

マスクミが作る人気に落とし穴

信子

双方に違いあるけどまづ乗ろう

笑子

人気出ず一発芸で舞台去り

泰子

過疎の村三ツ子生まれて大人気

みちる

バスに乗るあなたの笑顔会いたくて

やすの

口車に乗ってピンボウくじを引く

薫

川柳ねやがわ(大阪)

籠島

恵子報

ばらばらに散つてもまた会う年賀状

博泉

同メニュー夫は下痢し妻便秘

尚世

涙に濡れたページ吊るしてる古日記

寿子

止まり木の隣を空けて待つ貴女

博

この指に止まった妻に感謝状

和織

父の日に五百羅漢の亡父に会う

麗

どのページ繰つても和む妻と居る  
風化させず時の止まっているドーム

仁 賢子

ばらばらに散つて踏まれるバラの花

かすみ

バイキング残す分まで持つて来る

高志

両の手に花持ちながらまだ欲しい

朝子

茄子の花胡瓜の花に止まる蝶

ルイ子

難しい話になって正座する顔

弘一

難しい問題解いてしたり顔

さち子

団扇持ち舟こぐ母の丸い背な

信子

らちもなく蹴りたい石が光ってる

茜

睦まじい家族ばらばらした戦禍

堅坊

ナシヨナリズム世界の国がばらばらに

郁夫

ばらばらへ絆を結ぶ母の骨

修

運命線だけは天まで伸びている

弘委智

止めたのか止められたのか大あくび

薫

ばらばらの祈りに神ものが笑い

壽峰

艱難に耐えて人生八十路坂

高鷺

借用証生きた証しの置土産

恵子

思い出の色には麦秋を入れる

柳歩報

川柳塔まつえ吟社(島根)相見

柳歩報

ヘクトパスカルぎゅうっと空に浮かぶシミ

芳山

辞書のシミ亡父が残した指の跡

桂子

シミついた自己流で行く最終章

禮子

顔にシミお天道様のイタズラか

輝山

シミのないソッペラ坊は遊び人

久絵

うっかりと寄ればアザミの凄いとゲ

知恵子

すごいなあ小学生で囲碁のプロ

瑞人



板一枚下は多喜二の海である

誕生祝現ナマイいと来るメール

アクティブなお金だ羽も足もある

グリーンさんあなたの欲はそこなしね

令和の世デビューのお金魅力的

愛がなくお金ばかりがあつてもね

回つてはすが来ないよ金と暇

樽詰めの自慢話が熟成す

器用だが自慢のできるものが無い

自慢げに話す友の手踊っている

大風呂敷漬け物石をのせてやる

口に出る痛いいたい自慢かも

アンダーライン引いて私を立て直す

横枝を切ったつもりが心の枝

横からの助言うれしい助け舟

横穴に追い込んだのはセピア本

### きやらぼく川柳会(鳥取)後藤

#### 宏之報

木々の芽がしつかりみどり抱いて立つ

生き恥を楽ししみ令和ぶらり旅

せっかちな夏に服まで迷つてる

その話乗ってみたいがチトやばい

春だなあ新芽の匂い深呼吸

休止符もあつてリズムを崩さない

人生はなるようになるがんばろう

さつき晴れ新緑招く伯耆富士

日野川の白鷺のようにレジ袋

太陽が沈んだ散歩また明日

美智子

弘充

德利

朋子

米估

柳歩

哲子

草庵

青帆

豊仙

雪代

邦代

寿代

あきら

左余

とも子

恵子

紀の治

多美子

汪

治代

千代

登実枝

ゆたか

瑞枝

宏之

何故だろううちに来た苗萎縮する

堂々と生きた証の深い皺

時計描く練習をして妻出かけ

田植え機が早乙女苦勞身に替えて

生きているのだ十年越えてこの手足

令和さま幸福多き日々であれ

目が悪くてもどこまでもよくあるく

自慢など無いが堂々歩いている

### 川柳さんだ(兵庫)

村田

誰だつて死んだらみんな白い灰

結末は顔じゃなかった蒼井優

懸命にやるべきことのある至福

結末が分からないから生きられる

結末はやはり諭吉がものを言う

結末はどうあれ努力惜しまない

二刀流オオタニさんへ大拍手

モミジの手たたく傍にはババとママ

世界遺産決まった拍手地域の輪

やつかみも混ざった惜しみない拍手

拍手など浴びず一途に生きた母

白寿への計は令和に拍手され

世が変わる白内障の手術後

命日の夢にくつきり母の顔

乗り越えた苦勞の証顔の皺

令和元年空にくつきり日章旗

憲法九条一途左右折許さない

四度目は駄目よと仏念を押す

美穂

久直

雨奇

美佐子

美智子

菜々

美草

日枝子

### 博報

花門

利尚

迪

廣光

優子

美籠

正和

えい子

厚子

千代美

ゆかり

哲夫

寅男

雅尚

義徳

雄太郎

ひろ介

紀恵

通じ合う喜び海も凪いで来る

ベッピンの子報士はずれても許す

物忘れ許しわが身の老いを知る

つまみ食い爺ちゃんの口拭いてやり

朝帰り叱らぬ妻が怖くなる

勘当の息子に残す遺産分け

こっそりとサボートをする子の苦境

この句会ボツが支える入選句

お互いに持ちつ持たれつ隣組

雑魚たちが支えてくれる日本国

アリガトウ助けてくれるアリガトウ

支えあう人という字にある重み

一度でいい数えてみたい2000万

戦争とチャラい議員が口火切る

これが最後と百万くれた妻

信用をして下さいと茄子の花

あれとそれ言い合い恙ない暮し

### 豊中もくせい川柳会(大阪)初代

正彦報

やがて散る花へも一度水を替え

人の世の迷路にはまりあがいてる

いただきますが揃うと喋り出すお箸

恋疲れやがて消え入る螢の灯

自尊心だけは崩さぬ道理ゆく

遊園地いつも放送迷子あり

にわか雨ケンカ相手と二人傘

真面目よりちよつと崩れていい男

崩すまい忍の字あればこの家族

ヨシエ

万彩

一子

美智子

好文

加代子

修平

祐康

つな子

宏造

ひとみ

周三

喜弘

健二

勝弘

恭子

哲男

求芽

英旺

公子

歌留多

時子

多美子

英三

健二

多津子

どこまでを聞かえたことにしておこう  
 乾杯すればみんな味方である気分(永)玲  
 子の羨実家に帰りに崩される  
 不協和音漂っている永田町  
 花咲いてやがてわたしを越えてゆく  
 百円の協力金で善を積む  
 六月でもう負けました庭の草  
 触れ太鼓胸がときめく大相撲  
 千円のトンカツ食べた年金日  
 土に還りあなたの好きな花咲かす(岩)玲  
 厄介もやがては去るときまかせ  
 心の迷子老いは自分を見失う  
 やがてやがて寂しい旅のプロローグ  
 うっかりと話を振ればくどい説  
 まだ背伸びしたいと思う八十路坂  
 これしきと思う梅酒に酔いつぶれ  
 身も心も強い人ほど強がらぬ  
 雨天決行蛙の野外コンサート  
 進みすぎた便利のしかかる不安  
 やがてを掴むみどり児の大欠伸  
 三叉路に左右を迷いはや傘寿  
 やがてとは今を励ます強壮剤  
 化粧くずれ魔法使いのおばあさん  
 爺ちゃんと梅雨を楽しむジャンプ傘  
 妥協するかたちで椿落ちました  
 くらり

翠 洋 会(大阪) 大久保眞澄報

吉相と信じ続けて運掴む 敬子

ライバルと思った相手雲の上  
 老人は話し相手を捜す日々  
 墨染めの衣きりに憧れる  
 生き残りかけて僧侶の低い腰  
 カラオケで鍛えた経の名調子  
 静静と僧侶の読経迷い消す  
 お経より儲け得意の和尚増え  
 植家減り二足のわらじ履く僧侶  
 にんげんに疲れ仏門にこもる  
 どしや降りも魔屋守る鬼瓦  
 緊急情報濡れた手のまま見入ってる  
 見て見ぬふりが出来たら大人です  
 すいすいと初夏の風受けベダル踏む  
 仏頂面の男コチョコチョコしてやろう  
 言いわけにお腹いたいを覚えた子  
 給なめて老いを労る日々となす  
 何色にも染まる素直な白である  
 心眼の衰え敵は我にあり  
 誠実に生きて無冠の父の背な  
 大谷のサイクルヒット素晴らしい  
 迷い猫行き先示す月明かり  
 十人十色みんないい味持ってる  
 ライバルが片道切符次俺か  
 免許返納してねと孫に頼まれる  
 オリジナルピクに間に合ってほし璃花子さん  
 楓 楽

岸和田川柳会(大阪)(前月分)石田ひろ子報

対決を見たいアトムとガッチャマン 義泰

コスプレしヒーローの目で返事する  
 漫画キャラ孫に描いてウケ狙う  
 社長室で密かに漫画読む社長  
 アンパンマン静かに燃ゆる春の星  
 鼻の下伸ばして飾るその元氣  
 装飾品つけすぎててもやばった  
 冷静になって虚飾と縁を切る  
 行列で飾るラーメン店がある  
 飾らない人は心も美しい  
 養殖の鮎だスイカの香らない  
 切れ端を浮かべて今日は松風呂  
 人生の重さかさねて夜行バス  
 パンを焼く香りにお腹から目覚め  
 果実酒が香る切子グラス笑う  
 万葉語並べて見ても句に成らず  
 父の日にバラを送ってくる娘  
 湯気ふわりエンドウご飯初夏の風  
 さわやかに気配り出来る母恩ぶ  
 肘鉄で胸のしこりが花と散る  
 高嶺の花は今もさわやか  
 さわやかな弁舌人は軽いなあ  
 出番なしベンチ暖めチャンス待つ  
 一位指名今日もベンチを温める  
 二人連れベンチの間合で解る仲  
 読書好き春のベンチは昼寝付き  
 公園のベンチいつでも人を恋う  
 ベンチでも約束果たせまいまんま  
 夕暮れのベンチ詩人にくれる

雲水 きよし 隆昭 白水 益子 大輔 信子 日出夫 喜代志 律雄 和子 みつ江 ふさゑ 洋二 和美 恵子 晶子 信二 英夫 ダン吉 康信 和宏 多喜子 規子 秀夫 珠子 ひろ子



| 句 会 名                  | 日 時 と 題                                            | 会 場 と 投 句 先                                                                                         |
|------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 川 柳<br>ねやがわ            | 18日(日) 13時締切<br>負ける・やりくり・厳しい<br>自由吟                | 寝屋川市 産業会館<br>〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉                                                              |
| 八尾市民<br>川 柳 会          | 18日(日) 13時締切<br>第66回八尾市民川柳大会<br>詳細は川柳塔6月号118ページ参照  | 八尾文化会館 プリズムホール5F レセプションホール<br>近鉄「八尾」駅下車 徒歩5分<br>〒581-0083 八尾市永畑町2-1-7 土田欣之                          |
| 川 柳<br>藤 井 寺           | 18日(日) 14時締切<br>風鈴・シャイ・席題 共選                       | 藤井寺市生涯学習センター・シュラホール 3F<br>近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分<br>〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお                  |
| 川 柳 塔<br>わかやま<br>吟 社   | 18日(日) 14時10分締切<br>兼題=年ごろ・人混み・強気<br>課題吟=ながら(助詞)    | 和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36<br>兼 題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか<br>課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 楽原道夫     |
| 豊 中<br>もくせい<br>川 柳 会   | 19日(月) 13時50分締切<br>危険・抜く・のんびり<br>自由吟               | 豊中市立中央公民館 3F<br>阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分<br>〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦                                        |
| 川 柳<br>さ ん だ           | 20日(火) 13時30分締切<br>宝物・夜空・デビュー・沈む<br>自由吟            | キッピーモール (JR三田駅前)<br>〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康                                                   |
| 川 柳 塔<br>すみよし          | 24日(土) 14時15分締切<br>杖・破る・チャンス                       | 住吉区民センター2階 集会室4<br>〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404<br>森松まつお                                            |
| 和 歌 山<br>三 幸 柳 会       | 24日(土) 13時15分締切<br>仏・北・南                           | 和歌山商工会議所 4階 第3会議室<br>〒640-8570 ニュース和歌山編集部<br>「和歌山三幸川柳会」宛                                            |
| 川 柳 塔<br>みちのく          | 24日(土) 17時締切<br>茶・続く・鏡                             | 弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」TEL0172-32-2591<br>〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局<br>稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605 |
| はびきの<br>市 民 会<br>川 柳 会 | 25日(日) 14時締切<br>投・体型・ボックス                          | 陵南の森公民館<br>近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北東へ徒歩10分<br>〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ                                 |
| 川 柳<br>ふうもん<br>吟 社     | 25日(日) 13時締切<br>自由吟・豊か・勝手<br>うっかり・席題               | 県民ふれあい会館 4階(生涯学習センター)<br>鳥取市扇町21<br>〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金洋                                    |
| 南 大 阪<br>川 柳 会         | 26日(月) 18時30分締切<br>忘れ物・演じる・ほっこり<br>したくないこと(読み込み不可) | 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室<br>メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口<br>〒540-0004 大阪市中央区玉造1-16-13-304 前たもつ               |
| 京 都<br>塔 の 会           | 26日(月) 14時締切<br>スパイス・跡・ばれる                         | ハートピア京都 京都市中京区烏丸九丸太町<br>地下鉄「丸太町」駅⑤出口すぐ<br>〒607-8231 京都市山科区勤修寺堂田70-16 榎本宏子                           |
| 川 柳<br>たちばな            | 休 会                                                | 立花公民館(尼崎市塚口町3-39-7)<br>阪急塚口駅北へ10分<br>〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造                                   |

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所 (06-6779-3490) へご連絡ください。

# 8 月 各 地 句 会 案 内

(開催日順)

| 句 会 名                  | 日 時 と 題                             | 会 場 と 投 句 先                                                                       |
|------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 川 柳 塔<br>な ら           | 1 日(木) 14時締切<br>ジंकス・たっぷり・地味        | 奈良市立中部公民館 4F 奈良市上三条23-4<br>近鉄「奈良」駅④番出口 徒歩5分<br>〒633-0054 桜井市阿部787 安土理恵            |
| 城 北 会<br>川 柳 会         | 3 日(土) 14時締切<br>うかうか・目撃・珍しい<br>自由吟  | 旭区老人福祉センター 3F<br>地下鉄谷町線「千林大宮」駅③番出口<br>〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘              |
| 川 柳<br>とんだばやし<br>富 柳 会 | 3 日(土) 14時締切<br>熱・分別・自由吟            | 富田林市立中央公民館<br>近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m<br>〒584-0064 富田林市不動ヶ丘8-31 山野寿之               |
| 倉 吉 会<br>川 柳 会         | 3 日(土) 14時締切<br>ふわふわ・跨ぐ・ちょっと<br>席題  | 倉吉市明倫公民館<br>〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17<br>谷口次男                                 |
| 川 柳 塔<br>ま つ え<br>吟 社  | 3 日(土) 13時30分締切<br>機能・胸・草・底         | 松江雑賀公民館<br>〒690-1223 松江市美保岡町笠浦222-1 相見柳歩                                          |
| 川 柳 塔<br>さ か い         | 6 日(水) 14時締切(第一週)<br>罪・深い・折句・ふくい    | 東洋ビルディング 4F<br>堺駅北西改札口から2分<br>〒599-8103 堺市東区菩提町5-171 矢倉五月                         |
| あかつき<br>川 柳 会          | 9 日(金) 14時締切<br>平和・おそらく・裏・時事吟       | 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F)<br>地下鉄「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ)<br>〒581-0014 八尾市中田2-312 前田紀雄 |
| 川柳大阪                   | 10日(土) 14時締切<br>高い・月・伸びる            | 地下鉄・長堀鶴見緑地線 京橋駅「研修室」<br>〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6 山崎珠生                           |
| 六 甲<br>川 柳 会           | 10日(土) 14時締切<br>もしかして・意外・ふく・自由吟     | 六甲道勤労市民センター 5階 E室<br>JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内<br>〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏           |
| 川 柳 塔<br>打 吹           | 10日(土) 13時30分締切<br>水着・隠れる・さわやか・席題   | 倉吉市上灘町9 上灘公民館<br>〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方<br>川柳塔打吹 事務局                         |
| 西宮北口<br>川 柳 会          | 12日(月) 14時締切<br>せつない・蹴る・しげしげ<br>自由吟 | 西宮市立中央公民館 6階 講堂<br>阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにのみや」<br>〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫  |
| ほたる<br>川 柳<br>同 好 会    | 13日(火) 13時30分締切<br>板・渡る・だんだん        | 豊中市立蛭池公民館<br>阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F<br>〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎                   |
| 川 柳<br>あまがさき           | 13日(火) 14時締切<br>叫ぶ・欲・こっそり・自由吟       | 尼崎市女性センター・テレビエ 2階<br>阪急武庫之荘駅南へ5分<br>〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造                  |
| 岸 和 田<br>川 柳 会         | 17日(土) 14時締切<br>姿・休む・やっぱり・ナツメロ      | 岸和田市立福祉総合センター<br>南海電鉄「岸和田」駅東へ5分<br>〒596-0076 岸和田市野田町2-33-19 中岡香代                  |



# 川柳塔WEB句会

兼題「何 か」

\*平抜きは到着順

\*webサイトと内容に齟齬がある場合、webサイトが正

6月例会入選句

投句数378句(192名)なかはられいこ 川上大輪 共選

## なかはられいこ 選

何かする何かしたいと日が暮れる  
AIが何の略かが分からない  
人生の匂いってのは何だろう  
葬儀屋の何かわからぬ手数料  
うなずく時の何かわたしと違う音  
何かと問えば何かと返事する木霊  
何か食べておいてという置き手紙  
無理やりに言葉にしたく無い な.に.か.  
ポケットの拳の中にある何か  
疑問符がボロリボロリと頭蓋骨  
おととと何か私に引っかかる  
サックスの何かざわざわさせる音  
袋から何か這い出し宙に浮く  
何しても何かしこりが残る梅雨  
欲しいもの何もないので独り居る  
懐かしい何かに呼ばれ土を掘る  
何か怒って何か食べてる母がいた  
胸に棲む何かに操られている  
わたくしは何かと問うて喜寿となる  
二丁目で何かを待っている夕日  
もあもあに手足を付けるまで何か  
兵馬俑何が言いたい顔連ね  
何かないかと覗かれる冷蔵庫  
青空へ何か言いたいのはわかる  
何見てもビールグラスの梅雨の月  
何かしら品切れのある美容室  
何かあるときに限って来る用事  
ずっしりと重いが正体は不明  
ちょこまかと何かやらかすおじいちゃん  
何か零れて何か溢れて待ち時間  
何があったのだろうページが飛んでいる  
雲梯の途中何かに握られる  
佳5 何か何かといっているうちに老後  
佳4 何や知らんけどとおばちゃんの噂  
佳3 目の前に過去には何かだったもの  
佳2 えびせんに仕掛けられている何か  
佳1 散るたびに何かを捨てている桜  
人 手話の指ゆるく何から伝えよう  
地 くだくたにされて何だかズッキーニ  
天 Wi-Fiと青いもの何かください

渡辺 勇三  
佐藤 彰宏  
白瀬 白洞  
原 洋志  
米山明日歌  
梶谷 和郎  
菊池 文徳  
まつもととこ  
平井美智子  
山田こいし  
青砥たかこ  
安藤 なみ  
甘酢あんかけ  
小俵 鮎太  
樋口 眞  
四ツ屋いずみ  
昌 紀  
居谷真理子  
すずき善作  
乙川 初音  
斉尾くにこ  
寺川 弘一  
西山 竹里  
柴田比呂志  
慈 雨  
芍 葉  
松長 一步  
颯 爽  
高橋千賀子  
真島久美子  
柳田かおる  
斎藤 秀雄  
松島 勇象  
山本 進  
三好 光明  
ナッツ池本  
冬 子  
青砥 和子  
岸井ふさお  
伶

## 川上 大輪 選

また今日も何か忘れてる私 やんちゃん  
ふかくてくらいかわ妻が又泣いた 板谷 達彦  
ポケットをたたけば増えていく何か 龍  
今朝もまた何か忘れて動き出す かきくけ子  
目が覚めて何か決まった会議室 かきくけ子  
満たされた分だけ何か無くす羽目 雨 徑  
鳩尾の何かがボクを走らせる 武本 碧  
何かある 金庫開ければ錆びた過去 汐海 岬  
何かが足りないすべてが足りない 横山閔治郎  
龍安寺何か落ちてる石の下 数 男  
何や知らんけどとおばちゃんの噂 山本 進  
海苔弁は普通盛りですけど何か 森下 博史  
もう止そう何かと金がいるばかり 穂口 正子  
生きている何か足りない穴の中 むらのひとり  
何か食べておいてという置き手紙 菊池 文徳  
何かあるそう思わせる語り口 荻 人  
丸い月なのに何かが足りぬまま 平井美智子  
ダイエット何か食べたいときは寝る こ み ち  
この顔に何か文句がありますか 塚山 繁  
そのトーン秘密が何かありますね 松嶋由美子  
二丁目で何かを待っている夕日 乙川 初音  
見ても嗅いでも食べても何かわからない 橋倉久美子  
もあもあに手足を付けるまで何か 斉尾くにこ  
一歳児何かしゃべってくれている 西上 遊二  
正座して何かが崩れはじめる日 芍 葉  
何かまだ出来るかと主張する十指 伊藤 良一  
黄身返しですが不都合ありますか 美 春  
では何ができるのだろう下を向く 美馬りゅうこ  
追いつめてしまったワタクシの何か 真島久美子  
ぼーっとしていますのでお構いなく ま み どり  
午後五時のわたし何かが嘘っぽい 河野 潤々  
もがいてもがいて何かが見えてきた 柳田かおる  
佳5 何か言いたいことのある冷蔵庫 松島 勇象  
佳4 何でかアタマイのにウソをつく 佐藤 彰宏  
佳3 何かしら追いかけられているゆとり 渡辺 勇三  
佳2 釣り糸は何かあるまで垂れておく 莊子 隆  
佳1 伝書鳩来て朝礼に何か言う 斎藤 秀雄  
人 何か何かといっているうちに老後 松島 勇象  
地 補助輪はまだつけていますが何か 吉田くみこ  
天 あの世よりこの世が何かいい感じ 春川 秋男

投句方法 【川柳塔】を検索→【川柳塔 WEB 句会】をクリック

senryutou.net

(サイト管理 森山文切)

# 柳界展望

## 新同人紹介

大西重男

哲男・親民推薦

近兼敦子

完司・光久・朱夏・千代推薦

久保木

剛

哲男・親民推薦

長谷川善輔

哲男・親民推薦

★「第9回高田寄生木賞」発表。

高田寄生木賞

「古代ギリシャ柳人パチョビスコス」一イン

ターネットによる川柳の普及―

★「第7回卑弥呼の里誌上川柳大会」同人成績。

特選 谷口 義

特選 モンローはリアルおばあさんもありアル

特選 高瀬 霜石

特選 ともだちが倒れたばかりは傾いた

特選 平井美智子

★「第20回生駒市民川柳大会」は、6月15日生駒市コミュニティセンターで167の参加で開催。同人成績。

秀句 居谷真理子

累々の死から九条戴いた

★西出楓楽さん(相談役・大阪市)は6月9日付山陽新聞読者文芸70年に寄せて「生涯命ある句」心に銘じ」と題して寄稿

した。

★藤井智史さん(同人・笠岡市)は6月9日付山陽新聞で「秘めた感情凝縮して」と題して紹介された。

▽出版 △

○6月15日、豊中もくせ川柳会が、合同句集Ⅳ「もくせい」発行。A6判P175。

○藤井智史リパシブル句集「ボジティブ!」ove&Matoh M

king)。新葉館出版電子書籍版 定価800円+税。

▽訂正とお詫び △

○7月号P10上段後ろから3行目。徳則!徳利。

▽新誌友紹介△

紀の川市 三枝眞智子

御坊市 木本 朱夏

西宮市 池口はる美

紹介者 木本 朱夏

小田原市 久保田千代

紹介者 栗田 奏二

常任理事会 7月5日

出席21名①二賞選考委員

補充最終報告②「第8回

春の誌上大会」選者・兼

## しまね文芸フェスタ2019 島根県川柳大会

★しまね文芸フェスタ  
日 時 9月15日(日) 受付 9時30分～  
会場 島根県民会館 中ホール  
開演 10:30～12:00  
講師 小島 蘭幸氏 「私と川柳」  
★島根県川柳大会  
時 間 13:00～16:30  
出句締切 13:15分 開会 14:00  
参加費 1500円  
欠席投句 1000円  
投句締切 8月20日必着  
投句先 〒690-0866 松江市下佐陀町336-1 松尾 芳恵 宛

兼題と選者 (各題2句)  
「若き いる」 藤井 寿代 選  
「生 くる」 荒木 ひとみ 選  
「歴 史」 石橋 芳山 選  
「元 氣」 金 南学 選  
「い よいよ」 竹治 かし 選  
「顔 顔」 牧野 芳光 選  
島根県川柳連盟 主催

残暑お見舞い申し上げます

45周年記念大会ではご協力頂き有り難うございました。

# 西宮北口川柳会

例会 毎月第2月曜日 午後1時 西宮市立中央公民館

(阪急電鉄神戸線西宮北口下車 南出口徒歩3分)

プレラにしのみや6F

投句先 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫

○

北北筧川河亀片金加奥大大緒奥榎江延梅上上上上市足秋青  
島川 人合岡山川川澤矢坪方田 谷庵澤山原田田坪立元木

邦美靖良敏哲 宣靖洋 一美み忠勝野盛堅 ひ和武つて公  
男香夫種夫子忠子鬼郎伸徳子子夫弘靄夫坊翔み宏臣子る輔

西西長難七長中長富富都寺近竹鈴神相佐酒酒小黒小蔵久清  
島口島波田浜西野山永倉柚兼山木野馬藤田井林田山田田

とい敏伯順美豊峰ル恭求富敦千新千佐健浩紀わ能紀光千弘  
こゑ子備子籠子明子子芽次子子録子子彦司華こ子乃子代子

両山山山山山山山矢村宮み丸松前堀福藤藤藤藤福能野  
川田田崎口口口内野上本わ山井川 田原本岡井島勢口

無昭耕武ヨ光弘 野氷喜は一文千正正み り宏弘利真  
限朗治彦エ久智迪薫筆明な之香子和彦し直こ造子子子

# 残暑お見舞い申し上げます

## 川柳とんだばやし 富 柳 会

|   |   |    |   |   |   |   |   |   |   |   |    |
|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 都 | 土 | 田  | 田 | 関 | 鈴 | 沢 | 久 | 井 | 池 | 穂 | 秋  |
| 筑 | 田 | 中  | 嶋 |   | 木 | 田 | 世 | 澤 |   | 山 | 田  |
| 文 | 欣 |    | 伸 | よ | か | 和 | 高 | 壽 | 森 | 常 | あ  |
| 重 | 之 | 新  | 雄 | し | こ | 子 | 鷺 | 峰 | 子 | 男 | かり |
|   | 山 | 森  | 松 | 松 | 藤 | 福 | 肥 | 林 | 中 | 中 | 栃  |
| 他 | 野 | 下  | 本 | 谷 | 田 | 元 | 山 |   | 村 | 蘭 | 尾  |
| 一 | 寿 | より | 正 | 由 | 武 | 田 | 一 | 澄 |   |   | 奏  |
| 同 | 之 | こ  | 治 | 夏 | 人 | 鶴 | 文 | 子 | 恵 | 清 | 子  |

### 番傘川柳本社8月句会

#### 55回水府忌 田辺聖子をしのぶ会

日 時 8月6日(火) 受付 17時30分  
会 場 たかつガーデン  
TEL 06-6768-3911  
近鉄大阪上本町駅11番出口または地下鉄谷町線9丁目下車

締 切 (席題なし) 18時30分

お 話 「芝居の心は五七五」

墨崎 洋介

「田辺聖子をしのぶ」

森中恵美子

宿 題 「出 会 い」 藤井満洲夫 選  
「奥 の 手」 片岡 加代 選  
「オ ー ラ」 足立 淑子 選  
「スポーツ」 鈴木いさお 選  
「解 く」 田中 新一 選

会 費 1,000円

お問合せ 番傘川柳本社

TEL 06-6361-2455

### 第33回 堺市民芸術川柳大会

と き 9月8日(日) 11時開場

(昼食は済ませてご出席ください)

ところ 堺市立榎文化会館3階第1講座室  
(泉北高速鉄道 榎・美木多駅より3分)

宿 題 (席題なし・各題2句・出句締切 12時)

「アバウト」 南野 勝彦 選

「懲 り る」 柴田 桂子 選

「自画自賛」 くんじろう 選

(詠み込み不可)

「正 体」 中岡千代美 選

「知 る」 澤井 敏治 選

「憎 い」 西出 楓楽 選

参加料 1000円 欠席投句拝辞

連絡先 〒590-0018

堺市堺区今池町6丁目6-15-602

岩田 明子 宛

TEL 072-221-5296

主 催 堺市文化団体連絡協議会・堺川柳協会

★ 万一、災害等で交通機関が止まった場合は、中止と致します。

「開港150周年—みなとまちロマン新潟で川柳の祭典」

- 115 —



# 編集後記

★向日葵も国衰えて花小  
さし 薫風

★手元に一枚の写真がある。田辺聖子先生を真ん中に仲川幸男・東野大八・橋高薫風諸先生方に交じって私。撮影してくださったのは今は亡き川柳塔わかやまの牛尾緑郎さん。仲川幸男先生は当時参議院議員だった。

★田辺聖子先生には2度お目にかかった。最初は番傘主幹だった磯野いさむさんのお祝いの会であった。川柳大会が終わって懇親宴の時に聖子先生から「一句抜けてましたなあ、ええお子や」とお褒め頂いた。(私は50代であつた)。句会の前にご挨拶をした私の名前をちゃんと覚えていてくださったのだ。若竹色に金糸銀糸の縫いとりのある帯でつくられたジャケットをお召しだった。

★二度目はリーガロイヤルホテルでの薫風先生のお祝いの会だったか。黒地に金と赤の絢爛豪華な刺繍のジャケットに口

ジャグスカートの。どちらの袋帯で眺めたとお聞きした。華やかな衣装は笑顔の美しい聖子先生によくお似合いだった。

★令和元年6月6日、作家田辺聖子さんが逝去された。享年91。こよなく

川柳を愛された聖子さんを喪った空白をどう埋めればいいのか。年齢とともに写真を撮ることが好きでなくなったが、この一枚は「ええお子や」のおことばとともに私の生涯の宝物のなになりそうである。聖子先生のご冥福をお祈り申し上げます。

★今号の巻末に二賞応募用紙がついております。一年間の作品を見直すためにも、ぜひご参加くだ

## ひとこと

出雲から塔を仰ぐ

1月15日には川柳塔本社の「おめでとう会」が盛大に開かれた時代がある。毎年私は早朝松江からバスに乗り参加。途中積雪のため遅刻するがこれも例年の事であった。会場の大阪心斎橋の大成閣に着くと、もう宴会は盛り上がりつつあった。栗主幹始め薫風・大八・小松園・五楽庵・千代・智子、その他諸先生方……。会が終わると楽しい余韻を抱きながらバスに飛び乗り帰路へ。家に着くのは夜半

であつた。

翌朝、ガタガタツと揺れて目が覚めた。あの阪神淡路大震災であつた。あれから二十四年も過ぎたのか。八木千代先生だけが元気だ、大好きな先生方はもういらっしやらない。川柳歴60年、私はずっと川柳塔と共に生きてきたが何処の世界にもあるように、時代の流れを感じている。でもまだ生きている。私の道を歩いて行こう。川柳塔の発展を祈りながら。

(松本文子)

さい。要領は88頁をご参照ください。

★九月号は創刊95周年記念号です。私の編集生活19年の集大成として豪華な執筆陣による特集を予定しております。ご期待ください。

(朱夏)

□「川柳塔すみよし」の句会で、故鶴田遠野さん(前副理事長)の蔵書がご遺族様から届けられた。ダンボール三箱分もあった。「ご自由」という

ことで、私の中から寺尾俊平句文集『獅子の懐』、斉藤劭句集『大地』、いしがみ鉄(川柳研究社)句文集『1／f残響』の三冊をいただいた。いずれも独特の句文集で大いに勉強させてもらった。

□亡くなられた川柳人の貴重な蔵書は、こういう形で、柳友に引き継いでもらうことが一番いいと感じ、私が預かっている故塩満敏さんの蔵書

(勝弘)



## 「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限りです。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から15時までにご利用いたします。

## 作品募集

10月号発表 (8月15日締切)

川柳塔 (8句)  
水煙抄 (8句)  
愛染帖 (2句)  
檸檬抄 (2句)  
インスレーション・ナビ (2句)  
一路集 (2句)  
初歩教室「気まま」 (3句) 高瀬霜石担当

小島蘭幸選  
川上大輪選  
新家完司選  
水野黒兎共選  
鴨谷瑠美子選  
大西泰世選  
吉村久仁雄選  
富永恭子選  
初歩教室「気まま」は11月号発表

11月号  
檸檬抄「降る」  
一路集「ハード」「低い」  
初歩教室「センター」

## 本社8月句会

とき 8月9日(金) 13時開場・13時40分締切  
ところ アウィーナ大阪 4階 金剛の間  
天王寺区石ヶ辻町19-12 電話 06-6772-1441

おはなし「私と川柳」  
兼題「割る」  
席題「国」  
「表」  
「も」  
「位置」

川端六氏選  
大久保眞澄選  
村田博選  
松尾美智代選  
宇都満知子選  
三宅保州選  
小島蘭幸選

会費 1000円  
投句料 500円(切手可)  
(各題2句以内)

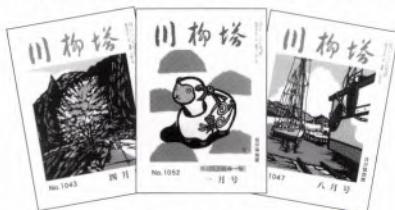
本社9月句会  
6日(金) 午後1時から  
兼題「野菜」「祭り」「ぼとん」  
「残る」「手段」

## 川柳塔WEB句会のご案内

課題「締める」 Sin 共選  
平井美智子  
締切 8月20日 発表 8月25日頃  
投句料 無料  
インターネットで「川柳塔」を検索しWEB句会をクリックしてご投句ください。

〒543-0052  
大阪市天王寺区大田道一1-14-17  
花野ビル201号室  
印刷所 美研アート  
編集人 小島和幸  
発行人 木本朱夏  
発行所 川柳塔社  
電話 06-6779-1349  
振替 0098014198479番

川柳・俳句・エッセイ・小説  
新聞・広告・ポスター・伝票等  
あなたの思いをかたちにします。



## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10  
TEL (06) 4800-3018  
FAX (06) 4800-3028  
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp  
ホームページ <https://www.bikenart.com>  
※事務所移転につき住所・電話番号が変わりました。

川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

オニザキのプレミアムロースト

つぎま

杵つき製法の「すりごま」



袋を開けた瞬間に広がる、

香ばしい薫り。舌と記憶に

しっかりと残る、深いコク。

料理をより美味しくする

ゴマを作りたい、真つすぐな

想いから生まれた逸品。

それが「プレミアムロースト」。

素材本来の良さを余すこと

無く引き出した、オニザキの

自信作をお届けします。



株式会社 オニザキコーポレーションセルス  
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング

TEL 0120-30-5050

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし  
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科  
緩和ケア（ホスピス）  
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>